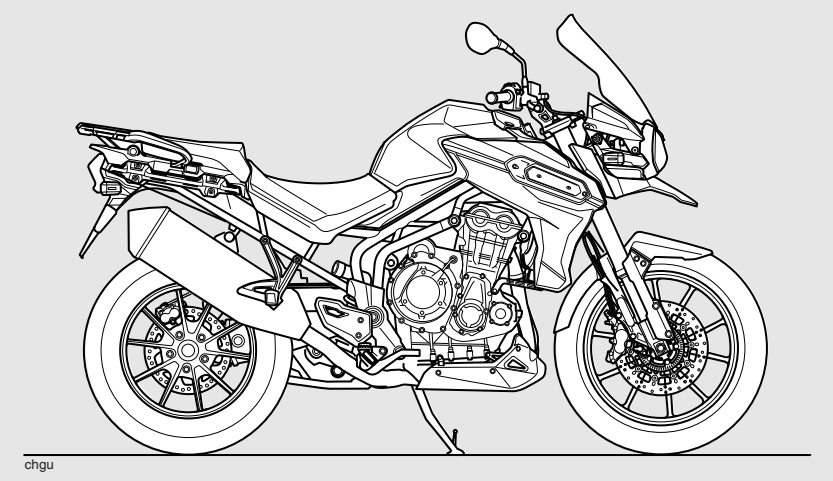
はじめに

本取扱説明書は、Triumph Tiger Explorer について解説したものです。この取扱説明書は必ずモーターサイクルと一緒に保管し、必要に応じて参照してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

⚠ 警告

重要な指示や手順にはこの警告記号が表示されています。警告事項にしたがわないと、ケガをしたり死亡したりする可能性があります。

⚠ 注意

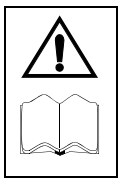
注意が必要な指示や手順にはこの注意記号が表示されています。注意事項を守らないと、機器が損傷したり破損したりする可能性があります。

注記：

- **より効率良く作業を行うためのアドバイスには、この注記記号が表示されています。**

はじめに

警告ラベル



モーターサイクルには、左のようなマークの付いたラベルが貼り付けられている箇所があります。このラベルは、「注意：取扱説明書を参照してください」という意味で、左記マークに続いて該当項目が絵表示されています。

このラベルがある場合は、本取扱説明書に記載されている手順を参照せずにモーターサイクルを運転したり、調整を行なったりすることは絶対にやめてください。

警告ラベルの貼り付け箇所については、*10* ページを参照してください。警告ラベルの内容に関する情報が記載されているページにも、必要に応じて同じマークが表示されています。

整備

お買い求めのモーターサイクルを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、必ず正規 Triumph ディーラーで整備を受けてください。正規 Triumph ディーラーは、ご所有の Triumph モーターサイクルを適切に整備するために必要な知識と設備と技術を持ち合わせています。

最寄りのTriumphディーラーをお探しの場合は、Triumph のウェブサイト、www.triumph.co.uk で検索していただくか、日本国内の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の事項は法律で禁止されている可能性があるため、ご注意ください：

- 最終的な購入者へ販売または納入する前に、あるいは使用中に、整備、修理、交換以外の目的で、騒音防止のために新車に組み込まれている装置やデザイン要素を取り外したり、動作不能にしたりすること、および
- 騒音防止のために新車に組み込まれている装置やデザイン要素が取り外されたり、動作不能になったりしているモーターサイクルを使用すること。

オフロードでの使用

Tiger Explorer は、オンロードおよびライトオフロード走行用に設計されています。

イモビライザーとタイヤ空気圧モニタリングシステム

本装置は FCC 規定パート 15 に準拠しています。

本装置の動作は次の2つの条件に基づきます。

- 本装置が有害な電波障害を引き起こさないこと。
- 本装置が、好ましくない動作を生じさせる可能性のある電波障害を含め、あらゆる受信障害に対応することができること。

本装置に変更や改良を加えた場合は、利用権限が無効となることがあります。

取扱説明書

このたびはTriumphモーターサイクルをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このモーターサイクルは、Triumph社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前にこの取扱説明書をお読みいただき、モーターサイクルの各装置の正しい操作方法、モーターサイクルの特徴、機能、制限について理解を深めてください。

本書には、安全に走行するためのヒントを記載していますが、モーターサイクルを安全に運転するために必要なテクニックやスキルのすべてを網羅しているわけではありません。

Triumph 社は、ライダーの皆様がモーターサイクルを安全に運転できるように、必要なトレーニングを受けていただくことをお勧めしています。

本取扱説明書は以下の言語で発行されており、各国の正規販売店でお求めいただけます。

- オランダ語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- スペイン語
- スウェーデン語

⚠ 警告

この取扱説明書とお買い上げいただいたモーターサイクルに付随しているその他すべての解説書は、モーターサイクルに不可欠なものです。後にモーターサイクルを売却する場合も、必ずモーターサイクルと一緒に引き渡してください。

ライダーの皆様には、モーターサイクルの各装置の正しい操作方法、モーターサイクルの特徴、機能、制限について理解を深めていただくために、モーターサイクルと共にお届けしたこの取扱説明書とその他すべての解説書を走行前にお読みいただく必要があります。モーターサイクルの各装置、特徴、機能、制限を熟知せずに走行すると事故につながる危険がありますので、モーターサイクルをみだりに他人に貸してはいけません。

Triumph へのご意見

お客様に Triumph をご購入頂いた後も、当社はお客様との関わりを大切にしています。当社製品をご購入およびご使用頂いたお客様からのご意見やご感想は、当社の製品開発とサービス向上において欠かすことができないものです。是非、正規販売店にお客様のメールアドレスをご登録頂き、お客様の声をお聞かせください。ご登録頂いたメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査のご案内を送信させていただきます。ご意見・ご感想をお待ちしております。

Triumph チームより。

はじめに

本書の情報について

本書に記載されている情報は、発行時における最新情報に基づいています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務も負うことなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なしに、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 11.2011 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England.

出版部品番号 3854385 第１版。

目次

本取扱説明書は、各章に分かれています。下記の目次に示されているページ数は、各章の先頭ページです。説明する項目が多い章には、その章の先頭ページにより詳細な目次が記載されていますので、必要な情報をすぐに見つけることができます。

はじめに *1*

警告ラベル *10*

部品の名称 *12*

シリアル番号 *15*

一般情報 *17*

モーターサイクルの運転 *71*

アクセサリー、積載条件、同乗者 *83*

整備と調整 *87*

保管 *133*

仕様 *135*

はじめに－安全第一

モーターサイクル

⚠ 警告

Tiger Explorer は、オンロードおよびライトオフロード走行用に設計されています。過酷なオフロード走行をした場合、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターサイクルは、トレーラーを牽引したり、サイドカーを取り付けたりするようには設計されていません。サイドカーおよび/またはトレーラーを取り付けると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターサイクルは、ライダーが単独で、またはライダーと同乗者一人が乗車できる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、同乗者、アクセサリー、荷物の総重量が 、最大車載限度 222 kg を超過してはなりません。

⚠ 警告

本モーターサイクルのエンジン下方には触媒コンバーターが取り付けられており、エンジン作動中は、排気装置とともに触媒コンバーターも非常に高温に達します。排気装置や触媒コンバーターのいずれかの部位に、草、干し草、わら、葉、衣類や荷物といった可燃物が接触すると、発火する恐れがあります。排気装置や触媒コンバーターには、可燃物を絶対に接触させないでください。

燃料と排気ガス

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です。

給油の際は必ずエンジンを停止させてください。

喫煙中や、あるいは付近に火気のある所では、給油したり燃料フイラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管またはサイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり吸い込んだりした場合、またはガソリンが目に入った場合は、ただちに医師の手当を受けてください。

皮膚に付いた場合はすぐに石鹸水で洗い落とし、ガソリンで汚れた衣服は、ただちに脱いでください。

ガソリンに触れると、火傷や深刻な皮膚疾患を引き起こす場合があります。

⚠ 警告

閉め切った場所では、エンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけたままにしてはいけません。排気ガスは有毒です。短時間の内に意識を失い、死に至る可能性があります。モーターサイクルは必ず、屋外または換気の良い所で作動させてください。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モーターサイクルに乗るときは、ライダーも同乗者も、バイク用のヘルメット、防護メガネ、手袋、ズボン（膝と足首まわりがぴったりしたもの）、鮮やかな色のジャケットを必ず着用してください。鮮やかな色の衣服を着ると、他の車の運転者がライダー（または同乗者）に気付きやすくなります。適切な防護服を着用したからといって、ライダーや同乗者を完璧に保護することは不可能ですが、走行中に負傷する危険性を低減することができます。

⚠ 警告

ライディング装備の中で最も重要な装備のひとつが、頭部を負傷から守ってくれるヘルメットです。ライダーも同乗者も、自分の頭にぴったりフイットするかぶり心地の良いヘルメットを慎重に選んでください。鮮やかな色のヘルメットを着用すると、他の車の運転者がライダー（または同乗者）に気付きやすくなります。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも多少の防護効果はありますが、フルフェースヘルメットの方がより安全です。

視界を確保し目を保護するために、バイザーや認定ゴーグルを必ず着用してください。

cbma

駐車

⚠ 警告

モーターサイクルから離れるときは、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、無断でモーターサイクルを使用されたり、運転経験の浅い人にモーターサイクルを使用されたりする危険性を低減することができます。

モーターサイクルを駐車するときは、必ず以下の点にご注意ください：

モーターサイクルがスタンドから外れないようにギアを 1 速に入れます。

走行後は、エンジンと排気装置が高温になっています。歩行者や動物および / または子供がモーターサイクルに触れる可能性がある場所には駐車してはいけません。

地面が柔らかい場所や、急斜面にも駐車してはいけません。そのような場所に駐車すると、モーターサイクルが転倒する恐れがあります。

詳しくは、本取扱説明書の「モーターサイクルの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

⚠ 警告

Triumph によって正式に認可され、正規販売店によってTriumphモーターサイクルに取り付けられるのは、Triumph モーターサイクル用として承認されている部品、アクセサリー、改造品だけであることをご承知ください。

特に、電気系統や燃料系統を取り外す必要がある場合、あるいは電気系統や燃料系統に部品やアクセサリーを取り付ける必要がある場合の取り付け作業や交換作業は非常に危険です。そういった改造を行うと、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

認可されていない部品やアクセサリーや改造品を取り付けると、操縦性、安定性、あるいは他の面でモーターサイクルの作動に悪影響を及ぼし、負傷事故や死亡事故を引き起こす危険があります。

認可されていない部品やアクセサリーや改造品の取り付けによって起きた故障、または認可されている部品やアクセサリーや改造品を認可されていない者が取り付けたために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

整備 / 装備

⚠ 警告

このTriumphモーターサイクルが正しく安全に動作しているか不安に感じることがあれば、いつでも正規　Triumphディーラーにご連絡ください。

正しく機能していないモーターサイクルを操縦し続けると、故障が悪化し、安全性も損なわれます。

⚠ 警告

法律で規定された機器がすべて装備され、それらの機器が正しく機能していなければなりません。モーターサイクルのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合があります。誤った改造や不適切な改造を行うと、操縦性、安定性、あるいは他の面でモーターサイクルの作動に悪影響を及ぼし、負傷事故や死亡事故を引き起こす危険があります。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後または眠気を催すような薬を服用したときは、決してモーターサイクルを運転してはなりません。

アルコールや薬の影響が残っている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや薬の影響が残っている状態で運転すると、ライダーが思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

路面の状態、交通状況、風の状態の変化に常に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こす可能性のある外的要因に常にさらされています。そのような外的要因の例として以下のようなものがあります。

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、でこぼこ道、損傷した路面
- 悪天候
- ライダーのミス。

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のある速度でモーターサイクルを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはいけません。

ハンドルとフットレスト

⚠ 警告

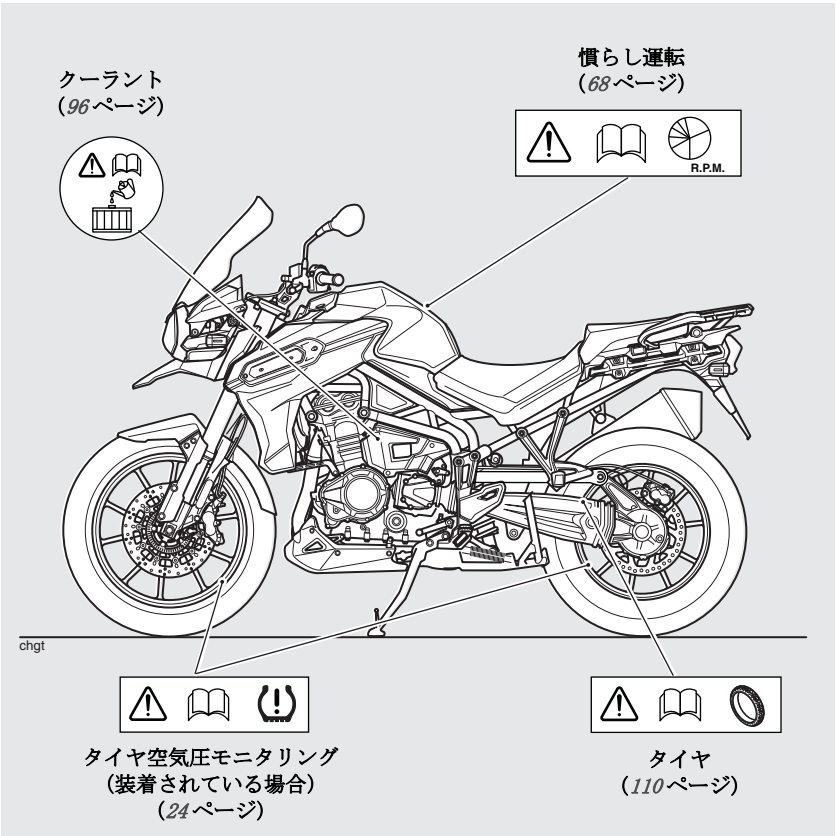
ライダーは、常に両手でハンドルを握ってモーターサイクルを操縦しなければなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターサイクルの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

警告ラベル

本ページと次ページに詳述されているラベルは、安全に関する重要な情報が本取扱説明書に記載されていることを示すために貼られています。ライダーの皆様は、運転前にこれらのラベルに関連する情報をよく理解し、順守するようにしてください。

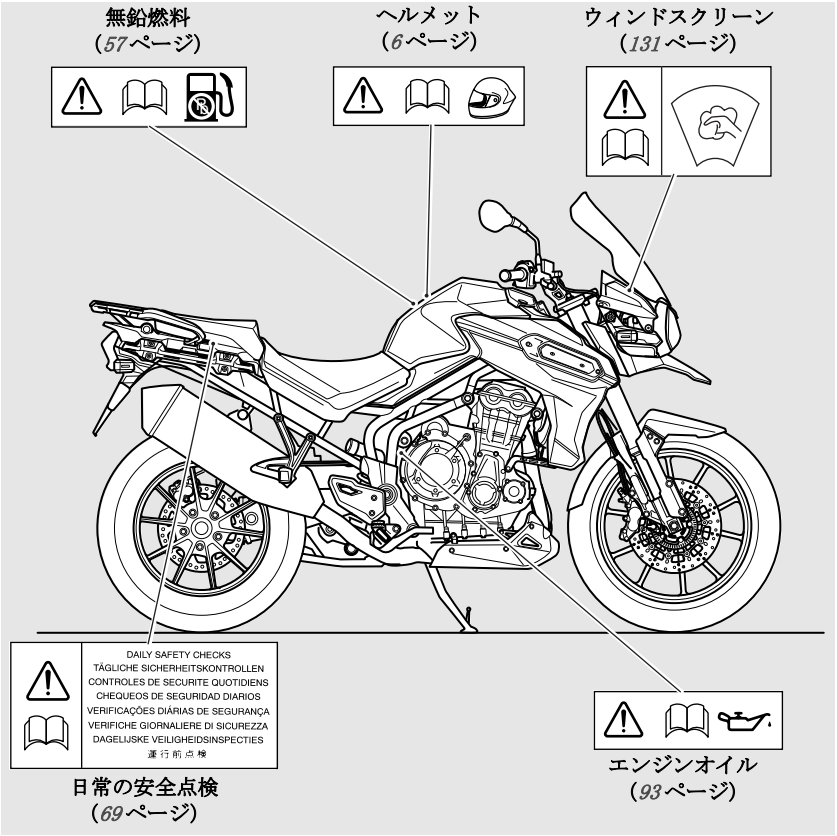
警告ラベルの位置 - Tiger Explorer



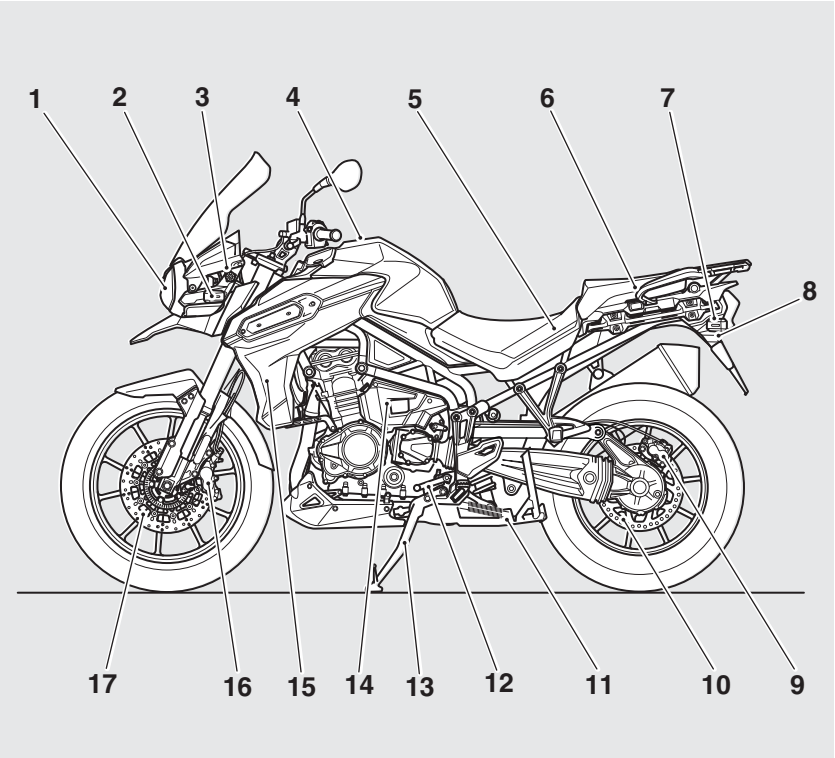
警告ラベルの位置 - Tiger Explorer（続き）

⚠ 注意

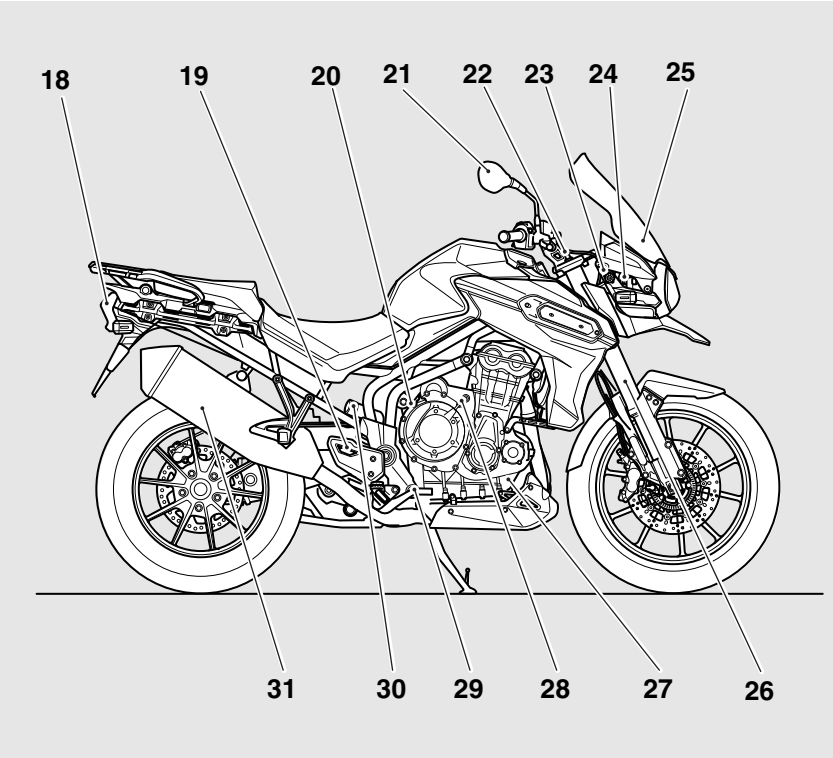
慣らし運転のラベル以外の警告ラベルやステッカーは、強力な接着剤でモーターサイクルに貼り付けてあります。場合によっては、ペイントラッカーを塗布する前にラベルが貼り付けられていることもあります。そのため、警告ラベルをはがそうとすると、塗装面や車体を損傷する恐れがあります。



部品の名称

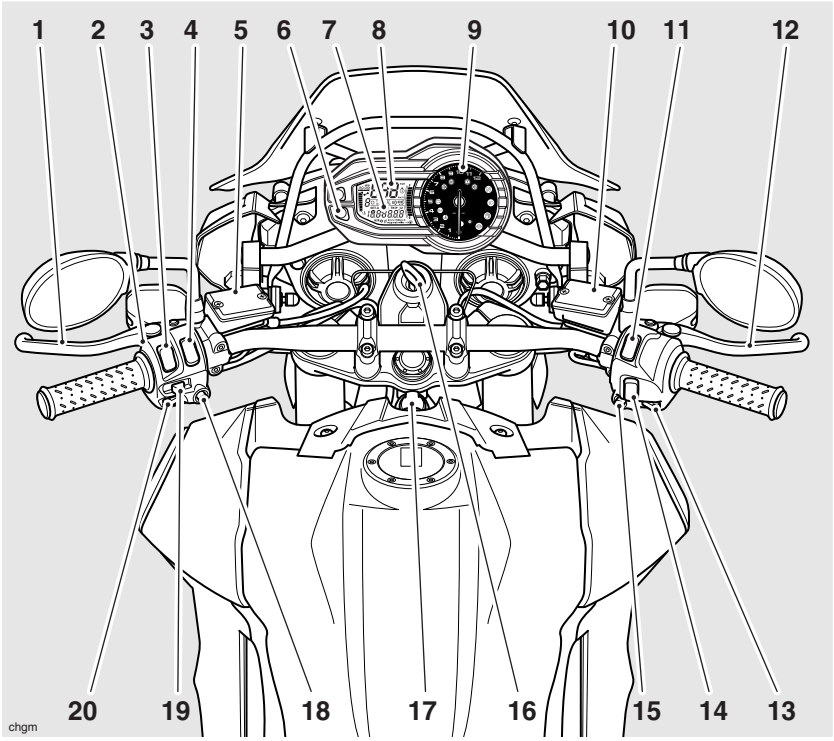


1. ヘッドライト
2. フロントインジケーター
3. 左側ウィンドスクリーンアジャスター
4. 燃料タンクおよび燃料フィラーキャップ
5. バッテリーおよびヒューズボックス
6. ツールキット / アクセサリーUロック保管場所
7. リアインジケーター
8. シートロック
9. リアブレーキキャリパー
10. リアブレーキディスク
11. センタースタンド
12. ギアチェンジペダル
13. サイドスタンド
14. クーラント膨張タンク
15. ラジエターカウル
16. フロントブレーキキャリパー
17. フロントブレーキディスク



18. リアライト
19. リアブレーキフルードリザーバ
20. オイルフィラーキャップ
21. ミラー
22. フロントフォークアジャスター
23. 右側ウィンドスクリーンアジャスター
24. ヘッドライトアジャスター
25. スクリーン
26. フロントフォーク
27. エンジンオイルレベルサイトグラス
28. クラッチライン
29. リアブレーキペダル
30. リアサスペンションスプリングプリロードアジャスター
31. サイレンサー

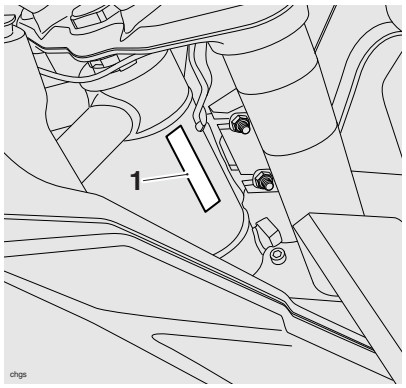
部品の名称



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ヘッドライトディップスイッチ
4. 計器スクロールボタン
5. クラッチフルードリザーバ
6. ハザードライトボタン
7. トリップコンピューター表示部
8. スピードメーター
9. タコメーター
10. フロントブレーキフルードリザーバ
11. エンジンストップスイッチ
12. フロントブレーキレバー
13. スターターボタン
14. クルーズコントロール調整ボタン
15. クルーズコントロールオン / オフボタン
16. イグニッションスイッチ
17. 電動アクセサリー用ソケット
18. 計器セットボタン
19. 方向指示器スイッチ
20. ホーンボタン

シリアル番号

車体識別番号（VIN）

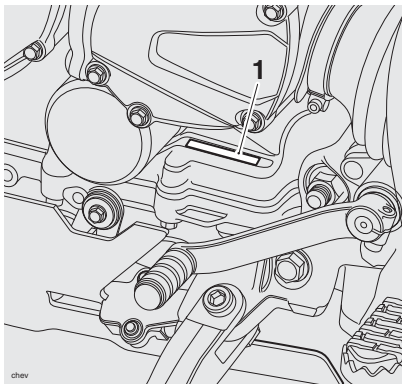


1. VIN ナンバー

車体識別番号（VIN）は、フレームのステアリングヘッドエリアに刻印されています。また、ライダーシートの下のフレーム左側にリベットで留めてあるプレートにも表示されています。

下の空欄に車体識別番号を記入しておいてください。

エンジンシリアル番号



1. エンジンシリアル番号

エンジンシリアル番号は、ギアボックスのすぐ下の、エンジンクランクケースに刻印されています。

下の空欄にエンジンシリアル番号を記入しておいてください。

シリアル番号

このページは意図的に空白にしてあります

一般情報

目次

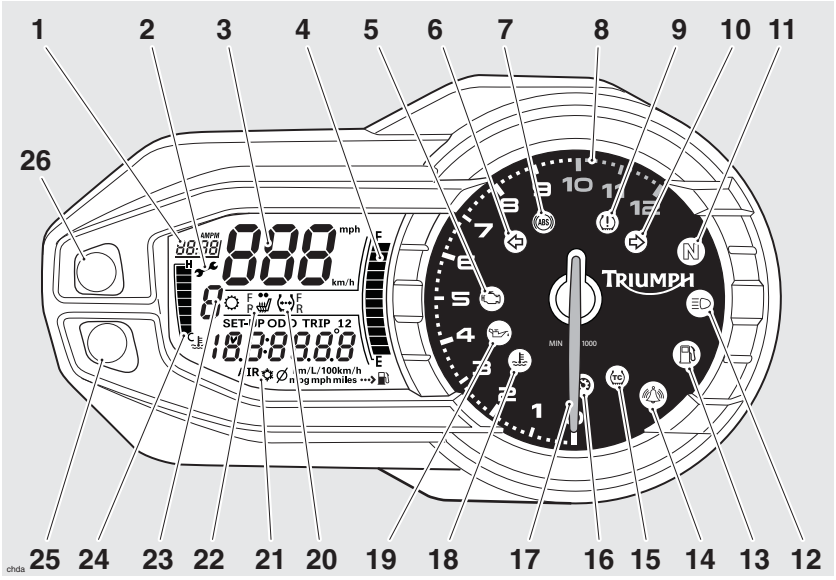
計器盤のレイアウト 20
スピードメーターとオドメーター 21
タコメーター 21
トリップコンピューター 21
オドメーター / トリップメーター 22
トリップメーター 22
トリップメーターのリセット 23
気温 24
タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) - 装着されている場合 24
機能 24
TPMS センサー ID 番号 25
TPMS 表示部 26
センサーバッテリー 26
TPMS マーク 26
タイヤ空気圧 27
タイヤの交換 27
セットアップメニュー 27
Service. 27
Auto - 方向指示器の自動停止. 28
単位の変更 (帝国、米国、メートル). 29
時計の調整 30
Triumph トラクションコントロール - 装着されている場合 31
Triumph トラクションコントロールの設定 32
ABS の解除 33
Return 表示 33
点検間隔インジケーター 34
バッテリー低下の警告 34
ギアポジション表示 35
クーラント温度計 36
燃料計 36
シートヒーター - 装着されている場合 37

一般情報

警告灯 38
方向指示灯 38
ハイビーム 38
燃料低下 38
ニュートラル 38
油圧 / 油量低下警告灯 38
クーラント過熱警告灯 39
エンジン管理システム誤動作表示灯 40
アラーム / イモビライザー作動状態表示灯 40
タイヤ空気圧警告灯 41
低温マーク 42
トラクションコントロール警告灯 - トラクションコントロール装着の場合 43
クルーズコントロールライト 44
イグニッションキー 44
イグニッションスイッチ / ステアリングロック 45
エンジンイモビライザー 45
イグニッションスイッチポジション 46
ブレーキとクラッチレバーアジャスター 47
右ハンドルスイッチ 48
エンジンストップスイッチ 48
スターターボタン 48
クルーズコントロールオン / オフボタン 48
クルーズコントロール調整ボタン 49
左ハンドルスイッチ 49
ヘッドライトディップスイッチ 49
方向指示器スイッチ 50
ハザードライト 50
ホーンボタン 50
パスボタン 51
計器スクロールボタン 51
計器セットボタン 51
フロントフォグランプスイッチ（装着されている場合） 51
スロットルコントロール 52
ブレーキの使用 52

クルーズコントロール 53
クルーズコントロールの作動 54
クルーズコントロール設定速度の復帰 55
クルーズコントロール中の加速 56
クルーズコントロール中の減速 56
クルーズコントロールの解除 56
燃料の条件 / 燃料補給 57
燃料の等級 57
フューエルタンクキャップ 58
燃料タンクへの給油 58
ツールキット、取扱説明書と Triumph アクセサリー D ロック 59
スタンド 59
サイドスタンド 59
センタースタンド 60
シート 61
シートケア 61
リアシート 61
ライダーシート 62
ライダーシートの高さ調整 63
ヘルメットフック 64
Triumph アクセサリー D ロック保管場所 64
電動アクセサリー用ソケット 65
ハンドル調整 65
ウィンドスクリーン 67
慣らし運転 68
安全運転 69
日常の安全点検 69

計器盤のレイアウト



1. 時計
2. 点検間隔インジケーター
3. スピードメーター
4. 燃料計
5. エンジン管理システム誤動作表示灯
6. 左側の方向指示灯
7. ABS 警告灯
8. タコメーター「レッドゾーン」
9. タイヤ空気圧警告灯（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
10. 右側の方向指示灯
11. ニュートラル表示灯
12. ハイビーム表示灯
13. 燃料レベル低下表示灯
14. アラーム / イモビライザー作動状態表示灯（アラームは取付アクセサリー）
15. トラクションコントロール警告灯（トラクションコントロール装着の場合）
16. クルーズコントロールライト
17. タコメーター
18. クーラント過熱警告灯
19. 油圧 / 油量低下警告灯
20. タイヤ空気圧表示マーク（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
21. 低温マーク
22. シートヒーターマーク（シートヒーター装着の場合）
23. 選択ギア
24. クーラント温度計
25. ハザードライトボタン
26. ホームボタン

スピードメーターとオドメーター

デジタルスピードメーターは、モーターサイクルの走行速度を表示します。走行速度は 1 km/h 単位で表示されます。

画面には、電子オドメーターとトリップメーター1 または 2 が表示されます。オドメーターとトリップメーターの使い方については、次ページ以降を参照してください。

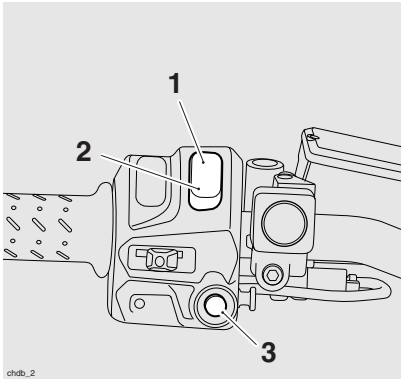
タコメーター

タコメーターは、エンジンの 1 分間当たりの回転数を rpm (r/min) の単位で表示します。タコメーターには「レッドゾーン」という領域があります。レッドゾーンは、1 分間当たりのエンジン回転数 (r/min) が推奨領域の上限、つまりエンジン性能を十分に発揮できる領域を超えていることを示しています。

⚠ 注意

エンジンに深刻な損傷を与える可能性があるため、絶対にレッドゾーンまでエンジン回転速度を上げてはいけません。

トリップコンピューター



1. スクロールボタンの上部
2. スクロールボタンの下部
3. セットボタン

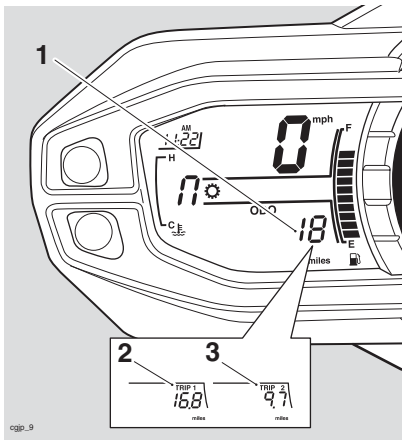
トリップコンピューターの情報を表示するには、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを、確認したい項目が表示されるまで繰り返し押します。下記の項目が順番に表示されます。

- トリップメーター 1
- トリップメーター 2
- 気温
- タイヤ空気圧モニタリングシステム – 装着されている場合
- セットアップ

注記：

- **タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) は、正規 Triumph ディーラーに取り付けを依頼しなければならないアクセサリーです。取り付け後、正規 Triumph ディーラーが TPMS 表示部を起動させます。**

オドメーター / トリップメーター



1. **オドメーター / トリップメーター表示部**
2. **トリップメーター 1 の表示**
3. **トリップメーター 2 の表示**

トリップメーター

トリップメーター1 または 2 に、モーターサイクルの走行距離、走行時間、平均燃料消費量、瞬間燃料消費量、平均速度が表示されます。いずれも、各表示を前回ゼロにリセットした後から現在までの数値を示します。

トリップメーターの情報を表示するには、まずイグニッションをオンポジションにします。確認したいトリップメーターが画面に表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

次に、確認したい項目が画面に表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるスクロールボタンを繰り返し押します。スクロールボタンの上部を押すと、表示が以下の順番で切り替わります （スクロールボタンの下部を押すと、表示が以下の順番の逆順で切り替わります。）

- オドメーター
- クルーズコントロール
- 平均速度
- 瞬間燃料消費量
- 平均燃料消費量
- 走行時間
- 残燃料ゼロまでの可航距離
- 走行距離。

各表示についての詳細は次のとおりです。

オドメーター

モーターサイクルの積算走行距離が表示されます。

クルーズコントロール

クルーズコントロールを作動させると、クルーズコントロールの設定走行速度が表示されます。クルーズコントロールが作動していない場合は、ダッシュ記号が 2 個表示されます。

平均速度

トリップコンピューターを前回リセットしたときからの平均速度が計算されます。リセットした後から 1 km 走行し終わるまでは、ダッシュ記号が表示されます。

瞬間燃料消費量

瞬間ごとの燃料消費量が表示されます。

平均燃料消費量

平均燃料消費量が表示されます。リセットした後から 0.1 km 走行し終わるまでは、ダッシュ記号が表示されます。

走行時間

トリップメーターを前回ゼロに設定してから経過した時間が表示されます。

残燃料ゼロまでの可航距離

タンクに残っている燃料で走行可能と思われる距離が表示されます。

走行距離

トリップメーターを前回ゼロに設定してから走行した距離が表示されます。

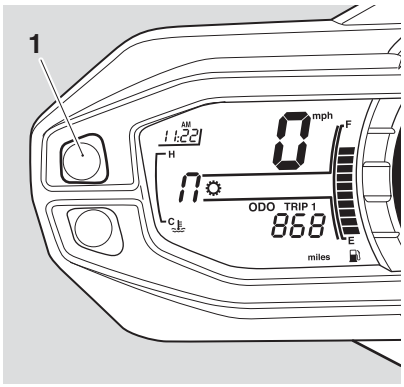
トリップメーターのリセット

トリップメーター1 または 2 をリセットするには、リセットしたいトリップメーターを選択して画面に表示させてから、セットボタンを 2 秒間押します。2 秒後、表示されているトリップメーターがゼロにリセットされます。

注記：

- **トリップメーターをゼロにリセットすると、リセットしたトリップメーターの走行時間、平均燃費消費量、平均速度もゼロにリセットされます。**

トリップメーター表示を終了するときはホームボタンを押します。そうするとトリップ1のオドメーターが画面に表示されます。



1. ホームボタン

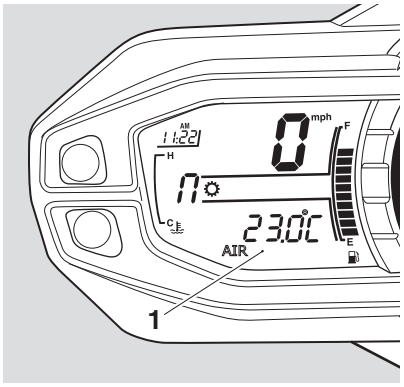
気温

気温を選択すると、大気温度が° C または ° F で表示されます。

気温を表示するには、まずイグニッションをオンポジションにします。

画面に AIR と表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

気温表示を終了するときはホームボタンを押します。そうするとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。



1. 気温° C

温度の単位を ° C または ° F に変更する手順は、*29* ページの「単位の変更」を参照してください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) - 装着されている場合

⚠ 警告

TPMS が装着されていても、日常的なタイヤ空気圧点検を怠ってはいけません。正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ冷間時に空気圧を測定してください（*111* を参照）。

TPMS を使用してタイヤ空気圧を設定してしまうと、空気圧を正しく設定できず、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

機能

前輪と後輪にタイヤ空気圧センサーが取り付けられています。これらのセンサーによってタイヤ内部の空気圧が測定され、各計器に空気圧のデータが送信されます。モーターサイクルの走行速度が20 kmを超えないと、センサーから空気圧のデータは送信されません。タイヤ空気圧の信号を受信するまでは、画面にダッシュ記号が 2 個表示されます。

タイヤ空気圧センサーはバルブの近くに取り付けられており、その取付位置を示すラベルが、ホイールリムに貼り付けられています。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを装着していないモーターサイクルの場合：
タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) は、アクセサリーとして装着できますが、必ず正規 Triumph ディーラーに取り付けを依頼してください。タイヤ空気圧モニタリングシステム を取り付けなければ、計器盤の TPMS 表示部は起動しません。

TPMS センサー ID 番号

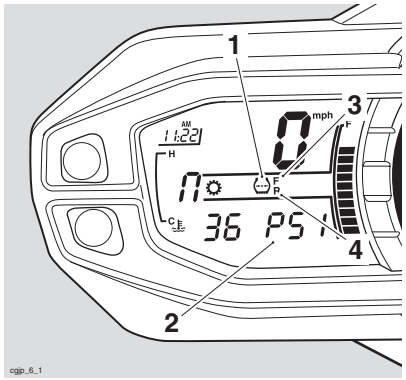
各タイヤ空気圧センサーの ID 番号は、センサーに貼り付けられているラベルに印字されています。正規販売店での点検時および診断時に、この ID 番号が必要になることがあります。

TPMS が工場で取り付けられた場合は、フロントとリアのタイヤ空気圧センサーの ID 番号が印字されたラベルがそれぞれ以下の空欄に貼り付けられています。

TPMS をアクセサリーとして取り付ける場合は、正規販売店でフロントとリアのタイヤ空気圧センサーの ID 番号を以下の空欄に記入してもらってください。

フロント センサー	リアセン サー

TPMS 表示部



1. TPMS マーク
2. タイヤ空気圧の表示
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ

タイヤ空気圧を表示するには、まずイグニッションをオンポジションにします。

「PSI」または「bAr」が画面に表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

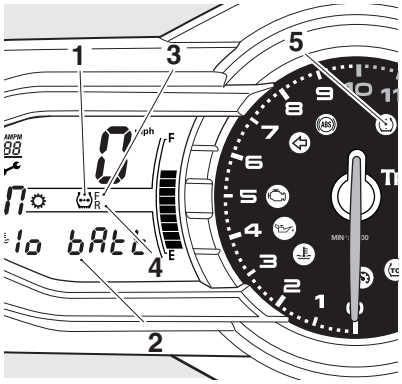
次にスクロールボタンを繰り返し押して、前輪または後輪のタイヤ空気圧を選択します。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを選択すると、モーターサイクルの走行速度が 20 kmを超えてタイヤ空気圧の信号が受信されるまでの間、画面には －－「PSI」または 「bAr」と表示されます。

タイヤ空気圧表示を終了するときはホームボタンを押します。そうするとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

センサーバッテリー

空気圧センサーのバッテリー電圧が低い場合は、「lo bAtt」が 8 秒間表示され、どちらの空気圧センサーのバッテリー電圧が低いのかが TPMS マークによって表示されます。バッテリーが完全に消耗している場合は、画面にダッシュ記号だけが表示され、TPMS 警告灯が赤く点灯し、TPMS マークが点滅し続けます。正規 Triumph ディーラーに連絡してセンサーを交換してもらい、新しいシリアル番号を *25* ページの空欄に記入してもらってください。



1. TPMS マーク
2. 表示画面
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. TPMS 警告灯

TPMS マーク

イグニッションスイッチがオンポジションの状態で、TPMS マークが 10 秒間点滅し、その後点灯したままとなる場合は、TPMS システムの故障です。正規 Triumph ディーラーに故障修理を依頼してください。

タイヤ空気圧

計器盤に表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時点の空気圧です。タイヤが運転中に温められるとタイヤ内の空気が膨張して空気圧が上がるため、タイヤ冷間時に設定した空気圧と表示された空気圧が異なる場合があります。Triumph 社は、このような空気の膨張を考慮して冷間時のタイヤ空気圧を規定しています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して必ず冷間時に行ってください（*111* ページを参照）。計器盤に表示された空気圧を見て調整してはいけません。

⚠ 警告

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤ空気圧を調整するときにタイヤ空気圧ゲージとして使用するものではありません。タイヤ空気圧を正しく設定するには、必ず正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ冷間時に空気圧を測定してください（*111* を参照）。

TPMS を使用してタイヤ空気圧を設定してしまうと、空気圧を正しく設定できず、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの交換

タイヤを交換する際は、必ず正規 Triumph ディーラーにタイヤを取り付けてもらってください。また、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることをディーラーに伝えてください（*114* ページを参照）。

セットアップメニュー

セットアップメニューを表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチのセットボタンを繰り返し押します。

該当する画面が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。スクロールボタンの上部を押すと、表示が以下の順番で切り替わります （スクロールボタンの下部を押すと、表示が以下の順番の逆順で切り替わります。）

- Service
- Auto – 方向指示器の自動停止
- Units – 単位の変更（帝国、米国、メートル）
- t-set – 時計の調整
- ttc – Triumph トラクションコントロール（装着されている場合）
- ABS。

各表示についての詳細は次のとおりです。

Service

次回点検までの走行距離が表示されます（*34* ページを参照）。

Auto – 方向指示器の自動停止

この Triumph モデルには、方向指示器の自動停止機能があり、自動停止の設定をオフにしたりオンにしたりすることができます。

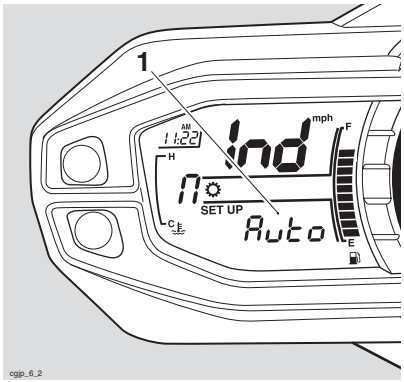
方向指示器の自動停止機能をオフまたはオンするには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチのセットボタンを繰り返し押します。

次に、「Auto」または「MAnUAL」と表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。

セットボタンを押すと、「Auto」または「MAnUAL」が点滅します。

スクロールボタンを押して「Auto」または「MAnUAL」を選択してから、セットボタンを押します。

- Auto – 方向指示器の自動停止機能がオンの状態です（*50*ページを参照）。
- MAnUAL – 方向指示器の自動停止機能がオフの状態です。方向指示器を手動で停止する必要があります（*50*ページを参照）。



1. Auto 選択時

自動停止の表示を終了するときはホームボタンを押します。そうするとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

単位の変更（帝国、米国、メートル）

以下のように4種類の単位を選択することができます。

- mpg – 英ガロン
- mpg US – 米ガロン
- L/100 km – メートル法
- km/L – メートル法。

各表示についての詳細は次のとおりです。

mpg（英ガロン）

スピードメーターとオドメーターがマイル表示になります。燃料消費量は英ガロンで表示されます。

mpg US（米ガロン）

スピードメーターとオドメーターがマイル表示になります。燃料消費量は米ガロンで表示されます。

L/100 km（メートル法）

スピードメーターとオドメーターがキロメートル表示になります。燃料消費量は100 km の走行で何リットルの燃料を消費したかの値で表示されます。

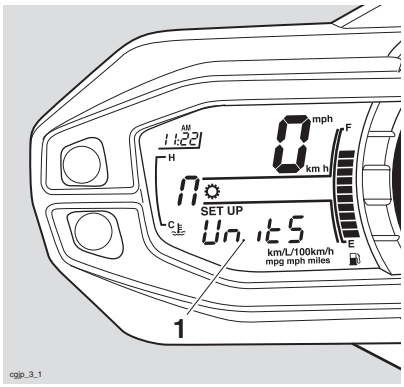
km/L（メートル法）

スピードメーターとオドメーターがキロメートル表示になります。燃料消費量は燃料1リットル当たりの走行キロで表示されます。

単位の画面を表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、イグニッションをオンポジションにします。

画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

UnitS と表示されるまでスクロールボタンを押したら、セットボタンを押します。



1. 表示画面

該当する画面が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。スクロールボタンの上部を押すと、表示が以下の順番で切り替わります （スクロールボタンの下部を押すと、表示が以下の順番の逆順で切り替わります。）

- mpg – 英ガロン
- km/L – メートル法
- L/100 km – メートル法
- mpg US – 米ガロン。

TPMS を装着していないモデル： セットボタンを押します。° C または ° F が表示されるまでは、スクロールボタンにもセットボタンにも触れてはいけません。希望する温度単位が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。セットボタンを押したら、画面に UnitS と表示されるまで待ちます。UnitS が表示されたらホームボタンを押します。そうするとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

TPMS を装着したモデル： セットボタンを押します。PSI または bAr と表示されるまでは、スクロールボタンにもセットボタンにも触れてはいけません。希望する空気圧単位が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。セットボタンを押したら、° C または ° F が表示されるまで待ちます。希望する温度単位が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。セットボタンを押したら UnitS と表示されるまで待ち、その後ホームボタンを押します。そうするとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

時計の調整

時計を設定するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、イグニッションをオンポジションにします。画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。t-SEt と表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。

セットボタンを再度押すと、24 時間表示または 12 時間表示の時計が表示されます。スクロールボタンを押して希望する時計表示を選択したら、セットボタンを押します。時刻表示が点滅し、画面に Hour と表示されます。

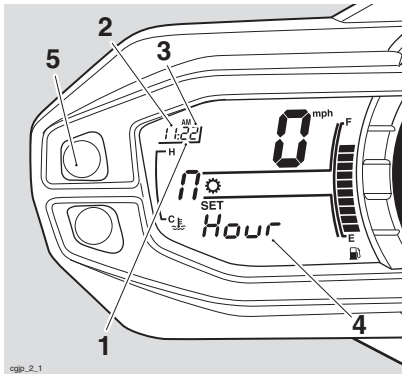
注記：

- **スクロールボタンの上部を押すと時刻 / 分の表示が進み、スクロールボタンの下部を押すと時刻 / 分の表示が戻ります。**

時刻表示を設定するには、まず、時刻表示が点滅したままの状態であることと、画面に Hour と表示されていることを確かめます。スクロールボタンを押して時刻を変更します。スクロールボタンを 1 回押すごとに、1 時間ずつ表示が変わります。スクロールボタンを押したままにすると、表示が連続して 1 時間ずつ進みます。

正しい時刻が表示されたら、セットボタンを押します。分表示が点滅を開始し、画面に Min と表示されます。分表示は、時刻表示と同じ手順で調節します。

時刻と分を両方とも設定したら、セットボタンを押して設定を確認します。画面には t-SEt と表示されます。ホームボタンを押すとトリップ1のオドメーターが画面に表示されます。



1. **時計表示部**
2. **時**
3. **分**
4. **表示画面（Hour 選択時）**
5. **ホームボタン**

Triumph トラクションコントロール - 装着されている場合

⚠ 警告

Triumph トラクションコントロールが装着されていても、道路条件や気象条件に合わせて走行することが不要になるわけではありません。以下の場合は、トラクションコントロールでトラクションの損失を防ぐことはできません。

- コーナー進入時に速度が出すぎている場合
- 急傾斜での加速時
- 制動時。

トラクションコントロールでは、前輪のスリップを防止することはできません。

上記の警告にしたがわない場合は、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

このTriumphモデルにトラクションコントロールが装着されている場合は、濡れた路面や滑りやすい路面で加速するときにも、トラクションを確保しやすくなります。後輪のトラクションが失われた（スリップした）ことをセンサーが検知すると、トラクションコントロールシステムが作動し、後輪のトラクションが復帰するまでエンジン出力を制御します。トラクションコントロールシステムが作動している間は、トラクションコントロール警告灯が点滅し、ライダーにもエンジン音の変化が分かることがあります。

注記：

ABS システムが故障している場合は、トラクションコントロールが機能しません。ABS警告灯とトラクションコントロール警告灯と MIL 警告灯が点灯します。

Triumph トラクションコントロールの設定

⚠ 警告

モーターサイクルの走行中にトラクションコントロールの設定を調整してはいけません。モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

Triumph トラクションコントロールは、以下のいずれかの条件に設定できます。

- 「01」 - 後輪のスリップレベルが低いときにトラクションコントロールが作動します。
  警告灯は点灯しませんが、トラクションコントロールが後輪のスリップを抑えるために作動すると、警告灯が点滅します。
- 「02」- 熟練ライダー向きです。後輪のスリップレベルが高いときにトラクションコントロールが作動します。
  警告灯はゆっくりと点滅し続けますが、トラクションコントロールが後輪のスリップを抑えるために作動すると、素早い点滅に切り替わります。
- 「oFF」- トラクションコントロールが解除されていて、警告灯が点灯したままになります。

⚠ 警告

トラクションコントロールを解除した場合は、トクションコントロールなしで、モーターサイクルは通常どおり操縦できます。その場合、濡れた路面や滑りやすい路面で急加速をすると、後輪がスリップし、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

トラクションコントロールの設定画面を表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、イグニッションをオンポジションにします。

画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

「ttc」と表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。

セットボタンを押すと、「01」、「02」または「oFF」と表示されます。

希望する設定条件が表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。セットボタンを押したら、希望する設定条件の点滅が停止するまで、スクロールボタンにもセットボタンにも触れてはいけません。

ホームボタンを押すとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

Triumph トラクションコントロールの設定は、イグニッションをオフしてから再びオンすると「01」の設定に戻ります。

ABS の解除

ABS システムは、一時的に解除することができます。ABS システムを解除したままにすることはできません。イグニッションをオフしてから再びオンすると、自動的にABS システムが有効な状態になります。

⚠ 警告

ABS が解除されている場合は、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして機能します。その場合、急ブレーキをかけるとホイールがロックされ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABS 解除方法

ABS 解除画面を表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルにした状態で、イグニッションをオンポジションにします。

画面に「SEtUP」と表示されるまで、左側のハンドルスイッチにあるセットボタンを繰り返し押します。

AbS と表示されるまで、スクロールボタンを繰り返し押します。

セットボタンを押すと、「on」または「oFF」と表示されます。

「oFF」と表示されるまでスクロールボタンを繰り返し押します。

セットボタンを押すとABSシステムが解除されます。ABS OFF のメッセージが 2 秒間表示され、ABS 警告灯が点灯します。

注記：

- **ABS を解除した状態でも、トラクションコントロールは機能します。**

ABS 復帰方法

ABS システムの復帰手順は、ABS 解除手順とほぼ同じです。ただし、「on」を選択します。

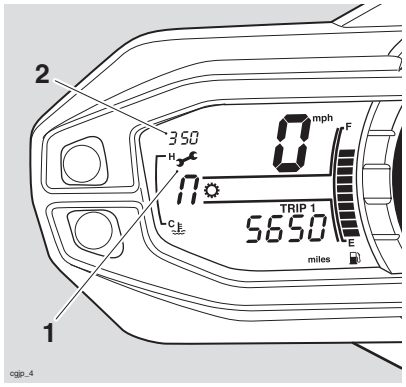
ホームボタンを押すとトリップ 1 のオドメーターが画面に表示されます。

または、イグニッションをオフしてから再びオンしても、ABS を復帰させることができます。

Return 表示

画面に return と表示されているときにホームボタンを押すと、トリップ 1 の表示に戻ります。

点検間隔インジケーター



1. 点検インジケーター
2. 点検までの走行距離

イグニッションスイッチをオンしたときに、次回の点検までの距離が800 kmを切った場合、点検マークが 3 秒間表示され、次回点検までの走行距離が時計表示部に表示されます。

点検までの走行距離が 0 km になると、正規Triumphディーラーが点検を実施してシステムをリセットするまで、点検マークが表示されたままになります。点検予定の走行距離を超えると、走行距離がマイナス表示されます。

バッテリー低下の警告

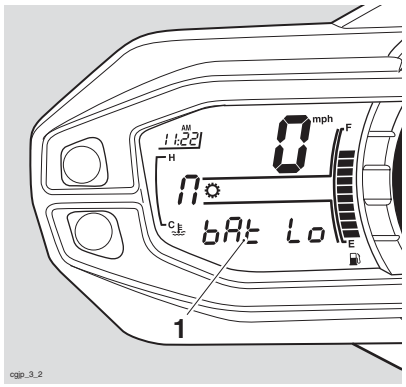
シートヒーター、ヒートグリップ、フォグランプといったアクセサリーを装着し、エンジンをアイドリング状態にしてそれらのアクセサリーの電源を入れた場合、しばらくするとバッテリー電圧が既定の電圧よりも低下し、画面に「bAt Lo」と表示されることがあります。

「bAt Lo」と表示されたときにヒートグリップやシートヒーターの電源が入っていると、自動的にそれらの電源が切れ、バッテリーが充電システムによって充電されます。同時に、エンジンのアイドル回転数も上昇します。

必要に応じ、正規 Triumph ディーラーでバッテリーと充電システムの点検を受けてください。

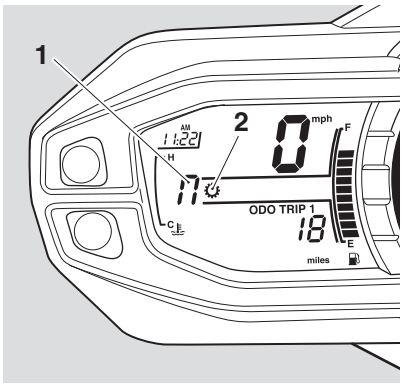
バッテリー低下の警告表示は、以下のいずれかの条件が満たされるまで表示されたままになります。

- 充電システムによってバッテリーが充電されたとき
- 左ハンドルスイッチのスクロールボタンかセットボタンを押したとき
- イグニッションスイッチをオフにしたとき。



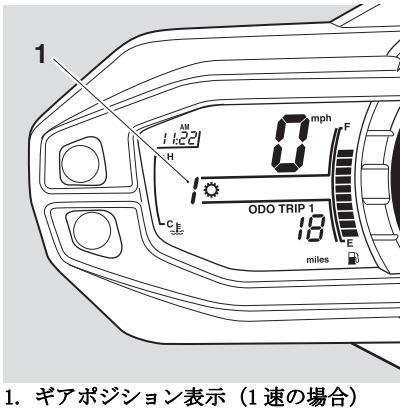
1. 表示画面

ギアポジション表示



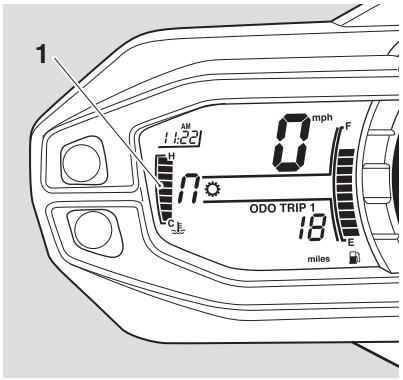
1. ギアポジション表示（ニュートラルの場合）
2. ギアポジションのマーク

ギアポジション表示には、何速のギア（1 速から 6 速）に入っているかが表示されます。トランスミッションがニュートラル（ギアが入っていない状態）のとき、表示部には「n」が表示されます。



1. ギアポジション表示（1 速の場合）

クーラント温度計



1. クーラント温度計

クーラント温度計には、エンジンクーラントの温度が表示されます。

イグニッションスイッチを入れると、温度計のバー8 本すべてが表示されます。冷間時にエンジンを始動させると、バーが 1 本だけ表示されます。温度が上昇するにつれて、表示されるバーの本数も増えます。温間時にエンジンを始動させると、エンジン温度に応じた数のバーが表示されます。

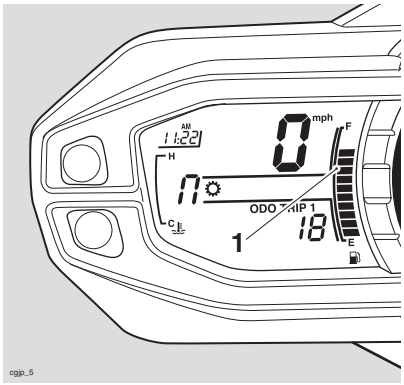
通常の温度範囲は、バーの数が 4 本と 6 本の間です。

クーラント温度が高くなり過ぎると、8 本すべてのバーが表示され、点滅し始めます。また、タコメーター内にあるクーラント過熱警告灯も点灯します。

⚠ 注意

エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあるため、過熱警告が表示された場合は、エンジンを停止してください。

燃料計



1. 燃料計

燃料計には、タンク内の燃料レベルが表示されます。

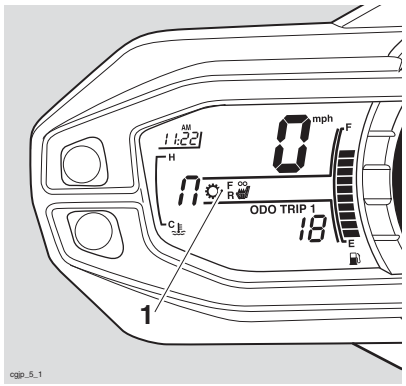
イグニッションがオンの状態のとき、燃料レベルが画面上のバーの本数で示されます。

燃料タンクが満タンの場合は、12 本すべてのバーが表示され、空の場合は 1 本も表示されません。それ以外の場合は、燃料レベルに応じた本数のバーが表示されます。

バーの本数が 2 本になると、燃料レベル低下警告灯が点灯し、5 秒後に表示画面が「残燃料ゼロまでの可航距離」に切り替わります（*23* ページを参照）。この場合、タンクには約 4.5 リッターの燃料しか残っていないため、できるだけ早く燃料を補給する必要があります。

給油後、燃料計と残燃料ゼロまでの可航距離の情報は、モーターサイクルを走行させないと更新されません。走行方法にもよりますが、情報が更新されるまで最大 5 分かかります。

シートヒーター – 装着されている場合



1. シートヒーターのマーク

シートヒーターはアクセサリーとして取り付ける部品です。ライダーシートとリアシートのシートヒーターで、それぞれOFF、LOW、HIGH の設定ができます。計器盤にはシートヒーターのマークが表示され、どちらのシートヒーターがオンになっているかがわかりますが、温度設定の表示がされるのはライダーシートのみです。

ヒートシーターをオンにすると、計器盤に以下のようにシートヒーターのマークが表示されます。

F ●○ フロントシートのみオン、LOW設定。

F ●● フロントシートのみオン、HIGH設定。

R ○○ リアシートのみオン、LOW またはHIGH設定。

F ●●
R 両シートともオン、フロントシートは HIGH 設定フロントシートの設定がLOWの場合、左側の丸のみ点灯。

警告灯

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにすると、計器盤の各警告灯が 2 秒間点灯した後消灯します（エンジン始動時まで点灯したままになる警告灯は除きます。それらの警告灯については次ページ以降に記載されています）。**

方向指示灯

インジケータースイッチを左右いずれかに押すと、方向指示器の点滅と同じテンポで方向指示灯が点滅します。

ハイビーム

ハイビーム警告灯は、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされているときに点灯します。

燃料低下

タンク内の残燃料が約 4.5 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

ニュートラル

ニュートラル警告灯は、トランスミッションがニュートラル（ギアが選択されていない）状態であることを示します。イグニションスイッチがオンの状態でトランスミッションをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

油圧 / 油量低下警告灯

⚠ 注意

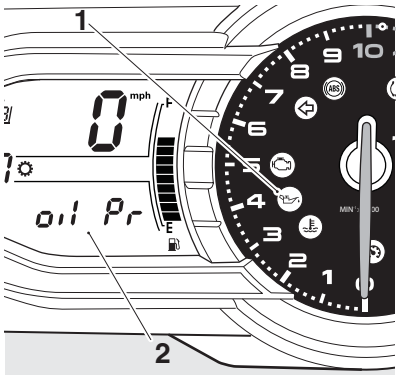
オイルが不足している状態でエンジンを回転させると、エンジンが損傷します。画面に「oil Lo」と表示された場合は、エンジンを始動させないでください。エンジンを始動する前に、オイル不足の原因を調べてください。

エンジン回転中にエンジンオイルの油圧が危険レベルにまで低下した場合は、タコメーター内の油圧/油量低下警告灯が点灯し、画面には「oil Pr」と表示されます。

⚠ 注意

油圧 / 油量低下警告灯が点灯した場合は、ただちにエンジンを停止してください。問題が解消されるまで、エンジンを再始動させてはいけません。

油圧/油量低下警告灯が点灯しているときにエンジンを回転させると、エンジンに深刻な損傷を与えることがあります。



1. 油圧 / 油量低下警告灯
2. oil Pr 表示画面

クーラント過熱警告灯

エンジンがかかっている状態で、エンジンクーラントの温度が危険レベルにまで上昇した場合、タコメーター内のクーラント過熱警告灯が点灯します。

⚠ 注意

クーラント過熱警告灯が点灯したら、ただちにエンジンを停止してください。問題が解消されるまで、エンジンを再始動させてはいけません。

クーラント過熱警告灯が点灯しているときにエンジンを回転させると、エンジンに深刻な損傷を与えることがあります。

エンジン管理システム誤動作表示灯

エンジン管理システム誤動作表示灯は、イグニッションをオンすると、誤動作表示灯が作動することを示すために短時間点灯しますが、エンジンが回転しているときに点灯すべきものではありません。

エンジン回転中に誤動作表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによって制御されているひとつまたは複数のシステムに故障が生じています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないような深刻な故障でなければ、エンジン管理システムが「リンプ・ホーム」モードに切り替わり、走行を続けることができます。

⚠ 警告

誤動作表示灯が点灯しているときは、速度を落とし、必要以上に走行を続けないでください。故障によってエンジン性能、排ガス、燃費に悪影響を及ぼす可能性があります。エンジン性能の低下によって危険な走行状態となり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

注記：

- **イグニッションをオンにしたときに誤動作表示灯が点滅した場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、修理を受けてください。その場合、エンジンは始動しません。**

アラーム / イモビライザー作動状態表示灯

この Triumph モデルには、イグニッションスイッチをオフポジションにすると作動する、エンジンイモビライザーが装着されています。モーターサイクルに Triumph 純正アクセサリーのアラームが装着されている場合は、イモビライザーは通常通り動作しますが、アラーム / イモビライザー作動状態表示灯は以下のように動作します。

アラーム付きの場合

アラーム/イモビライザー作動状態表示灯は、Triumph 純正アクセサリーアラームの説明書に記載されている条件が満たされた場合のみ点灯します。

アラームなしの場合

イグニッションスイッチをオフポジションにすると、アラーム / イモビライザー作動状態表示灯が 24 時間点滅を繰り返し、エンジンイモビライザーがオンであることを示します。イグニッションスイッチをオンポジションにすると、イモビライザーが解除され、アラーム / イモビライザー作動状態表示灯が消灯します。

アラーム/イモビライザー作動状態表示灯が点灯したままの場合は、イモビライザーの誤作動であり、点検が必要です。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

ABS （アンチロックブレーキシステム）警告灯

注記：

- **ABS システムに故障があり ABS 警告灯が点灯している場合は、クルーズコントロールとトラクションコントロールは機能しません。**

イグニッションスイッチをオンポジションにしたときに、ABS 警告灯が点滅を開始するのは正常な状態です。エンジン始動後も ABS 警告灯の点滅は続き、モーターサイクルの速度が10 km/hを超えると消灯します。

ABS システムを解除しない限り（*33* ページを参照）、あるいは ABS システムに故障がない限り、エンジンを再始動させるまで ABS警告灯が再度点灯することはありません。

それ以外の場合で、走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS に誤作動が生じており、点検が必要です。

⚠ 警告

ABS が機能していない場合、ブレーキシステムは非ABS型ブレーキシステムとして、作動します。ABS 警告灯が点灯したままの状態で、必要以上に走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。そのような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

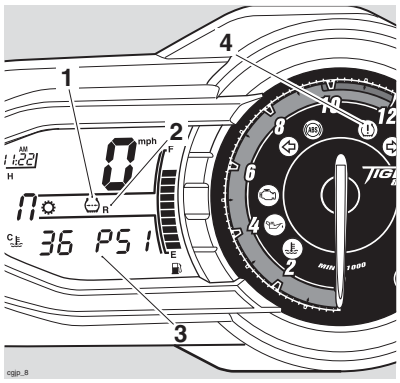
76 ページの「ブレーキ操作」も参照してください。

タイヤ空気圧警告灯

タイヤ空気圧警告灯は、タイヤ空気圧モニタリングシステムと連動して作動します（*24* ページを参照）。

フロントタイヤまたはリアタイヤの空気圧が推奨値より低い場合のみ、警告灯が点灯します。タイヤ空気圧が推奨値より高い場合は点灯しません。

タイヤ空気圧警告灯が点灯すると、どちらのタイヤの空気圧が低いかを示す TPMS マークと空気圧の値が自動的に画面に表示されます。



1. **TPMS マーク**
2. **リアタイヤ**
3. **タイヤ空気圧**
4. **タイヤ空気圧警告灯**

タイヤ空気圧警告灯が点灯するときのタイヤ空気圧は、20° C での空気圧に補正された値ですが、画面に表示される空気圧は補正された値ではありません（*112* を参照）。警告灯が点灯したときに表示された空気圧が、標準空気圧か、またはそれに近い値であったとしても、タイヤ空気圧が低いことは間違いなく、パンクしている可能性が高いと考えられます。

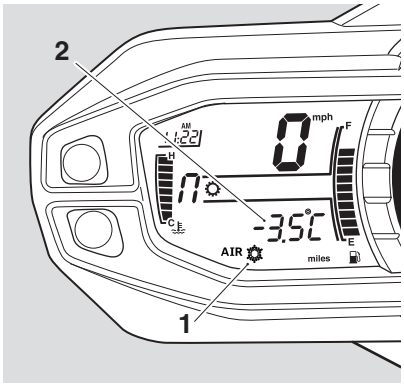
⚠ 警告

タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、モーターサイクルを停止してください。タイヤを点検し、冷間時のタイヤ空気圧が推奨値であることを確認するまでは、モーターサイクルを運転しないでください。

低温マーク

イグニッションをオンにしたときに気温が 4° C 以下の場合は、低温警告灯が点灯します。温度表示は 4 秒後に消えて元の表示に戻りますが、低温マークは温度が 6° C に達するまで点灯したままになります。

温度表示は、左ハンドルスイッチのセットボタンかスクロールボタンを押して消すこともできます。元の表示に戻っても、低温マークは温度が 6° C に達するまで点灯したままになります。



1. **低温マーク**
2. **気温**

トラクションコントロール警告灯 – トラクションコントロール装着の場合

トラクションコントロールの設定条件にしたがって（*31* ページを参照）、警告灯が以下ように点灯します。

- 「01」– 警告灯は点灯しませんが、トラクションコントロールが後輪のスリップを抑えるために作動すると、警告灯が点滅します。
- 「02」 – 警告灯はゆっくりと点滅しますが、トラクションコントロールが後輪のスリップを抑えるために作動すると、素早い点滅に切り替わります。
- 「oFF」– 警告灯が点灯したままになります。

トラクションコントロール警告灯と誤動作表示灯（MIL）が同時に点灯した場合は、トラクションコントロールに故障が生じているため、最寄りの Triumph 正規販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

トラクションコントロールが機能しない場合は、濡れた路面や滑りやすい路面で加速したりコーナリングしたりするときに後輪がスピンしないように注意しなければなりません。MIL とトラクションコントロール警告灯が点灯したままの状態で、必要以上に走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検してもらってください。

そのような状態で急加速や過度のコーナリングを行うと、後輪がスピンし、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

クルーズコントロールライト

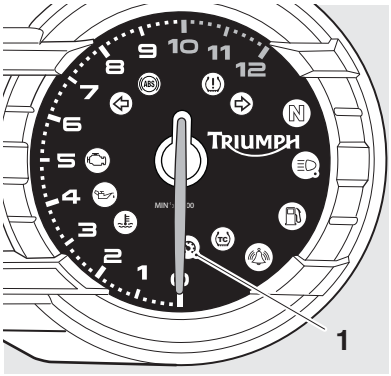
クルーズコントロールは、モーターサイクルの走行速度が 48 km/h から 160 km/h の間で、ギアが 4 速以上でなければ作動できません。クルーズコントロールが作動すると、計器盤のクルーズコントロールライトが点灯します（*53*ページを参照）。

⚠ 警告

クルーズコントロールは、一定速度で安全に走行できる場合にだけ使用するものです。

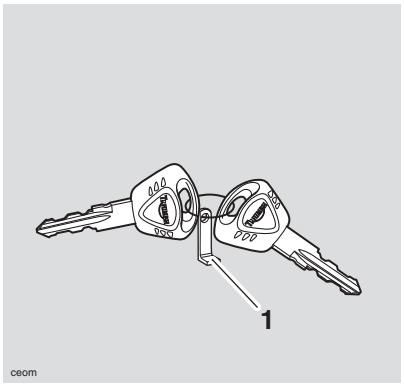
渋滞中、急カーブや見通しのきかないカーブ、滑りやすい路面などを走行するときにクルーズコントロールを使用しないでください。

渋滞中、急カーブや見通しのきかないカーブ、滑りやすい路面などでクルーズコントロールを使用すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。



1. クルーズコントロールライト

イグニッションキー



1. キーナンバータグ

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるときだけでなく、シートロックと燃料タンクキャップを操作するときにも必要です。

モーターサイクルが工場から出荷される際には、キー2 本とキーナンバーを記載した小さなタグ 1 個が支給されます。キーナンバーを書き留めたら、スペアキーとキーナンバータグをモーターサイクルから離れた安全な場所に保管してください。

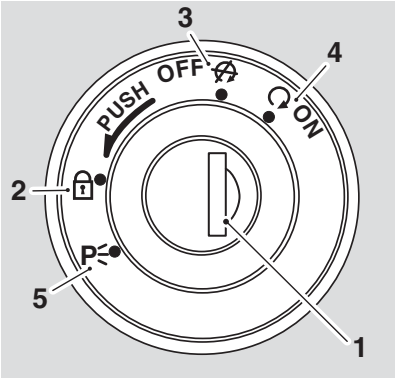
イグニッションキーには、エンジンイモビライザーをオフにするためのトランスポンダーが内蔵されています。イモビライザーを正常に機能させるため、イグニッションスイッチの近くでは常にイグニッションキーを1本だけ持つようにしてください。イグニッションスイッチの近くでイグニッションキーを 2 本持つと、トランスポンダーとエンジンイモビライザーとの間の信号が妨害される場合があります。その場合、どちらかのイグニッションキーを遠ざけないと、エンジンイモビライザーが解除されません。

キーを交換する場合は、必ず正規 Triumph ディーラーでお求めください。正規 Triumph ディーラーに、交換したキーをモーターサイクルのイモビライザーに連動させてもらわなければなりません。

⚠ 注意

盗難防止のため、スペアキーはモーターサイクルと別の場所に保管してください。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック



1. イグニッションスイッチ / ステアリングロック
2. ロックポジション
3. オフポジション
4. オンポジション
5. パークポジション

エンジンイモビライザー

イグニッションバレルハウジングは、エンジンイモビライザーのアンテナとして機能します。

イグニッションスイッチをオフポジションにしてイグニッションキーを抜き取ると、エンジンイモビライザーがオンになります（*40* ページを参照）。イグニッションキーをイグニッションスイッチに差し込んでオンポジションに回すと、エンジンイモビライザーがオフになります。

イグニッションスイッチポジション

イグニッションスイッチには 4 つのポジションがあり、イグニッションキーで操作します。イグニッションキーは オフポジション、ロックポジション、またはP(パーク) ポジションにあるときだけ、イグニッションスイッチから抜き取ることができます。

ロック方法:ハンドルを左いっぱいまで切り、イグニッションキーをオフポジションに回して押し込んだら手を放します。次にキーをロックポジションまで回します。

駐車:イグニッションキーをロックポジションからPポジションまで回します。ステアリングはロックされたままで、ポジションライトが点灯します。

注記:

- **ステアリングロックをパークポジションにしたまま長時間放置しないでください。バッテリーが消耗してしまいます。**

⚠ 警告

防犯のため、モーターサイクルから離れる場合には、必ずイグニションスイッチをオフポジションにしてキーを抜き取ってください。

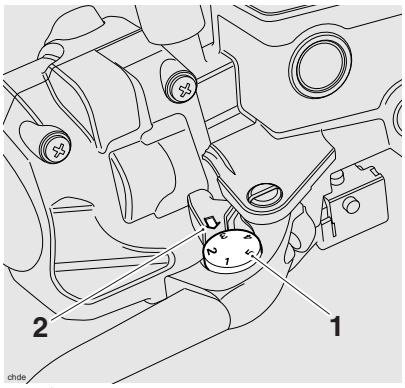
モーターサイクルを無断で使用されると、そのライダー自身や他の道路利用者、歩行者が負傷することがあり、モーターサイクルも損傷することがあります。

⚠ 警告

イグニッションキーがロックまたはPポジションにあると、ステアリングがロックされます。

走行中は、絶対に、キーをロックまたはPポジションに入れないでください。ステアリングがロックされてしまいます。ステアリングがロックされると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ブレーキとクラッチレバーアジャスター



1. ブレーキレバーのアジャスターホイール
2. 矢印マーク

フロントブレーキレバーとクラッチレバーの両方にアジャスターが付いています。このアジャスターを使って、ハンドルからレバーまでの間隔をライダーの手の大きさに合わせて調節することができます。フロントブレーキレバーでは 5 段階、クラッチレバーでは4段階の調節ができます。

レバーを調節するには、レバーを前方に押してアジャスターホイールを回し、任意の番号のポジションをレバーホルダー上の矢印マークに合わせます。

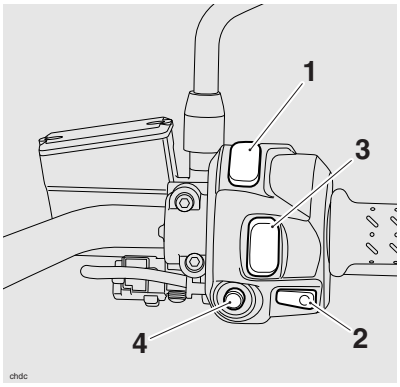
ハンドルグリップと握っていない状態のレバーの間隔は、5 番に合わせたたときに最も狭くなり、1 番にセットしたときに最も広くなります。

⚠ 警告

走行中はレバーの調節をしないでください。モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

レバーを調節したら、交通のない安全な場所でモーターサイクルを操縦し、新しいレバーの設定に慣れてください。お持ちのモーターサイクルを他人に貸してはいけません。ご自身が調節したレバー設定を借り手が変更した場合、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

右ハンドルスイッチ



1. **エンジンストップスイッチ**
2. **スターターボタン**
3. **クルーズコントロール調整ボタン**
4. **クルーズコントロールオン / オフボタン**

エンジンストップスイッチ

モーターサイクルを運転するには、イグニションスイッチをオンにして、エンジンストップスイッチをRUNポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは緊急時に使用します。エンジンを停止しなければならないような緊急事態が発生した場合は、エンジンストップスイッチを STOP ポジションにします。

注記：

- **エンジンストップスイッチによってエンジンが停止しますが、電気回路をすべて遮断するわけではないため、バッテリーが上がるとエンジンを再始動できなくなる場合があります。通常は、イグニッションスイッチを使用してエンジンを停止させてください。**

⚠ 注意

エンジンが回転していないときは、イグニッションスイッチをオンポジションにしたまま放置しないでください。電装部品に損傷を与え、バッテリーが放電する可能性があります。

スターターボタン

スターターボタンによって電動スターターが作動します。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ります。

注記：

- **サイドスタンドがおりていてギアが入っている場合には、クラッチレバーを握ってもスターターは作動しません。**

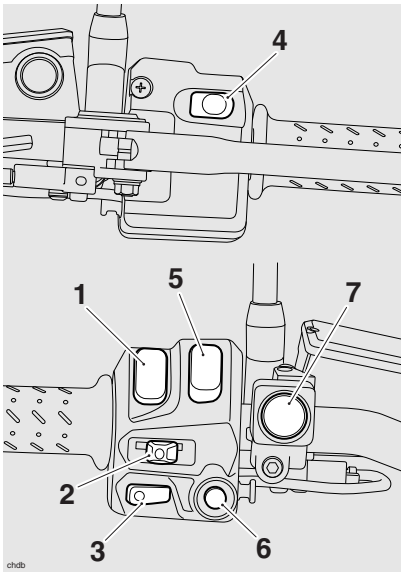
クルーズコントロールオン / オフボタン

クルーズコントロールボタンを押すと、クルーズコントロールがオンします(*53*ページを参照)。クルーズコントロールボタンを再度押してクルーズコントロールをオフするまで、ボタンは押した状態のままになります。

クルーズコントロール調整ボタン

クルーズコントロール調整ボタンは上部に RES/+、下部に Set/- と表示された 2 方向動作スイッチです（*53*ページを参照）。

左ハンドルスイッチ



1. ヘッドライトディップスイッチ
2. 方向指示器スイッチ
3. ホーンボタン
4. パスボタン
5. 計器スクロールボタン
6. 計器セットボタン
7. フロントフォグランプスイッチ（装着されている場合）

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビームとロービームの切り替えができます。ハイビームにするときは、スイッチを前方に押します。ロービームにするときは、スイッチを後方に押します。ハイビームにすると、ハイビーム表示灯が点灯します。

注記：

- **このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ポジションライト、リアライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションをオンポジションにすると自動的に機能します。**
- **ヘッドライトは、イグニッションスイッチがオンポジションで、エンジンが回転しているときのみ作動します。**
  エンジンを回転させずにヘッドライトを点灯させるには、クラッチレバーを握ってからイグニッションをオンポジションにしてください。クラッチレバーから手を放しても、ヘッドライトが点灯したままになります。
  スターターボタンを押している間は、エンジンが始動するまでヘッドライトが消灯します。

方向指示器スイッチ

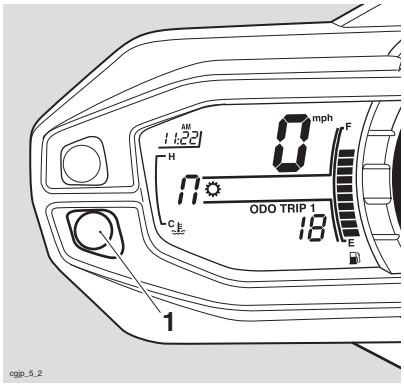
方向指示器スイッチを左右いずれかに押すと、対応する方向指示器が点滅します。

方向指示器自動停止システムは、方向指示器を操作してから 8 秒後に作動します。方向指示器をオンにしてから 8 秒が経過し、モーターサイクルが 65 メートル以上走行すると、方向指示器自動停止装置によって方向指示器が自動的にオフされます。方向指示器は手動で停止することもできます。方向指示器を手動で停止するには、方向指示器スイッチを中央位置に押します。

方向指示器自動停止システムの解除手順は、*28* を参照してください。方向指示器を手動で停止するには、方向指示器スイッチを中央位置で押します。

ハザードライト

ハザードライトを点灯または消灯するには、計器盤にあるハザードライトスイッチを押します。



1. ハザードライトスイッチ

ホーンボタン

イグニッションスイッチがオンの状態でホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

パスボタン

注記：

- **パスボタンは、エンジン回転中のみ操作できます。**

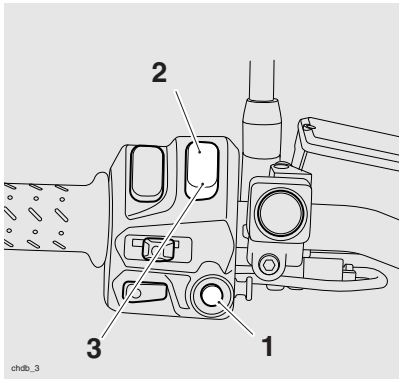
パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間はヘッドライトメインビームのスイッチが入ったままとなり、パスボタンを放すとすぐにスイッチが切れます。

計器スクロールボタン

スクロールボタンを押すと、計器盤の画面に表示される項目が切り替わります。

計器セットボタン

セットボタンを押すと、計器盤の画面に表示された項目を選択できます。



1. **セットボタン**
2. **スクロールボタンの上部**
3. **スクロールボタンの下部**

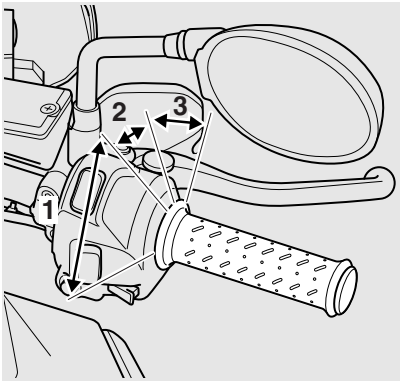
フロントフォグランプスイッチ（装着されている場合）

注記：

- **フロントフォグランプスイッチは、ヘッドライトが点灯している場合のみ作動します。**

エンジン回転中にフロントフォグランプスイッチを押すと、フロントフォグランプが点灯します。フロントフォグランプを消灯するには、再度フロントフォグランプスイッチを押します。

スロットルコントロール



1. スロットル開位置
2. スロットル閉位置
3. クルーズコントロール解除位置

この Triumph モデルには、エンジンコントロールユニットを介してスロットルを開閉するための電子スロットルツイストグリップが装着されています。このシステム内には直接作動するケーブルはありません。

スロットルグリップを手前に回してスロットルを開くと、スロットルグリップに操作感が生じます。スロットルグリップを放すと、内部のリターンスプリングによってスロットルグリップがスロットル閉位置に戻り、スロットルが閉じます。

スロットル閉位置から、スロットルグリップを 3 ～ 4 mm 前方に回して、クルーズコントロールを解除することができます(*56* ページを参照)。

スロットルコントロールをユーザーが調整することはできません。

スロットルコントロールに故障が生じた場合は、誤動作表示灯 (MIL) が点灯し、エンジンが以下のいずれかの状態になります。

- MIL が点灯し、毎分エンジン回転数とスロットル動作が制限される。
- MIL が点灯し、エンジンが高回転のアイドル状態のときのみ、リンプホームモードになる。
- MIL が点灯し、エンジンが始動しない。

上記のような状態になった場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

ブレーキの使用

スロットル開度が小さい場合 (約 20°)、ブレーキとスロットルは同時に使用できます。

スロットル開度が大きい場合(20° 以上)、ブレーキを 2 秒以上かけると、スロットルが閉じてエンジン速度が低下します。通常のスロットル操作に戻るには、スロットルコントロールを解除し、ブレーキを解除してから、スロットルを再び開きます。

⚠ 警告

誤動作表示灯が点灯しているときは、速度を落とし、必要以上に走行を続けないでください。故障によってエンジン性能、排ガス、燃費に悪影響を及ぼす可能性があります。エンジン性能の低下によって危険な走行状態となり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

クルーズコントロール

⚠ 警告

クルーズコントロールは、一定速度で安全に走行できる場合にだけ使用するものです。

渋滞中、急カーブや見通しのきかないカーブ、滑りやすい路面などを走行するときにクルーズコントロールを使用しないでください。

渋滞中、急カーブや見通しのきかないカーブ、滑りやすい路面などでクルーズコントロールを使用すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

この Triumph モーターサイクルは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなければなりません。走行速度が増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間がどんどん短くなるため、高速でモーターサイクルを運転すると危険な状況に陥る可能性があります。必ず天候や交通状況に応じて速度を落としてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターサイクルは、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ高速走行してください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における動作を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

その他の状況での高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

注記：

- **ABS システムに故障があり ABS 警告灯が点灯している場合は、クルーズコントロールは機能しません。**
- **ABS システムが解除されている場合は（*33* ページを参照）、ABS 警告灯が点灯し、クルーズコントロールが機能します。**

クルーズコントロールボタンは右ハンドルスイッチにあり、ライダーが簡単に操作できるようになっています。

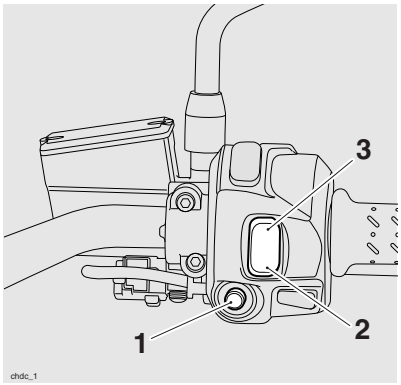
クルーズコントロールはいつでもオンしたりオフしたりできますが、*54* ページに記載されている条件がすべて満たされないと作動させることはできません。

クルーズコントロールの作動

注記：

- **クルーズコントロール調整ボタンの SET/- を押してクルーズコントロールを作動させるまで、クルーズコントロールライトは点灯しません。**

クルーズコントロールをオンにするには、オン / オフボタンを押します。

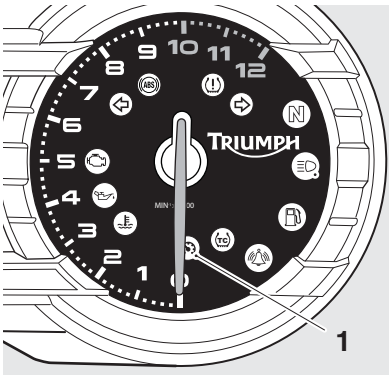


1. **クルーズコントロールオン / オフボタン**
2. **クルーズコントロール調整ボタン、SET/-**
3. **クルーズコントロール調整ボタン、RES/+**

クルーズコントロールを作動させるには、以下の条件が満たされなければなりません。

- モーターサイクルが 48 ～ 160 km/h で走行していること
- モーターサイクルのギアが 4 速以上に入っていること
- クルーズコントロール調整ボタンの SET/- が押されていること。

クルーズコントロールが作動・設定されると、クルーズコントロールライトが点灯します。



1. **クルーズコントロールライト**

クルーズコントロール設定速度の復帰

⚠ 警告

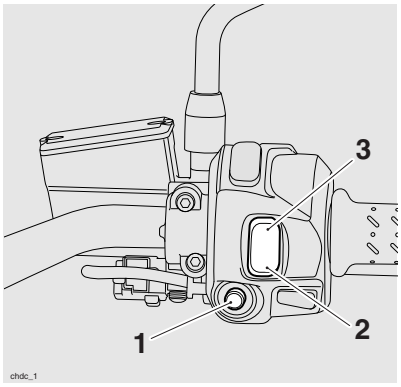
クルーズコントロールを再開するときは、交通状況が設定速度に適していることを必ず確認してください。

渋滞中、急カーブや見通しのきかないカーブ、滑りやすい路面などでクルーズコントロールを使用すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

以下のいずれかの操作を行うと、クルーズコントロールは停止します。

- スロットルツイストグリップを前方いっぱいまで回したとき
- 右ハンドルスイッチのオン / オフボタンを押したとき
- クラッチレバーを握ったとき
- フロントブレーキかリアブレーキを操作したとき
- 60 秒以上の間、スロットルグリップを使用して加速したとき。

54 ページに記載されている条件が満たされれば、クルーズコントロール調整ボタンの RES/+ を押すことによって、設定速度を復帰させることができます。

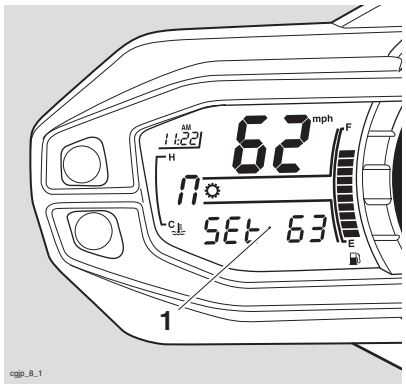


1. **クルーズコントロールオン / オフボタン**
2. **クルーズコントロール調整ボタン、SET/-**
3. **クルーズコントロール調整ボタン、RES/+**

設定速度は、イグニッションスイッチをオフポジションにするまで、クルーズコントロールメモリー内に記憶されます。

クルーズコントロール中の加速

速度を上げるには、クルーズコントロール調整ボタンの RES/+ を押します。調整ボタンを押すたびに1 km/hずつ加速します。調整ボタンを押したままにすると、連続して 1 km/h ずつ加速します。画面に希望する速度が表示されたら、調整ボタンを放します。



1. 表示画面

速度を上げている間は、計器盤の画面表示が「SEt」に切り替わり、新しい設定速度が表示され、モーターサイクルが設定速度に達するまで点滅します。

表示画面は、4 秒後に元の表示に戻ります。

注記：

- **急傾斜を走行するときにクルーズコントロールが設定速度を維持できない場合は、計器盤の表示が「SEt」に切り替わり、設定速度が表示されて、モーターサイクルの速度が復帰するまで点滅します。**

スロットルグリップを使用して希望する速度まで加速してから調整ボタンのSET/-を押しても、クルーズコントロールの速度を上げることができます。

クルーズコントロール中の減速

速度を落とすには、クルーズコントロール調整ボタンの SET/- を押します。調整ボタンを押すたびに1 km/hずつ減速します。調整ボタンを押したままにすると、連続して 1 km/h ずつ減速します。

速度を落としている間は、計器盤の画面表示が「SEt」に切り替わり、減速した設定速度が表示されます。

画面に希望する速度が表示されたら、調整ボタンを放します。表示画面は、4 秒後に元の表示に戻ります。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールは、以下のいずれかの方法で解除できます。

- スロットルを前方いっぱいまで回す。
- クラッチレバーを握る。
- フロントブレーキかリアブレーキを操作する。
- 60 秒以上の間、スロットルを使用して加速する。
- 右ハンドルスイッチのオン / オフボタンを押す。

イグニッションスイッチをオフポジションにする方法以外でクルーズコントロールを解除した場合は、調整ボタンの RES/+ を押せば、設定速度が復帰します。モーターサイクルの速度が 48 ～ 160 km/h で、ギアが4速以上に入っている必要があります。

燃料の条件 / 燃料補給

燃料の等級

お買い上げの Triumph のエンジンは、無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使用すればその性能が十分に発揮されます。必ずオクタン価 91 RON 以上の無鉛燃料を使用してください。

⚠ 注意

排気装置には排ガスレベルを低減する触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターサイクルを走行させると、触媒コンバーターに回復不能な損傷を与える可能性があります。必ず燃料を十分に補給して走行してください。

⚠ 注意

多くの国や州、地域などでは、有鉛ガソリンの使用が法律で禁止されています。有鉛ガソリンを使うと、触媒コンバーターが損傷することがあります。

⚠ 警告

燃料補給に伴う危険性を低減するため、燃料補給時の安全に関する以下の指示にしたがってください。

ガソリン（燃料）は非常に可燃性が高く、特定の条件下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチをオフポジションにしてください。

喫煙しないでください。

携帯電話を使用しないでください。

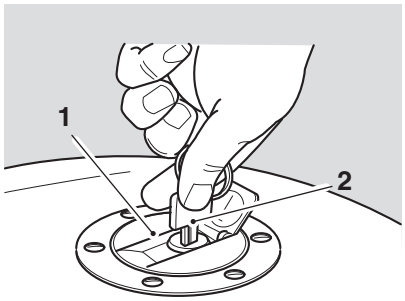
給油場所が、換気の良い、火気のない場所であることを確認してください。パイロットランプのついた器具も使用できません。

燃料がフィラーネックに達するほどタンクを一杯にすることは絶対にやめてください。太陽熱やその他の熱源から生じた熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、燃料フィラーキャップをきちんと閉じてロックしたことを必ず確認してください。

ガソリン（燃料）は非常に可燃性が高いため、燃料が漏れたりこぼれたりした場合や、上述の安全注意事項を守らなかったりした場合は、火災が発生し、物的損害や負傷または死亡の原因となることがあります。

フューエルタンクキャップ



cbmm1

1. フューエルタンクキャップ
2. キー

フューエルタンクキャップを開けるには、ロック部を覆っているフラップを持ち上げます。次に、キーをロックに差し込んで時計方向に回します。

キャップを閉じてロックするには、キーを差し込んだ状態で、ロックが所定の位置にカチッとはまるまで、キャップを押し下げます。キー抜いたら、キーカバーを閉じます。

⚠ 注意

キーを差し込まずにキャップを閉じると、キャップやタンク、ロック装置に損傷を与えることがあります。

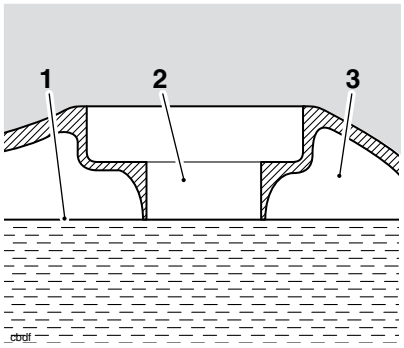
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態のときには、給油を避けてください。大気中の異物が燃料に混入する可能性があります。

⚠ 注意

異物が混入した燃料によって、燃料システムの部品が損傷する場合があります。

給油は、燃料をこぼさないようにゆっくりと行います。燃料の量がフィラーネックの最下部を超えるほどタンクを一杯にしてはいけません。エンジンや直射日光からの熱を吸収して燃料が膨張しても大丈夫なように、タンク内に十分な空間を残しておくことが必要です。



ctrdf

1. 燃料レベルの上限
2. フューエルフィラーネック
3. 空隙

⚠ 警告

タンクに燃料を入れ過ぎると燃料がこぼれる可能性があります。

燃料をこぼした場合は、ただちにこぼれた燃料を拭き取り、使用した布を安全な方法で処分してください。

エンジンや排気管、タイヤ、またはモーターサイクルのその他の箇所に燃料をこぼさないように注意してください。

ガソリン（燃料）は非常に可燃性が高いため、燃料が漏れたりこぼれたりした場合や、上述の安全注意事項を守らなかったりした場合は、火災が発生し、物的損害や負傷または死亡の原因となることがあります。

タイヤの近くやタイヤの上に燃料をこぼすと、タイヤのグリップ力が低下することがあります。グリップ力の低下によって危険な走行状態に陥り、モーターサイクルが制御不能になって事故を招く恐れがあります。

給油後は、燃料フィラーキャップをきちんと閉じてロックしたことを必ず確認してください。

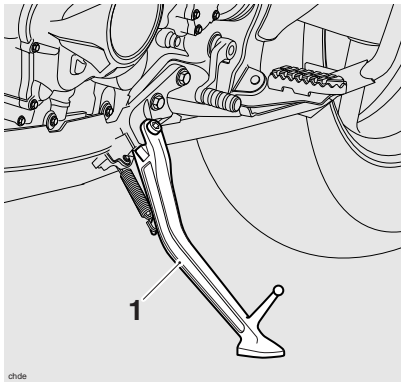
ツールキット、取扱説明書とTriumph アクセサリー Dロック

ツールキットと取扱説明書は、リアシートの下に保管されています。

Dロックがある場合は、Dロックもリアシートの下に保管されています（*64* ページを参照）。

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド

本モーターサイクルには、モーターサイクルを駐車するためのサイドスタンドが装備されています。

⚠ 警告

本モーターサイクルには、サイドスタンドをおろした状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

サイドスタンドをおろした状態で走行したり、インターロック機構を妨げたりすることは絶対にやめてください。そのような行為によって危険な走行状態に陥り、モーターサイクルが制御不能になって事故を招く恐れがあります。

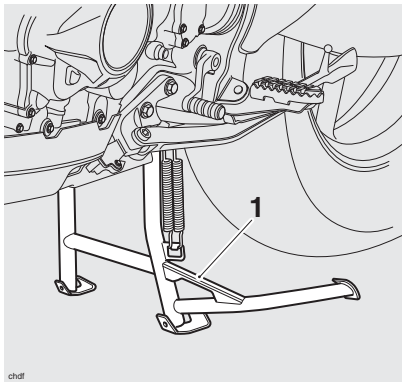
注記：

- **サイドスタンドを使用するときは、必ずハンドルを左いっぱいに切って、モーターサイクルのギアを 1 速に入れておいてください。**

サイドスタンドを使用したときは、発進する前に、つまりモーターサイクルにまたがったらすぐに、必ずサイドスタンドを格納してください。

安全に駐車する方法については、「モーターサイクルの運転」の章を参照してください。

センタースタンド



1. センタースタンド

センタースタンドをかけるには、センタースタンドのフットファインダー部をしっかりと踏んでおろしてから、リアラックをつかんでモーターサイクルを後方に持ち上げます。

安全に駐車する方法については、「モーターサイクルの運転」の章を参照してください。

⚠ 注意

センタースタンドをかけるときに、ボディパネルやシートをつかまないでください。モーターサイクルに損傷を与えることがあります。

シート

シートケア

シートやシートカバーの損傷を防ぐには、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つける可能性のある場所に立てかけたりしないように気をつけることが必要です。

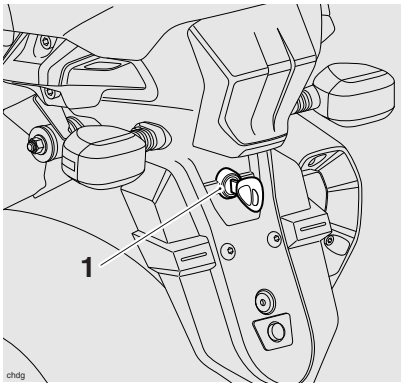
シートのクリーニング方法については、*130* ページを参照してください。

⚠ 注意

シートやシートカバーの損傷を防ぐには、シートを落とさないよう気をつけてください。シートをモーターサイクルに立てかけたり、シートやシートカバーを傷つける可能性のある場所に立てかけたりしてはいけません。シートは、シートカバーを上に向けた状態にして、柔らかい布でできた清潔な平面に置いてください。

シートカバーを傷つけたり、汚したりする可能性のあるものを、シートの上に置いてはいけません。

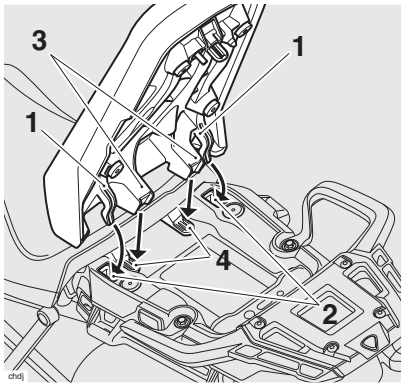
リアシート



1. シートロック

シートロックは、リアマッドガード上、リアライトユニットの下方にあります。リアシートを取り外すには、イグニッションキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計方向に回します。そうするとリアシートがロックから外れるため、シートを後方にずらしてモーターサイクルから取り外すことができます。

リアシートを再び取り付けるには、シートの外側ブラケット2個をサブフレームの各ループにはめ込み、内側ブラケット 2 個をライダーシートの各ブラケットにはめ込みます。リアシートを前方にそっと押してからシート後部を押し下げて、シートロックにはめます。

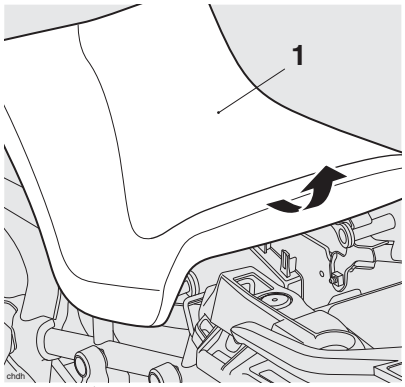


1. リアシートの外側ブラケット
2. サブフレームループ
3. リアシートの内側ブラケット
4. ライダーシートのブラケット

⚠ 警告

走行中にリアシートが外れないようにするため、取り付け後には必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートが適切に固定されていない場合は、ロックから外れてしまいます。シートがしっかり固定されていなかったり外れたりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ライダーシート



1. ライダーシート

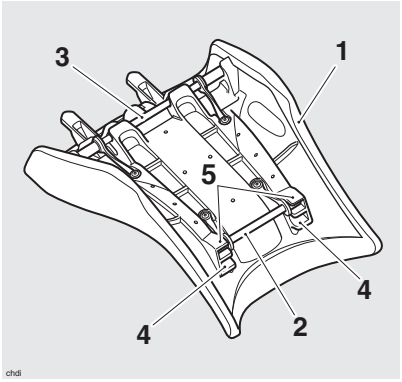
ライダーシートを取り外すには、まずリアシートを取り外します(*61*ページを参照)。

ライダーシートの両側をつかみ、後方にずらしてから上方に持ち上げて、モーターサイクルから取り外します。

ライダーシートを再び取り付けるには、シートのフロントレールを燃料タンクの後部にあるブラケットにはめ込み、リアレールを下げてリアブラケットにはめます。シートの後部をしっかり押し下げます。

リアシートを再び取り付けます（*61* ページを参照)。

ライダーシートの高さ調整



1. ライダーシート
2. フロントシート高アジャスター
3. リアシート高アジャスター
4. シート高の低位置（前部）
5. シート高の高位置（前部）

ライダーシートは約20 mmごとに高さ調整が可能です。

ライダーシートの高さ調整：

ライダーシートを取り外します（*62* ページを参照）。

両方のシート高アジャスターの位置を、必要に応じて高くしたり低くしたりして高さを調整します。アジャスターレールを両方とも、シートの各ブラケットにしっかりはめます。

ライダーシートを再び取り付けます（*62* ページを参照）。

⚠ 警告

シート高アジャスターは必ず両方とも調整してください。一方のシート高アジャスターだけを調整すると、シートを正しく取り付けることができません。

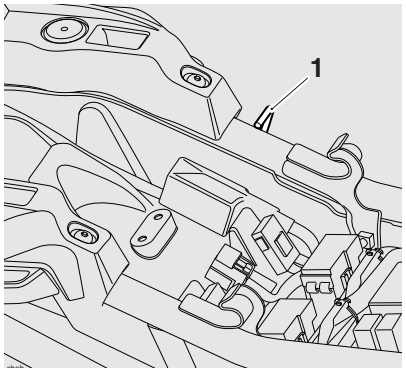
シートが正しく取り付けられていない状態でモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

シート高を調整した後は、交通のない場所でモーターサイクルを運転し、新しいシート位置に慣れてください。新しいシート位置に慣れていない状態でモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ヘルメットフック

ヘルメットは、ライダーシートの下、モーターサイクルの左側にあるヘルメットフックを使ってモーターサイクルに固定することができます。



1. ヘルメットフック

モーターサイクルにヘルメットを取り付けるには、ライダーシートを取り外して(*62* ページを参照)、ヘルメットのあごひもをヘルメットフックに掛けます。

ヘルメットを固定するには、ライダーシートを再び取り付けて所定の位置にロックします(*62* ページを参照)。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットフックに固定した状態でモーターサイクルを運転することは絶対にやめてください。ヘルメットをヘルメットフックに固定した状態でモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

Triumph アクセサリー D ロック保管場所

Triumph アクセサリー D ロック (Triumph 正規販売店で購入可能)を収納するためのスペースが、リアシートの下にあります。

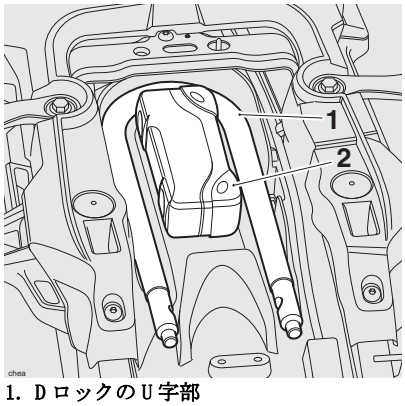
D ロックの固定方法:

リアシートを取り外します(*61* ページを参照)。

ストラップを外して取扱説明書とツールキットを取り出します。

D ロックの U 字部開口端がモータサイクル前方に向くように、U 字部をリアマッドガードトレイの支持部にセットします。

下図のように、D ロック本体をリアマッドガードトレイにセットします。

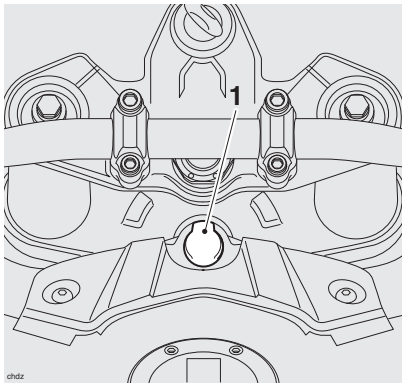


1. D ロックの U 字部
2. D ロック本体

ツールキットと取扱説明書をDロックの上に収納し、ツールキットストラップで固定します。

リアシートを再び取り付けます(*62* ページを参照)。

電動アクセサリー用ソケット



1. 電動アクセサリー用ソケット

本モーターサイクルには、電動アクセサリー用ソケットが燃料タンクの前方に取り付けられています。

このソケットは、12 V の電源を供給します。ソケットを保護しているのは 10 アンペアのヒューズであるため、10 アンペアを超える電流が必要な器具のプラグをこのソケットに接続してはいけません。

このアクセサリー用ソケットに適したプラグは、正規 Triumph ディーラーで購入できます。

ハンドル調整

ハンドルの間隔は約20 mmごとに調整可能です。

⚠ 警告

ハンドルの調整は正規 Triumph ディーラーの熟練技術者に依頼することをお勧めします。正規 Triumph ディーラーと関係のない技術者によってハンドルの調整が行われた場合、操縦性、安定性、その他に影響を及ぼし、モーターサイクルが制御不能に陥って事故に至る恐れがあります。

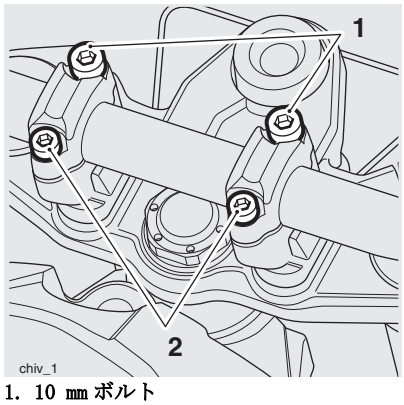
⚠ 警告

作業を開始する前に、モーターサイクルが固定され、しっかりと支えられていることを確認してください。そうすることで、作業者が負傷したりモーターサイクルが損傷したりすることを防ぐことができます。

注記：

- **この手順では、ハンドルが工場出荷時の標準位置にあることを前提として説明しています。この手順にしたがってハンドルがすでに調整された状態の場合は、ボルトの位置が逆になります。**

ハンドルを調整するには、ハンドルのリア（8 mmネジ）クランプボルトを緩めて外し、次にフロント（10 mmネジ）クランプボルトとライザーボルトを緩めて外します。



1. 10 mmボルト
2. 8 mmボルト

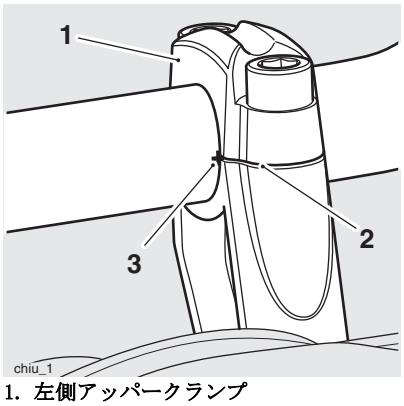
他の作業者に手伝ってもらいながら、ハンドルをハンドルライザーから持ち上げて支えます。

両方のライザーを180°回転させてボルト穴に合わせます。

ハンドルをライザーにセットし直します。

アッパークランプを再び取り付け、リアボルト位置に10 mmネジのボルト2個をセットして固定します。この段階ではボルトを本締めしないでください。

ハンドルに刻印された+マークがクランプライザーの前側にあるスプリットラインの左端と合うようにハンドルを回転させます。



1. 左側アッパークランプ
2. クランプ前側のスプリットライン
3. ハンドルの + マーク

10 mmボルトをそれぞれ **35 Nm**で締め付けます。

8 mm ボルトをフロントボルト位置に再び取り付けて、**20 Nm** で締め付けます。

ウィンドスクリーン

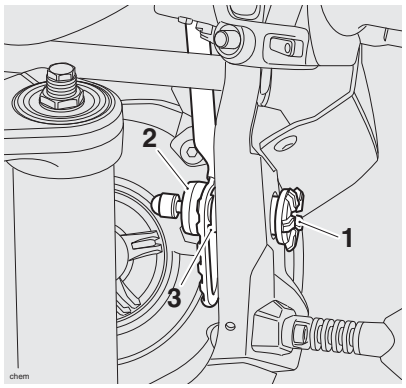
注記：

- **本モーターサイクルに取り付けられているウィンドスクリーンは、ツールを使用せずに調整することができます。**

ウィンドスクリーンの調整

⚠ 警告

モーターサイクルの運転中に、ウインドスクリーンの汚れを落とそうとしたり調整しようとしたりすることは絶対にやめてください。ライダーがモーターサイクルの運転中にハンドルから手を放すと、モーターサイクルを制御しきれなくなります。モーターサイクルを運転中にウインドスクリーンの汚れを落とそうしたり調整しようとしたりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。



1. **アジャスターノブ、図は右側**
2. **調整ブロック**
3. **調整プレート**

ウィンドスクリーンを調整するには、左右のアジャスターノブを十分ゆるめて、調整プレート上にある調整ブロックをずらせるようにします。

両方の調整プレートが同じ位置になるようにしながら、ウインドスクリーンを希望する高さにセットします。

アジャスターノブをそれぞれ締め付けてウインドスクリーンをその位置に固定します。

⚠ 警告

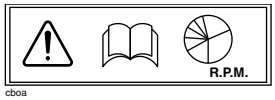
必ず、ウインドスクリーンの両側のアジャスターが同じ位置になるように調整してください。ウインドスクリーンの調整が不適切な状態でモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルを制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

モーターサイクルに乗る前に、ウインドスクリーンの両側のアジャスターが締め付けてあることを必ず確認してください。ウインドスクリーンまたはウインドスクリーンのアジャスターが緩んだ状態でモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ウィンドスクリーンの洗浄方法については、*131* ページを参照してください。

慣らし運転



cboa

新車の場合、最初の内は慣らし運転と呼ばれる走行が必要です。

部品が新しいときは特にエンジンの内部摩擦が大きくなります。その後、エンジンを継続的に回転させることによって部品同士がなじみ、内部摩擦が大幅に低減します。

慎重に慣らし運転を行うことで、排ガス量が低下し、モーターサイクルの性能を十分に発揮できるようになり、燃費が向上し、エンジンやその他の部品の寿命が延長されます。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- エンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定速度で走行することは避けてください。
- 緊急時以外は、急発進、急停止、急加速を避けてください。
- エンジンの最高速度の４分の３を超える速度で走行しないでください。

800 km から 1500 km まで：

- 短時間であれば、エンジン速度を回転限界まで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と慣らし運転終了後：

- エンジン冷間時は、回転速度を上げ過ぎないでください。
- エンジンに負担をかけないでください。必ず、エンジンに負担がかかる前にシフトダウンしてください。
- エンジン速度を不必要に上げて走行しないでください。シフトアップすることで燃料消費量や騒音の低減、環境保護につながります。

安全運転

日常の安全点検

cbob

走行する前に必ず以下の日常点検項目を点検してください。日常点検に時間はかかりませんし、点検することで安全で安定した走行が可能になります。

日常点検中に異常が見つかった場合は、「整備と調整」の章を参照するか、正規 Triumph ディーラーに依頼するかして、モーターサイクルを安全な作動状態に戻すために必要な処置を講じてください。

⚠ 警告

走行する前に日常点検を実施しないと、モーターサイクルに深刻な損傷を与えたり、重傷事故や死亡事故を引き起こしたりする恐れがあります。

点検：

燃料： タンクに燃料が十分あること、燃料漏れがないこと（*57*ページ）。

エンジンオイル： サイトグラスから見えるオイル量が適切であること。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充すること。エンジンやオイルクーラーからの漏れがないこと（*93*ページ）。

ファイナルドライブ： 漏れがないこと（*101* ページ）。

タイヤ / ホイール： 空気圧が適正であること（冷間時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ / ホイールの損傷、パンクなどを点検すること（*110*ページ）。

ナット、ボルト、締め具類： ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、全ての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検すること。緩んだり損傷したりしている固定具がないか全体的に点検すること。

ステアリングの動き： 左右にいっぱいまでスムーズに、ゆるみがなく動くこと。コントロールケーブルにひっかかりがないこと（*105*ページ）。

ブレーキ： ブレーキレバーを引いた感触、ブレーキペダルを踏んだ感触が適切であること。遊びが大きすぎる場合やレバー操作またはペダル操作が柔らかい場合は、ブレーキレバーやブレーキペダルを調査すること（*102*ページ）。

ABS：発進後、速度が 10 km/h を超えたときに ABS 警告灯が点灯していないこと（*41* ページ）。

ブレーキパッド： すべてのパッドのライニングが 1.5 mm 以上残っていること（*102* ページ）。

ブレーキフルードレベル： ブレーキクラッチフルードの漏れがないこと。ブレーキフルードレベルは、両方のリザーバとも「MAX」と「MIN」のマークの間にあること（*104*ページ）。

フロントフォーク： スムーズに動くこと。フォークシールから漏れがないこと（*107* ページ）。

スロットル： スロットルグリップの遊びが 2 ～ 3 mm であること。スロットルグリップがスムーズにアイドルポジションに戻ること（*52*ページ）。

クラッチフルードレベル： ブレーキクラッチフルードの漏れがないこと。クラッチフルードレベルは、リザーバの「MAX」と「MIN」のマークの間にあること（*100* ページ）。

クーラント： クラーントの漏れがないこと。膨張タンク内のクーラントレベルを点検すること（エンジン冷間時）（*96*ページ）。

電装品： ライトすべてとホーンが適切に機能すること（*44*ページ）。

エンジン停止： ストップスイッチでエンジンが停止すること（*72*ページ）。

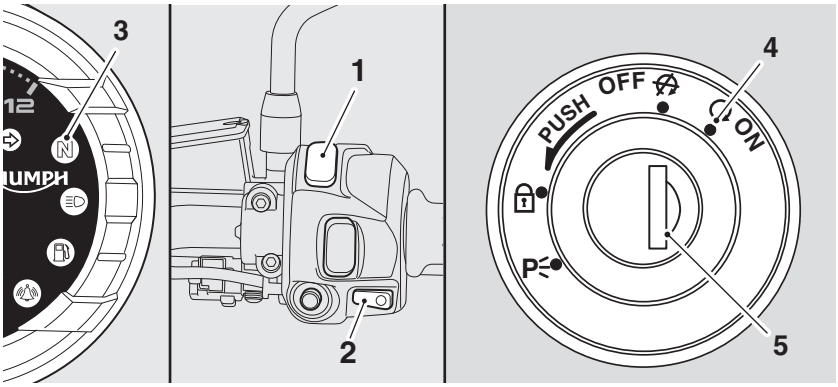
スタンド： バネの張力で一番上まで戻ること。リターンスプリングが弱くなっていたり、傷んだりしていないこと（*59* ページ）。

モーターサイクルの運転

目次

エンジンの停止 72
エンジンの始動 73
発車 74
ギアチェンジ 74
ブレーキ操作 76
ABS （アンチロックブレーキシステム） 78
駐車 79
高速走行時の注意 81
一般事項 81
ステアリング 81
荷物 81
ブレーキ 81
タイヤ 81
燃料 81
エンジンオイル 82
ファイナルドライブオイル 82
クーラント 82
電装品 82
その他 82

エンジンの停止



1. **エンジンストップスイッチ**
2. **スターターボタン**
3. **ニュートラル表示灯**
4. **オンポジション**
5. **イグニッションスイッチ**

スロットルを完全に戻します。

ギアをニュートラルにします。

イグニッションスイッチをオフにします。

ギアを 1 速に入れます。

平坦な固い地面で、モーターサイクルをサイドスタンドかセンタースタンドで駐車します。

ステアリングをロックします。

⚠ 注意

通常は、イグニッションスイッチをオフポジションに回してエンジンを停止してください。エンジンストップスイッチは緊急時にのみ使用します。エンジンを停止した状態のときは、イグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電気系統が損傷する場合があります。

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションであることを確認します。

トランスミッションをニュートラルに入れます。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにすると、タコメーターの針が、一旦ゼロからフルスケールまで振り切ってから、またゼロに戻ります。計器盤の各警告灯は一旦点灯して消灯します（エンジン始動時まで点灯したままになる警告灯は除きます。*38*ページの「警告灯」を参照してください）。エンジン始動時に、タコメーターの針がゼロに戻るまで待つ必要はありません。**
- **イグニッションキーには、エンジンイモビライザーをオフにするためのトランスポンダーが内蔵されています。イモビライザーを正常に機能させるため、イグニッションスイッチの近くでは常にイグニッションキーを1本だけ持つようにしてください。イグニッションスイッチの近くでイグニッションキーを2本持つと、トランスポンダーとエンジンイモビライザーとの間の信号が妨害される場合があります。その場合、どちらかのイグニッションキーを遠ざけないと、エンジンイモビライザーが解除されません。**
- **寒い日のコールドスタート時は、スロットルを半開きにしてエンジンを始動しやすくします。エンジンが始動したらスロットルを閉位置に戻してください。**

クラッチレバーをいっぱいまで握ります。

スロットルを全閉にした状態のまま、エンジンが始動するまでスターターボタンを押します。

⚠ 警告

締め切った場所でエンジンを始動させたり回転させたりすることは絶対にやめてください。排気ガスは有毒であり、短時間の内に意識を失い、死に至る可能性があります。モーターサイクルは必ず、屋外または換気の良い所で作動させてください。

⚠ 注意

スターターを 5 秒以上連続して作動させてはいけません。スターターモーターがオーバーヒートして、バッテリーが消耗します。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷えてバッテリーのパワーが回復するまで、15 秒待ってから作動させてください。

エンジンを長時間アンドリングさせてはいけません。オーバーヒートして、エンジンが損傷することがあります。

⚠ 注意

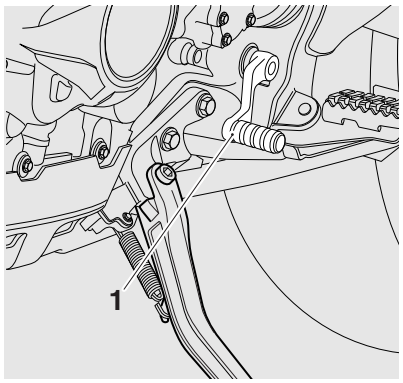
エンジン始動後に、油圧 / 油量低下警告灯が点灯した場合は、ただちにエンジンを停止して原因を調べてください。油圧が低下した状態でエンジンを回転させると、エンジンに深刻な損傷を与えます。

- 本モーターサイクルには、スターターロックアウトスイッチが付いています。サイドスタンドをおろした状態で、トランスミッションがニュートラル以外に入っているときは、電動スターターを作動させないようにするためのスイッチです。
- エンジン回転中にサイドスタンドをおろした場合、トランスミッションがニュートラル以外に入っていると、クラッチ位置に関係なくエンジンが停止します。

発車

クラッチレバーを握ってギアを1速に入れます。スロットルを少し開き、クラッチレバーを握った手をゆっくり緩めます。クラッチがつながり始めたら、スロットルをもう少し開いて、エンストしないようにエンジン回転数を上げます。

ギアチェンジ



1. ギアチェンジペダル

6 5 4 3 2 N 1

クラッチレバーを握りながらスロットルを戻します。ギアを 1 段上げるか、または 1 段下げます。クラッチレバーを放しながら、スロットルを軽く開けます。ギアチェンジするときは、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

トラクションコントロールが作動していると、前輪の浮き上がりと後輪のスリップが抑えられます。

トラクションコントロールが機能していない場合や解除されている場合(*31* ページを参照)、低速ギアに入っているときは、スロットルを開きすぎたり、急に開いたりしてはいけません。前輪が地面から浮き上がり(「ウィリー走行」)、リアタイヤのトラクションが失われます(ホイールスピン)。

スロットルを開くとき、特に本モーターサイクルの操作に慣れていない間は、必ず慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低下によって、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

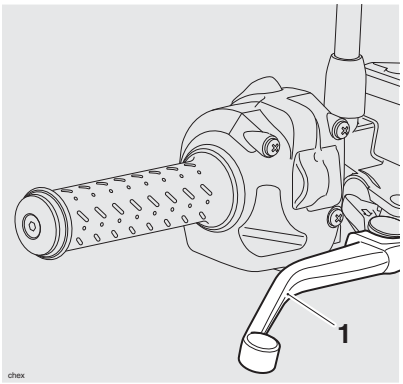
注記:

- **ギアチェンジの仕組みは「ポジティブストップ」式です。つまり、ギアチェンジペダルを動かすたびに、シフトアップもシフトダウンも1段ずつしか変速できません。**

⚠ 警告

エンジン回転数(r/min)が急激に上がるため、高速走行中は低速ギアに切り替えてはいけません。後輪がロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。エンジンも損傷する可能性があります。エンジン回転数を落としてからシフトダウンしてください。

ブレーキ操作



1. フロントブレーキレバー

⚠ 警告

ブレーキをかけるときは以下を順守してください：

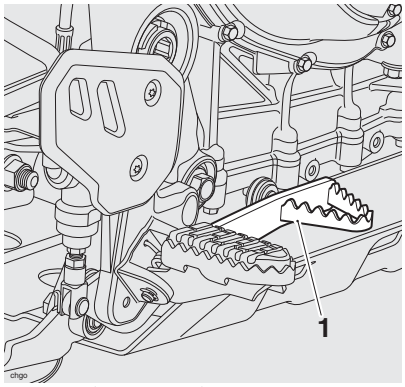
エンジン速度が徐々に低下するようにクラッチをつなげたまま、スロットルを完全に戻します。

モーターサイクルが完全に停止したときにトランスミッションが1速になるように、ギアを 1 段ずつシフトダウンします。

停止するときは、必ず両方のブレーキを同時にかけます。通常、リアブレーキよりもフロントブレーキをやや強めにかけます。

エンストしないように、必要に応じてシフトダウンするか、またはクラッチを完全に切ります。

ABS が機能していない場合や解除されている場合（*33*ページを参照）、絶対にブレーキをロックさせてはいけません。モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。



1. リアブレーキペダル

⚠ 警告

注意が散漫になると制御不能に陥り事故を招く恐れがあるため、(ABS の有無にかかわらず) 制動時、または加速時、旋回時には、安全のため十分に注意を払ってください。フロントブレーキまたはリアブレーキのどちらか一方だけを使用すると、ブレーキ性能が十分に発揮されません。過度にブレーキをかけると、どちらかの車輪がロックする場合があり、モーターサイクルの制御がきかなくなり事故を招く恐れがあります(以降に記載されているABSに関する警告を参照してください)。

できれば、コーナーに進入する前に速度を落とすか、ブレーキをかけるかしてください。コーナリングの途中でスロットルを戻したりブレーキをかけたりすると、車輪がスリップして制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

雨天時に走行する場合や舗装されていない道路を走行する場合は、操縦しづらくなったり停止しづらくなったりします。そのような状況でも、ライダーは適切に対応しなくてはなりません。急加速や急ブレーキ、急旋回をすると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

舗装されていない路面、濡れた路面、ぬかるんだ路面等でモーターサイクルを運転すると、ほこりや泥や湿気がブレーキに付着し、ブレーキ効力が低下します。そのような状況では、制動作用によってブレーキ表面の汚れが落ちるように、必ず早めにブレーキをかけてください。ブレーキにほこりや泥や湿気が付着した状態で走行すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABS （アンチロックブレーキシステム）

⚠ 警告

ABS は車輪のロックを防止します。したがって、緊急時にも、滑りやすり路面を走行しているときにも、ブレーキシステムの効力が最大限に発揮されます。ABS によって特定の状況下で制動距離が短くなることがありますが、ABS は安全な走行を保証する装置ではありません。

必ず法定制限速度の範囲内で走行してください。

決して不注意な運転をしてはなりません。天候や路面状況、交通状況に応じて必ず減速してください。

コーナリング時は十分に注意してください。コーナーに入ってからブレーキをかけると、ABS がモーターサイクルの重量と推進力に対応できません。そうすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

状況によっては、ABS を装着したモーターサイクルの方が、同等の機種の ABS なしのモーターサイクルよりも、制動距離が長くなることがあります。

ABS 警告灯

イグニッションスイッチをオンポジションにしたときに、ABS 警告灯が点滅を開始するのは正常な状態です（*41* ページを参照）。ABS 警告灯が点灯したままの場合は、ABS 機能が以下の理由で無効になっています。

- ライダーが ABS を解除したため（*33* を参照）
- ABS が故障しており点検が必要なため

走行中に ABS 警告灯が点灯した場合は ABS の故障であり、点検が必要です。

注記：

- **通常、ブレーキレバーやブレーキペダルの感触が硬くなったり、振動が伝わったりすることで、ABS が作動したことがライダーに分かります。ABS はブレーキシステムに一体化されたシステムではなく、フロントブレーキとリアブレーキの両方を同時に制御するものではないため、ブレーキレバーかブレーキペダル、または両方から体に振動が伝わることがあります。**
- **突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。**

⚠ 警告

ABS が機能していない場合や、ライダーが ABS を解除した場合も（*33* ページを参照）、ブレーキシステムは非 ABS 型ブレーキシステムとして作動を続けます。ABS 警告灯が点灯したままの状態で、必要以上に走行を続けないでください。故障が発生した場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。そのような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

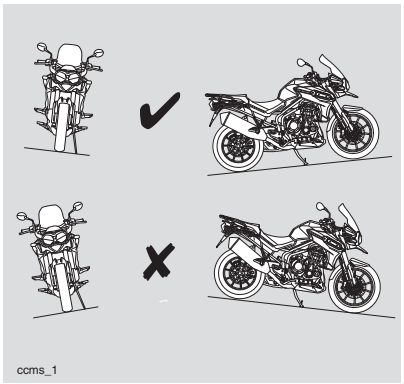
モーターサイクルをスタンドで支えた状態で、後輪を 30 秒 以上高速で回転させると ABS 警告灯が点灯します。これは故障ではありません。

イグニッションスイッチをオフにして、モーターサイクルを再始動すると、モーターサイクルが時速30 km/hを超えるまで、ABS 警告灯が点灯したままになります。

⚠ 警告

ABS コンピューターは、フロントホイールとリアホイールの相対速度を比較することによって作動します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイール速度が変化し、ABS が作動しなくなる恐れがあります。そのため通常なら ABS が機能するはずの状況下でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

駐車



ギアをニュートラルに入れ、イグニッションスイッチをオフポジションにします。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターサイクルの転倒を防止するため、必ず平坦な固い場所に駐車してください。特に、オフロードで駐車するときには、平坦な固い場所に駐車することが大切です。

斜面に駐車するときは、モーターサイクルがスタンドから外れないように、必ず斜面に沿って上に向けて駐車します。ギアを 1 速に入れてモーターサイクルが動かないようにします。

横方向（左右）に勾配があるときは、必ず傾斜によってモーターサイクルが自然にサイドスタンドの方に押し付けられるようにして駐車します。

横方向（左右）に 6° 以上傾いている斜面には駐車してはいけません。また、下り方向に向けて駐車することも絶対にやめてください。

注記：

- **夜間に道路の近くに駐車するときや、法律によってパーキングライトの点灯が義務づけられている場所に駐車するときは、イグニッションスイッチを P（PARK）にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。**

イグニッションスイッチをPポジションにしたままで長時間放置しないでください。バッテリーが消耗します。

⚠ 警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所に駐車すると、モーターサイクルが倒れて物的損害や負傷につながる恐れがあります。

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性が高く、特定の条件下では爆発する可能性があります。車庫など屋内に駐車する場合は、十分に換気し、モーターサイクルに火気を近づけないようにしてください。パイロットランプのついた器具も使用できません。

この警告にしたがわなかった場合、火災が発生し、物的損害や負傷につながる恐れがあります。

⚠ 警告

走行後は、エンジンと排気装置が高温になっています。歩行者や動物および / または子供がモーターサイクルに触れる可能性がある場所には駐車してはいけません。

高温状態のエンジンや排気装置にじかに触れると、火傷をする可能性があります。

高速走行時の注意

⚠ 警告

この Triumph モーターサイクルは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなければなりません。走行速度が増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間がどんどん短くなるため、高速でモーターサイクルを運転すると危険な状況に陥る可能性があります。必ず天候や交通状況に応じて速度を落としてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターサイクルは、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ高速走行してください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

その他の状況での高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

以下に記載するのは極めて重要な項目であるため、必ず順守してください。普通の速度で走行しているときには気づかないような問題でも、高速走行時には深刻な問題となる場合があります。

一般事項

モーターサイクルは定期整備表にしたがって整備しておきます。

ステアリング

ハンドルの動きがスムーズで、遊びが大きすぎたり、動かしづらかったりしないことを確認します。コントロールケーブルがステアリングの邪魔になっていないことを確認します。

荷物

荷物用容器をすべて閉じ、ロックして、モーターサイクルにしっかり固定します。

ブレーキ

フロントブレーキとリアブレーキが正しく機能することを確認します。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全に走行するためには、タイヤの状態が良好でなければなりません。タイヤの状態を全体的に点検し、適正空気圧にして（タイヤ冷間時）、ホイールバランスを点検します。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検と安全に関しては、「整備と調整」の章と「仕様」の章の指示にしたがってください。

燃料

高速走行時は燃料消費量が増大するため、燃料を十分補給しておきます。

⚠ 注意

排気装置には排ガスレベルを低減する触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターサイクルを走行させると、触媒コンバーターに回復不能な損傷を与える可能性があります。必ず燃料を十分に補給して走行してください。

エンジンオイル

エンジンオイルレベルが適切であることを確かめます。補充するときは、等級と種類が適切なオイルを使用します。

ファイナルドライブオイル

ファイナルドライブのオイルレベルが適切であることを確かめます。補充するときは、等級と種類が適切なオイルを使用します。

クーラント

クーラントレベルが膨張タンクの上限ラインと下限ラインとの間であることを確認します。(必ずエンジン冷間時に確認します)。

電装品

ヘッドライト、リアライト、ブレーキライト、方向指示器、ホーン等がすべて正しく作動することを確認します。

その他

固定具がすべてきちんと締め付けられていることを確認します。

アクセサリーと積載条件

アクセサリーを取り付けたり、積載重量が増したりすると、モーターサイクルのハンドリング特性に影響を及ぼすため、安定性が変化し、速度を抑える必要が生じます。この章では、モーターサイクルにアクセサリーを取り付けたり、同乗者や荷物を載せたりした場合の危険性について説明します。

荷物を載せた場合は、*124* ページを参照して、ヘッドライトビームを調整してください。

⚠ 警告

荷物を適切に積載しないと、危険な走行状態に陥り事故を招く恐れがあります。

必ず、モーターサイクルの両側の荷物の重さが均等になるように荷物を載せてください。モーターサイクルの走行中に荷物が移動しないように、荷物をしっかりと固定してください。

荷物が固定されているか(走行中以外のときに)たびたび点検し、モーターサイクルの後部から荷物がはみ出すことのないようにしてください。

絶対に最大車両積載重量の 222 kgを超えてはいけません。

最大積載重量というのは、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリー、積載荷物の重量の合計です。

⚠ 警告

モーターサイクルの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、そのような荷物を載せたりしてはいけません。ライト類の見えやすさ、ロードクリアランス、バンキング性能(すなわち傾斜角度)、コントロール走行、ホイールトラベル、フロントフォークの動き、周囲の視界等、モーターサイクルの走行に関するいかなる側面にも悪影響を与えないようにしてください。

⚠ 警告

本モーターサイクルは、サーキット以外の場所では、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本 Triumph モーターサイクルは、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ高速走行してください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

その他の状況での高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

アクセサリーと積載条件

⚠ 警告

同乗者が急に体を動かしたり不適切な座り方をしたりすると、モーターサイクルのバランスが崩れる可能性があることを、同乗者に伝えておいてください。

ライダーは同乗者に以下ように説明してください。

- 同乗者は、走行中じっと座って、モーターサイクルの運転の邪魔をしないこと。
- 同乗者は、パッセンジャーフットレストに足を乗せ、グラブバーかライダーの胴か腰にしっかりつかまること。
- 同乗者は、コーナリングの際にライダーに合わせて体を傾け、ライダーが体を傾けないときは同乗者も体を傾けないこと。

⚠ 警告

モーターサイクルに動物を乗せてはいけません。

動物が急に予測不可能な動きをすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

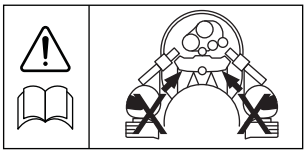
同乗者が乗っていると、モーターサイクルの操縦性やブレーキ性能に影響を及ぼします。同乗者を乗せて運転するとき、ライダーはそうした変化を考慮して走行しなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、操作特性の変化に慣れて、容易に対応できるようにならない限り、二人乗り走行はしないでください。

同乗者がいることを考慮に入れないでモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

フレームと燃料タンクとの間に、何か物を保管することは絶対にやめてください。ステアリングの妨げになり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

ハンドルやフロントフォークにおもりをつけると、ステアリングアッセンブリーの質量が増加し、ステアリングコントロールが損なわれて事故を招く恐れがあります。



⚠ 警告

フットレストに足が届かない身長の人を同乗させてはいけません。

フットレストに足が届かない人は、モーターサイクルにしっかりと腰掛けることができないため、モーターサイクルが不安定な状態となり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

モーターサイクルにアクセサリーが装着されている場合や、モーターサイクルに最大積載量まで人や荷物を積んでいる場合には、絶対に 130 km/h を超える速度で運転してはいけません。どちらの場合においても、たとえ法定制限速度内であっても、130 km/h を超えないようにしてください。

アクセサリー装着時および/または最大積載時は、モーターサイクルの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターサイクルの安定性に変化が生じることを考慮に入れずに運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

認可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターサイクル全体のコンディション、悪路や悪天候などによっては、130 km/h に達しなくても安定性や操縦性に影響があることを忘れないでください。

⚠ 警告

リアシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合は、荷物の重量が 5 kg を超えてはならず、モーターサイクルの制御性を損なってもいけません。また、しっかりと固定されていなければならず、モーターサイクル後部や横からはみ出してはいけません。

5 kg を超える重量の荷物が、しっかりと固定できなかったり、制御性を損なったり、モーターサイクルの後部や横からはみ出したりしていると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

小さな荷物がリアシートに適切に積載されている場合であっても、モーターサイクルの最高速度は 130 km/h でなければいけません。

このページは意図的に空白にしてあります

整備と調整

目次

定期整備 90
エンジンオイル 93
オイルレベルの点検 93
オイルとオイルフィルターの交換 94
使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分 95
オイルの仕様と等級 96
冷却装置 96
腐食防止剤 96
クーラントレベルの点検 97
クーラントレベルの調整 98
クーラントの交換 98
ラジエターとホース 99
点検 99
クラッチ 100
クラッチフルードレベルの点検と調整 100
ファイナルドライブユニット 101
ファイナルドライブのオイルレベルの調整 101
ブレーキ 102
ブレーキの磨耗点検 102
新ブレーキパッドと新ブレーキディスクのすり合わせ運転 102
ブレーキパッドの磨耗補正 103
ディスクブレーキフルード 103
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整 104
リアブレーキフルードのレベル点検と調整 104
ブレーキライトスイッチ 105
ステアリング／ホイールベアリング 105
ステアリングの点検 105
ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検 106
ホイールベアリングの点検 106
フロントサスペンション 107
フロントフォークの点検 107

整備と調整

フロントサスペンションの設定 107
スプリングプリロードの調整 107
フロントサスペンション設定値表 108
リアサスペンション 108
リアサスペンション設定値表 108
リアサスペンションの調整 109
スプリングプリロードの調整 109
伸側減衰の調整 110
タイヤ 110
タイヤ空気圧 111
タイヤの磨耗 112
トレッドの推奨最小深度 113
タイヤの交換 114
バッテリー 117
バッテリーの取り外し 117
バッテリーの廃棄処分 118
バッテリーの整備 118
バッテリーの放電 118
モーターサイクル保管時と使用頻度の低いモーターサイクルの
バッテリー整備 119
バッテリーの充電 119
バッテリーの取り付け 120
ヒューズボックス 121
メインヒューズボックス 121
ABS ヒューズボックス 121
ヒューズの識別 122
ABS ヒューズボックス 123
メインヒューズ 123
ヘッドライト 123
ヘッドライト 123
ヘッドライトの調整 124
ヘッドライトバルブの交換 125
フロントフォグランプ - 装着されている場合 126
フロントフォグランプバルブの交換 126

リアライト / ライセンスプレートライト 128
リアライト / ライセンスプレートライトの交換 128
方向指示器 128
バルブの交換 128
洗車 129
洗車の準備 129
要注意箇所 130
洗車後 130
シートケア 130
塗装されていないアルミニウム部品 131
ウィンドスクリーンの洗浄 131
排気装置の清掃 132
洗浄 132
乾燥 132
保護 132

定期整備

モーターサイクルを安全で安定した状態に維持するために、日常点検および定期整備表にしたがって、本章に記載されている整備と調整を実施しなければなりません。この章では、日常点検と簡単な整備・調整を実施する際の手順を解説します。

⚠ 警告

整備項目はすべて極めて重要であるため、どの整備も怠ってはいけません。整備や調整の不備により、モーターサイクルの複数の部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動が生じているモーターサイクルで走行すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

天候や地形、地理的な条件によって整備内容は異なります。モーターサイクルの使用環境および個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整する必要があります。

定期整備表の各項目を正しく整備するためには、専用工具、専門知識、トレーニングが必要です。必要な知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

整備が不適切であったり、整備を怠ったりすると、危険な走行状態に陥る可能性があるため、本モーターサイクルの定期整備は、必ず正規 Triumph ディーラーに依頼してください。

正規販売店が実施する定期整備には、モーターサイクルの年間走行距離に応じて、12 ヶ月定期整備、一定の走行距離ごとの整備、またはその両方を組み合わせた整備の 3 種類があります。

1. モーターサイクルの年間走行距離が 16,000 km 未満の場合は、12 ヶ月ごとに整備を受けなければなりません。それに加え、一定の走行距離ごとに整備する項目についても、その走行距離に達したときに点検整備を受ける必要があります。
2. モーターサイクルの年間走行距離が約 16,000 km の場合は、12 ヶ月定期整備と一定の走行距離ごとの整備の両方を同時に受けなければなりません。
3. モーターサイクルの年間走行距離が 16,000 km を超える場合は、モーターサイクルが一定の走行距離に達したときに、その距離に応じて定められている整備を受けなければなりません。それに加え、12 ヶ月ごとに整備が必要な項目についても点検整備を受ける必要があります。

いずれの場合も、表に示す整備時期に達する前または達した時点で整備を受けなければなりません。ご所有のモーターサイクルに最適な定期整備プランについては、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーが実施した整備や調整の不備が原因で発生した損傷や負傷については、一切の責任を負いません。

整備内容	オドメーターの走行距離（km）または経過時間の いずれか先に達した方					
		初回整備	12ヶ月整備	一定の走行距離ごとの整備		
	間隔	800 1ヶ月	年	16,000 と 48,000	32,000	64,000
エンジン ― 漏れ点検	毎日	•	•	•	•	•
エンジンオイル - 交換	-	•	•	•	•	•
エンジンオイルフィルター - 交換	-	•	•	•	•	•
バルブクリアランス－点検 / 調整	-			•		
カムシャフトタイミング - 調整 - **初回 16,000 km 整備時のみ**				•		
エアクリーナー - 交換	-			•	•	•
オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを実施	-	•	•	•	•	•
ABS とイモビライザーの各 ECM - 記憶された DTC の確認	-	•	•	•	•	•
スパークプラグ - 点検				•		
スパークプラグ - 交換	-				•	•
スロットルボディー－バランス調整	-			•	•	•
スロットルボディプレート（バタフライ）- 点検 / 清掃				•	•	•
冷却システム - 漏れ点検	毎日	•	•	•	•	•
クーラントレベル－点検 / 調整	毎日	•	•	•	•	•
クーラント - 交換	-	走行距離に関係なく、3 年ごと				
燃料システム - 漏れ、擦り切れ等の点検	毎日	•	•	•	•	•
ライト、計器類、電気系統 - 点検	毎日	•	•	•	•	•
ステアリング - 作動点検	毎日	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－点検 / 調整	-	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－潤滑	-				•	•
フォーク－漏れ / 作動点検	毎日	•	•	•	•	•
フォークオイル - 交換	-					•
ブレーキフルードレベル－点検	毎日	•	•	•	•	•

整備内容	オドメーターの走行距離（km）または経過時間の いずれか先に達した方					
		初回整備	12ヶ月整備	一定の走行距離ごとの整備		
	間隔	800 1ヶ月	年	16,000 と 48,000	32,000	64,000
ブレーキフルードー交換	走行距離に関係なく、2年ごと					
ブレーキパッド – 摩耗状態点検	毎日	•	•	•	•	•
ブレーキマスターシリンダーフルード漏れ点検	毎日	•	•	•	•	•
ブレーキキャリパーフルード漏れとピストンの焼き付き点検	毎日	•	•	•	•	•
リアサスペンションリンケージー点検 / 注油	–				•	•
締め具類ー締まり具合を目視点検	毎日	•	•	•	•	•
ホイール – 損傷がないか点検	毎日	•	•	•	•	•
ホイールベアリングー摩耗 / 作動点検	–	•	•	•	•	•
タイヤの摩耗 / 損傷 – 点検	毎日	•	•	•	•	•
タイヤ空気圧ー点検 / 調整	毎日	•	•	•	•	•
クラッチー作動点検	毎日	•	•	•	•	•
クラッチマスターシリンダーー漏れ点検		•	•	•	•	•
クラッチフルードレベルー点検	毎日	•	•	•	•	•
クラッチフルードー交換	走行距離に関係なく、2年ごと					
ファイナルドライブーオイル漏れ点検	毎日	•	•	•	•	•
ファイナルドライブオイル – 交換 – **初回整備時のみ**	–	•				
スタンドー作動点検	毎日	•	•	•	•	•
排気管クランプボルトー点検 / 調整	–	•	•	•	•	•
アクセサリーラック用スライディングキャリッジ – 正常に作動するか点検‡	–		•	•	•	•
アクセサリーバニアリンクバー – 正常に作動するか点検および調整‡	–	•	•	•	•	•
セカンダリエアインジェクションシステムー点検	–				•	•
燃料ホースおよび蒸発ロスホース＊ – 交換	–	走行距離に関係なく、4年ごと				

＊特定市場でのみ装着されている蒸発システム。

‡装着されている場合のみ。

エンジンオイル

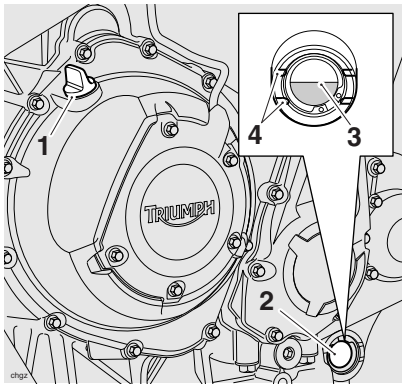
cbnz

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表にしたがってオイルとオイルフィルターを交換してください。

⚠ 警告

エンジンオイルが不足していたり、劣化していたり、あるいは異物が混じったりしている状態でモーターサイクルを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼き付きが発生する可能性があります。エンジンやトランスミッションの焼き付きが発生すると、モーターサイクルが突然制御不能になって事故につながる恐れがあります。

オイルレベルの点検



1. フィラープラグ
2. サイトグラス
3. オイルレベル（図は適正レベル）
4. クランクケースのオイルレベルライン

⚠ 警告

締め切った場所でエンジンを始動させたり回転させたりすることは絶対にやめてください。排気ガスは有毒であり、短時間の内に意識を失い、死に至る可能性があります。モーターサイクルは必ず、屋外または換気の良い所で作動させてください。

⚠ 注意

オイルが不足している状態でエンジンを回転させると、エンジンが損傷します。油圧低下警告灯が点灯したままである場合は、ただちににエンジンを停止し、原因を調べてください。

⚠ 注意

イグニッションをオンした後に、油圧/油量警告灯が点灯したままとなり、画面に「oil Low」と表示された場合は、オイルレベルを実際に点検するまでエンジンを始動させないでください。
オイルが不足している状態でエンジンを回転させると、エンジンが損傷します。

モーターサイクルをサイドスタンドから外して真っ直ぐに立てた状態で、クランクケースの上側（上限）ラインと下側（下限）ラインとの間にオイルがあるか、サイトグラスから確認します。

オイルを補充する必要がある場合は、フィラープラグを取り外し、サイトグラス内の液面が適正レベルになるまで、少しずつオイルを足します。オイルを補充したら、フィラープラグを再び取り付けて締め付けます。

注記：

- **エンジン内のオイルレベルが正確に表示されるのは、エンジンが通常の作動温度で、モーターサイクルが（サイドスタンドやセンタースタンドを使用せず）真っ直ぐに立っているときだけです。**

エンジンを始動し、約5分間アイドリングさせます。

エンジンを停止し、オイルが安定するまで最低3分間待ちます。

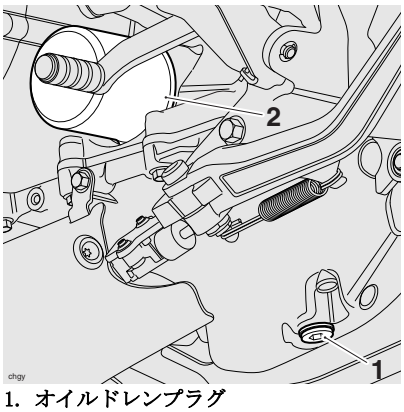
サイトグラスから見えるオイルレベルを確認します。

オイルレベルが適切であれば、オイルがクランクケースの上側（上限）ラインと下側（下限）ラインとの間にあるのが、サイトグラスから見えます。

オイルが不足していれば、前述の手順にしたがってさらに補充します。

適正レベルに達したら、フィラープラグをはめて締め付けます。

オイルとオイルフィルターの交換



1. **オイルドレンプラグ**
2. **オイルフィルター**

エンジンオイルとオイルフィルターは、定期整備表にしたがって交換しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンオイルに長時間触れたりまたは繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥やかぶれ、皮膚炎を起こすことがあります。また、使用済みのエンジンオイルには皮膚がんを発症させる可能性のある有害な汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用して使用済みオイルが肌に触れないようにしてください。

エンジンを十分に暖機してから停止させ、モーターサイクルを平らな場所に真っ直ぐ立てて固定します。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

オイルドレンプラグを取り外します。

⚠ 警告

オイルは熱くなっている場合があります。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。高温のオイルに触れると、火傷をする恐れがあります。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターを回して外します。取り外したオイルフィルターは、環境に配慮した方法で処分します。

新しいオイルフィルターのシーリングリングにきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。オイルフィルターを取り付けて、**10 Nm** で締め付けます。

オイルが完全に排出された後、新しいシーリングワッシャーをドレンプラグにはめます。ドレンプラグを取り付けて、**25 Nm** で締め付けます。

API SH （またはそれ以上） **および** JASO MA仕様にかなった半合成または完全合成の10W/40もしくは10W/50のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40(完全合成)をエンジンに補充します。国によっては、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されています。

エンジンを始動させ、最低 30 秒間アイドリングを行います。

⚠ 注意

オイルがエンジン各部に行き渡る前に、エンジン回転数をアイドリング状態よりも上げると、エンジンが損傷したり焼き付きが発生したりします。オイルを十分に循環させるために、エンジンを 30 秒間回転させてから、エンジン回転数を上げてください。

⚠ 注意

エンジンオイルの油圧が低すぎる場合には、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているときにこの警告灯が点灯したままになっている場合は、ただちにエンジンを停止して原因を調べてください。油圧が低下した状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えます。

エンジン始動後に油圧低下警告灯が消灯し、計器盤の画面に「oil Lo」や「oil Pr」と表示されていないことを確認します。

エンジンを停止し、オイルレベルを再点検します。必要に応じて調整します。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面や下水管、排水管、水路等に流してはいけません。使用済みのオイルフィルターを一般のごみと一緒に捨ててはいけません。処分方法がわからない場合は、各地方自治体にお問い合わせください。

オイルの仕様と等級

Triumph の高性能燃料噴射エンジンは、API SH（またはそれ以上）**および** JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 15W/50 のモーターサイクル用エンジンオイル、例えば、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）を使用するように設計されています。国によっては、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されています。

エンジンオイルに化学添加剤を加えてはいけません。エンジンオイルはクラッチの潤滑にも使用されるため、添加剤を加えるとクラッチがスリップする原因となる可能性があります。

鉱油、植物油、ノンディタージェントオイル、キャスターベースオイルなど、要求仕様に適合しないオイルを使用してはいけません。そのようなオイルを使用すると、すぐにエンジンに深刻な損傷が生じる場合があります。

冷却装置

効率的にエンジンの冷却を行うために、モーターサイクルに乗る前には必ずクーラントレベルを点検し、量が不足している場合は補充してください。

注記：

- **モーターサイクルを工場から出荷するときは、年間を通して使用できる、ハイブリッド有機酸テクノロジー（ハイブリッド OAT または HOAT）クーラントが冷却装置に注入されています。色は緑色で、エチレングリコールを主成分とする濃度 50％の不凍液を含み、凍結温度は -35° C です。**

腐食防止剤

冷却装置を腐食から守るために、クーラントには腐食防止剤が含まれていなければなりません。

腐食防止剤の入っているクーラントを使用しないと、冷却装置のウォータージャケットやラジエターにさびや酸化膜が形成されます。そうするとクーラントの流路が塞がれて、冷却装置の冷却効率が著しく低下します。

⚠ 警告

HD4X ハイブリッド OAT クーラントには、アルミ製のエンジンとラジエターに適した腐食防止剤と凍結防止剤が含まれています。必ず、メーカーの指示にしたがってクーラントを使用してください。

凍結防止剤と腐食防止剤を含んだクーラントには、人体に有害な物質が含まれています。凍結防止剤やモーターサイクルのクーラントは絶対に飲み込まないでください。

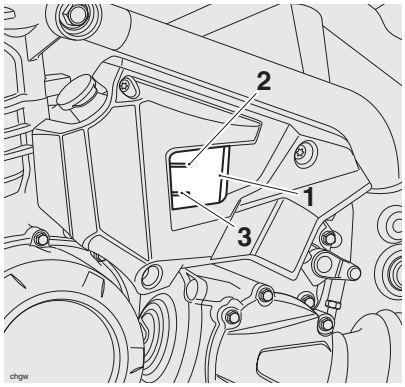
注記：

- **Triumph が供給する HD4X ハイブリッド OAT クーラントは、調合済みであるため、冷却装置への補充時に希釈する必要はありません。**

クーラントレベルの点検

注記：

- **クーラントレベルは、エンジン冷間時に（室温または大気温度で）点検します。**



1. 膨張タンク
2. 上限マーク
3. 下限マーク

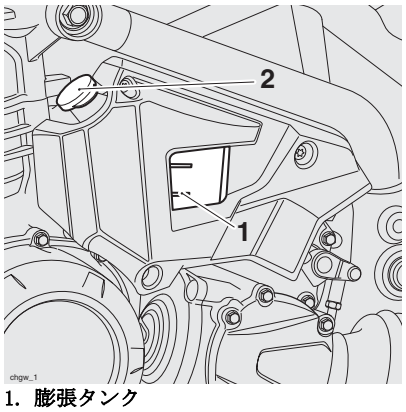
モーターサイクルを平らな場所に置いてまっすぐに立てます。モーターサイクルの右側から膨張タンクが見えます。

膨張タンク内のクーラントレベルを点検します。クーラントレベルは上限マークと下限マークの間でなければいけません。クラーントレベルが下限マークより下にある場合は、クーラントレベルを調整しなければなりません。

クーラントレベルの調整

⚠ 警告

エンジンが高温のときには、ラジエターキャップを取り外さないでください。エンジンが高温のときは、ラジエター内のクーラントの温度が高く、加圧状態になっています。加圧された状態の高温のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。



1. 膨張タンク
2. 膨張タンクキャップ

エンジンが冷えるのを待ちます。

膨張タンクキャップは、モーターサイクルの左側から取り外すことができます。

膨張タンクのキャップを取り外し、液面レベルが上限マークに達するまで、補給口からクーラント混合液を補充します。キャップを再び取り付けます。

注記：

- **クーラントが過熱したためにクーラントレベルを点検する必要がある場合は、ラジエター内の液面レベルも点検し、必要に応じて補充してください。**
- **緊急時には、冷却装置に蒸留水を補充しても構いません。ただしその場合は、できるだけ早めにクーラントを抜き取り、HD4X　ハイブリッド OAT クーラントを補充してください。**

⚠ 注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエターに酸化膜が堆積して、冷却装置の冷却効率を著しく低下させます。冷却効率が低下すると、エンジンがオーバーヒートし、深刻な損傷を引き起こす可能性があります。

クーラントの交換

定期整備表にしたがって、正規 Triumph ディーラーにクラーントを交換してもらいます。

ラジエターとホース

定期整備表にしたがって、ラジエターホースに亀裂や劣化がないか、ホースバンドがしっかり締められているかを点検します。欠陥があれば、正規 Triumph ディーラーに交換してもらいます。

ラジエターグリルとフィンに昆虫や葉、泥などが付着していないか点検します。低圧水をかけて異物を洗い流します。

⚠ 警告

エンジンが回転すると、ファンが自動的に作動します。回転中のファンに触れるとケガをする恐れがあるため、手や衣服を決してファンに近づけないでください。

⚠ 注意

洗車場にある高圧ウォータースプレーや、家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンが損傷し、漏れが発生したりラジエターの効率が低下したりする可能性があります。

認可されていないアクセサリーをラジエターの前方や冷却ファンの後方に取り付けて、ラジエターを通る気流を妨げたり流路を変えたりしてはいけません。ラジエターの気流が妨げられるとオーバーヒートにつながり、その結果エンジンが損傷してしまいます。

⚠ 警告

常にスロットルコントロールの「手応え」に変化がないか注意を払ってください。少しでも変化に気づいたときは、正規Triumphディーラーでスロットルシステムの点検を受けてください。変化の原因がメカニズムの磨耗であった場合、スロットルが固着する可能性があります。

スロットルが固着したり引っ掛かったりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

点検

⚠ 警告

スロットルコントロールに固着や損傷があったりするモーターサイクルを使用すると、スロットルの機能が妨げられ、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

固着したり損傷したりした状態のスロットルコントロールをそのまま使用し続けることがないように、必ず正規Triumphディーラーで点検を受けてください。

必要以上に力を入れなくてもスロットルがスムーズに開き、引っ掛からずに閉じることを確認します。何らかの問題や疑いがある場合は、正規 Triumph ディーラーでスロットルシステムの点検を受けてください。

スロットルグリップを前後に軽く回したときに、スロットルグリップに 1 ～ 2 mm の遊びがあることを確認します。

遊びが不適切な場合は、正規 Triumph ディーラーに調査してもらうことをお勧めします。

クラッチ

本モーターサイクルには油圧クラッチが装備されており、調整は必要ありません。

クラッチフルードレベルの点検と調整

⚠ 警告

必ず、本取扱説明書の仕様の章に記載されているDOT 4仕様のブレーキクラッチフルードを使用してください。仕様の章に記載されている DOT 4 仕様以外のブレーキクラッチフルードを使用すると、クラッチシステムの効率が低下して事故に至る恐れがあります。

定期整備表に記載されている間隔でブレーキクラッチフルードを交換しなかった場合、クラッチの効率が低下して事故に至る恐れがあります。

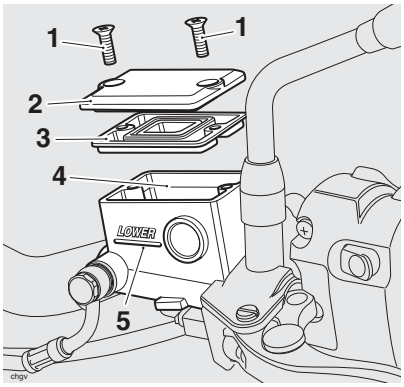
リザーバ内のブレーキクラッチフルードレベルを点検し、定期整備表にしたがって交換します。必ず仕様の章に記載されているDOT 4仕様のブレーキクラッチフルードを使用します。ブレーキクラッチフルードに水分やその他の異物が混入したり、混入した疑いのある場合も、ブレーキクラッチフルードを交換しなければなりません。

リザーバ内のブレーキクラッチフルードレベルは、常に（リザーバが水平の状態で）上限ラインと下限ラインの間でなければいけません。

クラッチリザーバカバーを固定している固定具を取り外したら、ダイアフラムシールの位置を確認してカバーを取り外します。

密閉容器から新しいDOT 4フルードを、上限ラインまでリザーバに補充します。

ダイアフラムシールが正しく取り付けられていることを確認して、リザーバカバーを再び取り付けます。固定具を 1 Nm で締め付けます。



1. 固定具
2. カバー
3. ダイアフラムシール
4. 上限ライン
5. 下限ライン

ファイナルドライブユニット

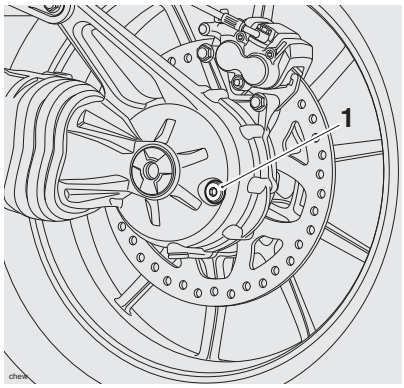
ファイナルドライブユニットでユーザーが点検できるのは、オイルレベルの点検だけです。ファイナルドライブユニットが故障した場合は、Triumph 正規販売店にアッセンブリー全体を交換してもらわなければなりません。

ファイナルドライブユニットのオイル漏れ点検は、定期整備表にしたがって実施します。

警告

どのような状況であっても、ファイナルドライブユニットを分解してはいけません。この警告にしたがわなかった場合、ファイナルドライブユニットの誤作動を引き起こし、後輪がロックアップし、モーターサイクルが制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

ファイナルドライブのオイルレベルの調整

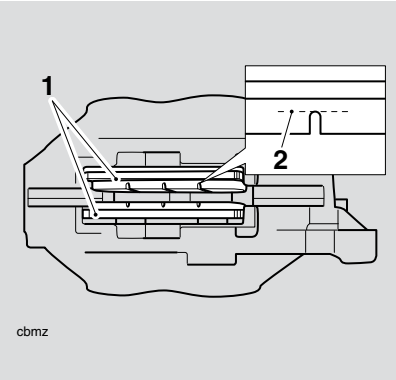


1. フィラーレベルプラグ

ファイナルドライブユニットのオイルレベルを点検する際は、フィラーレベルプラグを取り外します。API サービス分類 GL5 の規格に適合する 75W/90 完全合成のハイポイドギアオイル、例えばCastrol SAF-XO 完全合成ハイポイドギアオイルを、ファイナルドライブユニット内のオイルレベルがフィラー下部と同じ高さになるまで補充します。フィラーレベルプラグを再び取り付けて、**25 Nm** で締め付けます。

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検



1. ブレーキパッド
2. 厚さの下限ライン

ブレーキパッドは、定期整備表にしたがって点検し、摩耗が使用限度に達している場合は交換しなければなりません。

フロントブレーキまたはリアブレーキのいずれかのパッドのライニングが 1.5 mm より薄くなった場合、つまり、パッドの摩耗が溝の底まで達した場合は、そのホイールのパッドをすべて交換します。

新ブレーキパッドと新ブレーキディスクのすり合わせ運転

新しいブレーキディスクやブレーキパッドをモーターサイクルに取り付けた後は、ディスクとパッドの性能を最適化し、耐用寿命が長くなるように、慎重に一定期間すり合わせ運転を行うことをお勧めします。新しいパッドとディスクのすり合わせ運転として、300 km ほど走行するのが理想です。

ブレーキディスクやブレーキパッドを新しくした後は、急ブレーキを避け、慎重な運転を心掛け、制動距離を長めにとってすり合わせ運転を行います。

⚠ 警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換してください。フロントの場合、ひとつのホイールにキャリパーが2つ付いているので、それぞれのキャリパーのブレーキパッドをすべて交換してください。

ブレーキパッドを一度に交換しないと、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。

すべてのブレーキパッドを交換したら、新しいパッドがなじむまで極めて慎重に運転してください。

⚠ 警告

モーターサイクルをオフロードで頻繁に使用すると、ブレーキパッドの摩耗が進みます。モーターサイクルをオフロードで使用する場合は、必ずブレーキパッドを頻繁に点検し、摩耗が使用限度に達する前にブレーキパッドを交換して下さい。

ブレーキパッドが摩耗した状態で走行すると、制動効率が低下し、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ブレーキパッドの磨耗補正

ディスクとブレーキパッドの摩耗は自動的に補正されるため、ブレーキレバーやブレーキペダルの動きに影響を及ぼすことはありません。フロントブレーキにもリアブレーキにも、調整が必要な部品はありません。

⚠ 警告

ブレーキをかけたときに、ブレーキレバーの引き具合やブレーキペダルの踏み具合をやわらかく感じる場合や、ブレーキレバーやブレーキペダルのストロークが長すぎる場合は、ブレーキパイプやブレーキホースに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある可能性があります。

そのような状態でモーターサイクルを運転するのは危険です。必ず、走行前に、正規 Triumph ディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキが故障したまま走行すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表にしたがって交換します。必ず、仕様の章に記載されている DOT 4 のブレーキフルードを使用します。ブレーキフルードに水分やその他の異物が混入したり、混入した疑いのある場合も、ブレーキフルードを交換しなければなりません。

⚠ 警告

ブレーキフルードには吸湿性があるため、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分によってブレーキフルードの沸点が著しく低下すると、制動効率が低減します。

そのため、必ず定期整備表にしたがってブレーキフルードを交換してください。

ブレーキフルードは必ず密封容器に入っている新しいものを使用し、密閉されていない容器や開封済みの容器に入っているブレーキフルードは絶対に使用しないでください。

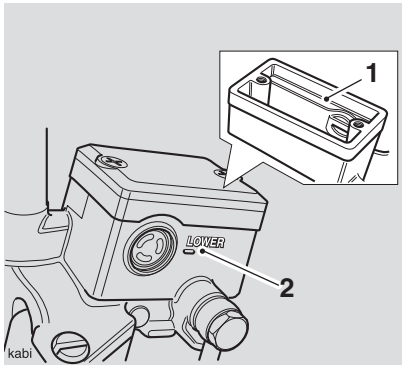
銘柄や等級の異なるブレーキフルードを混ぜて使用してはいけません。

ブレーキの付属器具やシール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂や劣化、損傷がないかも点検してください。

欠陥がある場合は、必ず走行前に修理してください。

これらの警告にしたがわなかった場合は、危険な走行状態に陥り、制御不能になって事故を招く恐れがあります。

フロントブレーキフルードレベルの点検と調整



1. 上限ライン
2. 下限ライン

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、(リザーバが水平の状態で) 上限ラインと下限ラインの間に保たれていなければなりません。

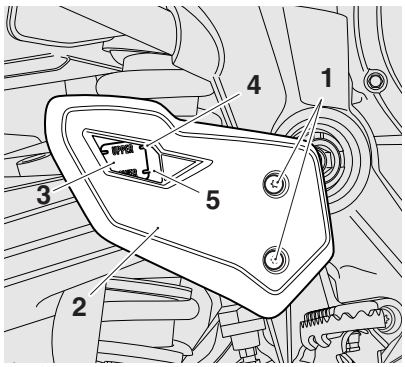
フルードレベルは、リザーバ本体の前面にある窓から点検します。

フルードレベルを調整するには、キャップのネジをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を確認してからカバーを取り外します。

密閉容器から新しい DOT 4 のブレーキフルードを、上限ラインまでリザーバに補充します。

ダイアフラムシールがキャップとリザーバ本体の間に正しく取り付けられていることを確認したら、カバーを元に戻します。キャップの止めネジを 1.5 Nm で締め付けます。

リアブレーキフルードのレベル点検と調整



1. ネジ
2. ヒールガード
3. リアブレーキフルードリザーバ
4. 上限ライン
5. 下限ライン

フルードレベルの点検：

リザーバはモーターサイクルの右側で、ライダーのヒールガードにある点検窓から確認できます。

フルードレベルを調整するには、ネジを外してヒールガードを取り外します。

キャップのネジをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を確認してからカバーを取り外します。

密閉容器から新しい DOT 4 のブレーキフルードを、上限ラインまでリザーバに補充します。

ダイアフラムシールがキャップとリザーバ本体の間に正しく取り付けられていることを確認したら、カバーを元に戻します。キャップの止めネジを 1.5 Nm で締め付けます。

ヒールガードを再び取り付け、ネジを **7 Nm** で締め付けます。

⚠ 警告

どちらかのリザーバのフルードレベルが著しく低下した場合は、走行前に、正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。ブレーキフルードがほとんどない状態、あるいは漏れている状態で走行するのは危険です。ブレーキ性能が低下し、モーターサイクルが制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロントブレーキとリアブレーキのどちらかを操作すれば点灯します。イグニッションスイッチがオンポジションの状態でフロントブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏み込んだりしたときに、ブレーキライトが点灯しない場合は、正規 Triumph ディーラーに点検・修理してもらってください。

⚠ 警告

ブレーキライトが故障した状態でモーターサイクルを運転することは違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターサイクルを運転すると、ライダー自身や周りの道路利用者が負傷する事故を招く恐れがあります。

ステアリング／ホイールベアリング

⚠ 注意

点検中にモーターサイクルが倒れてケガをすることのないように、モーターサイクルを適切な支持台に固定してください。各ホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしてはいけません。モーターサイクルが不安定になって支持台から倒れ、負傷する可能性があります。

支持ブロックはサンプを傷つけない位置に置いてください。

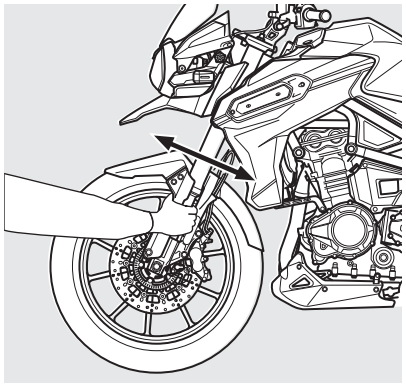
ステアリングの点検

定期整備表にしたがってステアリング（ヘッドストック）ベアリングの状態を点検し、注油を行います。

注記：

- **ステアリングベアリングの点検を行う際は、必ず同時にホイールベアリングも点検してください。**

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検



ステアリングの遊びの点検

点検

モーターサイクルを平らな場所に置いてまっすぐに立てます。

前輪を地面から浮かせてモーターサイクルを支えます。

モーターサイクルの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、走行前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検・修理してもらってください。

⚠ 警告

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの調整が不適切であったり、欠陥があったりする状態で走行すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

支持台を取り外し、モーターサイクルをサイドスタンドで立てます。

ホイールベアリングの点検

前輪または後輪のホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがある場合、ホイールベアリングから騒音がする場合、またはホイールがスムーズに回転しない場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーでホイールベアリングの点検を受けてください。

ホイールベアリングは、定期整備表に指定されている間隔で点検しなければなりません。

モーターサイクルを平らな場所に置いてまっすぐに立てます。

前輪を地面から浮かせてモーターサイクルを支えます。

モーターサイクルの横に立って、前輪の上部をそっと左右にゆすります。

遊びがある場合は、走行前に最寄りの正規 Triumph ディーラーで点検・修理してもらってください。

ジャッキの位置を変えて、後輪も同様に点検します。

⚠ 警告

フロントまたはリアのホイールベアリングに摩耗や損傷のある状態で走行することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。疑わしい点がある場合は、走行前に正規Triumphディーラーで点検を受けてください。

支持台を取り外し、モーターサイクルをサイドスタンドで立てます。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

各フォークに損傷の兆候がないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないか点検します。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

フォークの作動状態の点検：

- モーターサイクルを平らな場所に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かします。
- 動きが滑らかでなかったり硬すぎたりする場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

⚠ 警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターサイクルを運転することは危険であり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

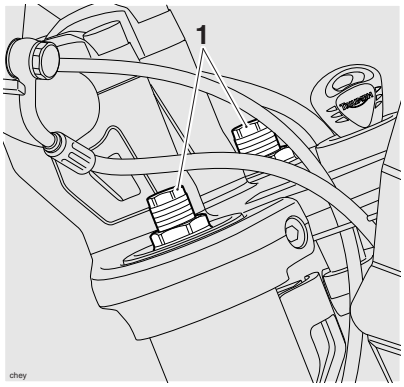
⚠ 警告

すべてのサスペンションユニットには加圧オイルが入っているため、どのユニットも絶対に分解してはいけません。加圧オイルに触れると皮膚や目を傷める恐れがあります。

フロントサスペンションの設定

フロントフォークはスプリングプリロードの調整のみ可能です。

スプリングプリロードの調整



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードアジャスターは、それぞれのフォークの最上部にあります。

スプリングプリロードを増加させるときはアジャスターを時計方向に回し、減少させるときは反時計方向に回して調整します。時計方向に回しきった位置から反時計方向に回した数を数えて、必ず両フォークとも同じ設定にします。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計方向に回しきった位置から反時計方向に 8 回転させた位置にスプリングプリロードを設定した状態で工場から出荷されます。**

フロントサスペンション設定値表

積載状態	スプリングプリロード[1]
単独走行－標準	8
単独走行－軟らかめ	8
ライダーと荷物	8
ライダーと同乗者	8
ライダー、同乗者および荷物	8
[1] 時計方向に回しきった位置から反時計方向に**回した回数**。	

サスペンションの設定値を標準設定にすれば、通常の単独走行の際に、快適な乗り心地と良好なハンドリング特性がもたらされます。上表に記載されているのは、フロントサスペンションの推奨設定値です。

リアサスペンション

リアサスペンション設定値表

積載状態	スプリングプリロード[2]	伸側減衰[2]
単独走行－標準	20	12
単独走行－軟らかめ	20	18
ライダーと荷物	10	12
ライダーと同乗者	0	12
ライダーと同乗者と荷物	0	10
[2] 時計方向に回しきった位置から反時計方向に回して**カチッと音がした回数**。最初の停止位置（カチッと音がする位置）を 1 とする。		

サスペンションの設定値を標準設定にすれば、通常の単独走行の際に、快適な乗り心地と良好なハンドリング特性がもたらされます。上表に記載されているのは、リアサスペンションの推奨設定値です。

スプリングプリロードを上げれば硬めのダンピングが必要となり、下げれば軟らかめのダンピングが必要となります。

ダンピングは路面状況およびスプリングプリロードに合わせて調整しなければなりません。

⚠ 警告

フロントとリアのサスペンションのバランスを適切な状態に保ってください。サスペンションのバランスが悪いと、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。詳細についてはフロントとリアのサスペンション設定値表を参照していただくか、正規販売店にお問い合わせください。

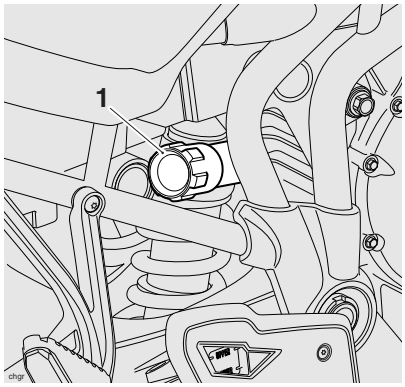
注記：

- **本モーターサイクルは、リアサスペンションをリアサスペンション設定値表（*108* ページを参照）の標準設定にした状態で工場から出荷されます。**
- **設定値表の値は参考値です。ライダーの体重や好みによって設定値は異なります。サスペンションの調整に関してはこれ以降で説明します。**

リアサスペンションの調整

本モーターサイクルのリアサスペンションユニットは、スプリングプリロードの調整と伸側減衰の調整が可能です。

スプリングプリロードの調整



1. スプリングプリロードアジャスター

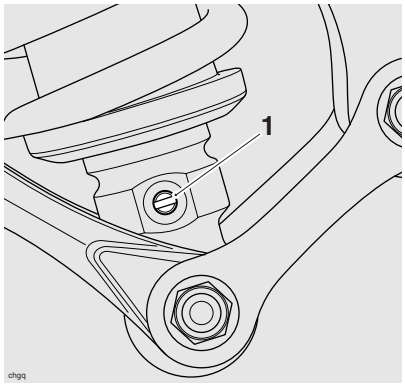
スプリングプリロードアジャスターは、モーターバイクの右側、リアサスペンションユニットの最上部にあります。

スプリングプリロードの設定値を上げるときはアジャスターを時計方向に回し、下げるときは反時計方向に回して調整します。

注記：

- **設定値は、アジャスターを時計方向に回しきった位置（一番硬い位置）から反時計方向に回してカチッと音がした回数で示します。**
- **本モーターサイクルは、時計方向に回しきった位置から反時計方向に回して 20 回カチッと音がした位置にスプリングプリロードを設定した状態で工場から出荷されます。**

伸側減衰の調整



1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、リアサスペンションユニットの下部にあり、モーターサイクルの左側から作業できます。

伸側減衰の設定値を上げるときはスロット付きアジャスターを時計方向に回し、下げるときは反時計方向に回して調整します。

注記：

- **設定値は、アジャスターを時計方向に回しきった位置（一番硬い位置）から反時計方向に回してカチッと音がした回数で示します。**
- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から反時計方向に回して 12 回カチッと音がした位置に伸側減衰アジャスターを設定した状態で工場から出荷されます。**

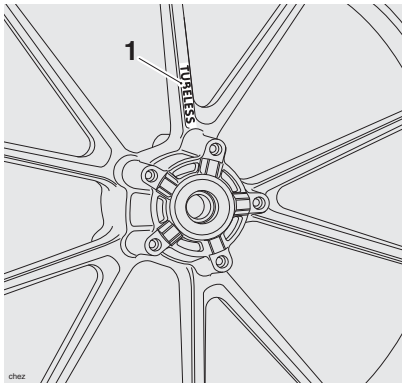
タイヤ

本モデルにはチューブレスタイヤ、チューブレス用のバルブとホイールリムが装備されています。必ず「TUBELESS（チューブレス）」のマークのついたタイヤとチューブレスバルブを「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES（チューブレスタイヤ用）」のマークのついたリムに取り付けてください。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブ式タイヤを取り付けないでください。ビードが固定されず、タイヤがリムの上でスリップするため、タイヤ空気圧が急激に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れることは絶対にやめてください。インナーチューブを入れるとタイヤ内部の摩擦によって熱が発生するため、チューブが破裂してタイヤ空気圧が急速に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

典型的なタイヤマークーチューブレスタイヤ



1. ホイールマーク - チューブレスホイール

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧を適正にすることで、高い安定性と快適な乗り心地がもたらされ、タイヤの寿命も延びます。必ず走行前のタイヤ冷間時にタイヤ空気圧を点検してください。タイヤ空気圧は日常的に点検し、必要に応じて調整してください(適切な空気圧については仕様の章を参照)。または、最寄りの正規Triumphディーラーでホイールとタイヤの点検を受けてください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（装着されている場合）

計器盤に表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時点の空気圧です。運転中にタイヤが温められるとタイヤ内の空気が膨張して空気圧が上がるため、計器盤に表示された空気圧とタイヤ冷間時に設定した空気圧が異なる場合があります。Triumph 社は、このような空気の膨張を考慮して冷間時のタイヤ空気圧を規定しています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して必ず冷間時に行ってください。計器盤に表示された空気圧を見て調整してはいけません。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不適切な場合、トレッドが異常に磨耗し、安定性が低下するため、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがリムの上でスリップしたり、リムから外れることがあります。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗が早まります。

空気圧は低すぎても高すぎても危険であり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

オフロード走行用に低く設定したタイヤ空気圧のままオンロードで走行すると、安定性が損なわれます。必ず、仕様の章に記載されているオンロード用のタイヤ空気圧にしたがって、空気圧を設定してください。

タイヤ空気圧が不適切なままでモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの磨耗

cboa

タイヤのトレッドが摩耗するにつれ、タイヤはパンクしやすくなります。タイヤに関する問題の 90%は、トレッド寿命が残り 10%となった以降に（摩耗が 90%進んだ状態）で発生すると考えられています。したがって、タイヤを摩耗限界まで使用することはお勧めできません。

トレッドの推奨最小深度

定期整備表したがって、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下表の許容最小限度まであるいはそれ以上磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

時速 130 km/h 以下	2 mm
時速 130 km/h 超	リア 3 mm フロント 2 mm

⚠ 警告

サーキット以外の場所では、法定制限速度を超えるスピードでモーターサイクルを運転してはなりません。

⚠ 警告

本 Triumph モーターサイクルは、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ高速走行してください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。その他の状況での高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険です。トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤがパンクすると、多くの場合、空気は非常にゆっくりと漏れていきます。タイヤがパンクしていないか必ず念入りに点検してください。また、タイヤに切り傷がないか、釘や何かとがったものが刺さっていないか点検してください。パンクしたタイヤや損傷したタイヤで走行すると、安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

リムにへこみや変形がないか、スポークにゆるみや損傷がないか点検してください。ホイールやスポークまたはタイヤに損傷や欠陥がある状態で走行するのは危険であり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの交換やホイール、スポーク、タイヤの安全点検については、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

タイヤの交換

Triumph 製のモーターサイクルはすべて、そのモデルに最も適したタイヤの組み合わせでタイヤを認可するために、さまざまな走行条件で徹底的にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、認可されたタイヤを認可された組み合わせで使用しなければなりません。認可されていないタイヤを使ったり、認可タイヤを認可されていない組み合わせで使ったりすると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。ABS が装備されているモデルの場合、認可されていないタイヤを取り付けるとホイール速度の違いが生じ、ABS コンピューターの機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。
認可タイヤの組み合わせの詳細については、「仕様」の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全かつ効果的にタイヤの取り付けを行うための必要なトレーニングを受け、技術を習得している正規Triumphディーラーにご依頼ください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS 装着モデルのみ)

⚠ 注意

タイヤ空気圧センサーの取付位置を示すラベルが、ホイールリムに貼り付けられています。タイヤ交換時に、タイヤ空気圧センサーを傷つけないように注意してください。タイヤの取り付けは必ず正規 Triumph ディーラーに依頼し、その際、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることをディーラーに伝えてください。

⚠ 警告

推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイール速度が変化し、Triumph トラクションコントロールが動作しなくなる可能性があります。そのため、通常なら Triumph トラクションコントロールが機能するはずの状況でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ABS コンピューターは、フロントホイールとリアホイールの相対速度を比較することによって作動します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイール速度が変化し、ABS が作動しなくなる恐れがあります。そのため通常なら ABS が機能するはずの状況下でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

パンクしたタイヤは交換してください。パンクしたタイヤを交換しなかったり、パンクを修理したタイヤで走行したりすると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブ式タイヤを取り付けないでください。ビードが固定されず、タイヤがリムの上でスリップするため、タイヤ空気圧が急激に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れることは絶対にやめてください。インナーチューブを入れるとタイヤ内部の摩擦によって熱が発生するため、チューブが破裂してタイヤ空気圧が急速に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

縁石にぶつかった後などでタイヤが損傷した疑いがある場合は、正規 Triumph ディーラーでタイヤの内側と外側の点検を受けてください。タイヤの損傷は外側からでは見えないことがあります。タイヤに損傷がある状態でモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

タイヤやインナーチューブの交換が必要なときは、正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。正規 Triumph ディーラーにて、認定リストの中から正しい組み合わせのタイヤとインナーチューブを選択し、タイヤとインナーチューブのメーカーの指示にしたがって取り付けを致します。

タイヤとインナーチューブを交換後は、タイヤとインナーチューブがリムに固定されるまで時間がかかります（約 24 時間）。それぞれがリムに固定されるまでの間は、慎重に走行してください。タイヤやインナーチューブがきちっと固定されないと、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

最初の内は、新しいタイヤとインナーチューブが、摩耗したタイヤとインナーチューブとは異なるハンドリング特性を示します。ライダーが新しいハンドリング特性に慣れるためには、十分な走行距離（約 160 km）が必要です。

取り付けから 24 時間後にタイヤ空気圧を点検・調整し、タイヤとインナーチューブがきちんと固定されているか確認してください。必要に応じて調整してください。

取り付け後 160 km 走行した時点で、同様の点検・調整を行ってください。

タイヤやインナーチューブがきちんと固定されていなかったり、タイヤ空気圧の調整が不適切であったり、ハンドリング特性に慣れていない状態で運転したりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用したタイヤは損傷していることがあります。タイヤの外表面からは損傷が見えないこともあります。ローリングロードダイナモメーター上で使用したタイヤは必ず交換してください。損傷したタイヤをそのまま使用すると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

タイヤがきちんと固定されていなかったり、タイヤ空気圧の調整が不適切であったり、ハンドリング特性に慣れていない状態で運転したりすると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

モーターサイクルの安全で安定した操縦性に必要なのは、正確なホイールバランスです。ホイールバランスウエイト取り外したり変えたりしてはいけません。ホイールバランスが不適切になると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤを交換した後など、ホイールバランスの調整が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

自己接着型のウエイト以外は使用しないでください。クリップ式ウェイトを使用するとホイールやタイヤが損傷することがあり、タイヤ空気圧が低下して制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生することがあります。火花、炎、タバコなどを絶対に近づけないでください。閉めきった場所でバッテリーを充電したり使用したりするときは、十分に換気してください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が含まれています。皮膚や目に付着すると重度の火傷を負うことがあります。防護服と顔用保護具を着用してください。

バッテリー液が皮膚についた場合は、ただちに水で洗い流してください。

バッテリー液が目に入った場合は、最低15 分間水で洗い、すぐに医師の手当てを受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合は、水を大量に飲み、すぐに医師の手当てを受けてください。

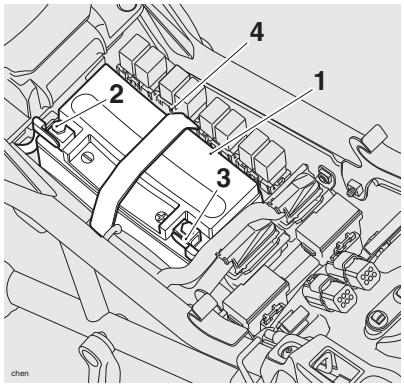
子供がバッテリー液に触れることがないようにしてください。

⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーがモーターサイクルに取り付けられていても、取り付けられていなくても、必ず子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにブースターケーブルを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの極性を逆に接続したりしないでください。火花が生じて、バッテリーのガスに引火し、負傷する危険があります。

バッテリーの取り外し



1. バッテリー
2. マイナス（黒）端子
3. プラス（赤）端子
4. バッテリーストラップ

ライダーシートを取り外します。

バッテリーストラップを外します。

バッテリーのリード線を、マイナス（黒）から先に取り外します。

バッテリーをケースから取り出します。

⚠ 警告

バッテリー端子が、モーターサイクルのフレームに触れないように気をつけてください。ショートを起こしたり火花が生じたりすると、バッテリーのガスに引火し、負傷する危険があります。

バッテリーの廃棄処分

バッテリー交換が必要になった場合、バッテリーの原料となっている有害物質が環境を汚染することのないよう適切に処分できる回収業者に古いバッテリーを引き渡してください。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落とします。必ず、ケーブル接続部の汚れも落としてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があり有毒なため、皮膚が露出していると皮膚を傷めることがあります。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚に付着させたりしてはいけません。バッテリーを取り扱うときは、必ず目や皮膚を覆う保護具を着用し、ケガを防いでください。

本バッテリーは密閉タイプであり、保管中などに必要に応じて電圧を点検したり、定期的に充電したりする以外は、整備の必要はありません。

バッテリー内のバッテリー液の量を調整することはできませんので、シールストリップを取り外さないでください。

バッテリーの放電

⚠ 注意

バッテリー寿命を延ばすためには、バッテリーの充電レベルを保つ必要があります。

バッテリーの充電レベルが低下すると、バッテリー内部が激しく損傷する可能性があります。

通常の使用状況下では、モーターサイクルの充電システムによって、バッテリーがフル充電の状態に保たれます。ただし、モーターサイクルを放置しておくと、自己放電という現象が生じ、バッテリーは次第に放電していきます。バッテリーの放電が進む要因としては、時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高温、電動式安全システムや電動式アクセサリーの追加などがあります。モーターサイクル保管時は、バッテリーを外しておけば、放電を抑えることができます。

モーターサイクル保管時と使用頻度の低いモーターサイクルのバッテリー整備

モーターサイクルを保管している間やモーターサイクルの使用頻度が低いときは、デジタルマルチメーターを使用して週に1度、バッテリー電圧を点検します。デジタルマルチメーターに同梱されているメーカーの説明書にしたがってください。

バッテリー電圧が 12.7 V以下になった場合は、バッテリーを充電してください(*119* ページを参照)。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ短時間でも放電したまま放置したりすると、鉛極板が硫酸化します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長期間続くと電極板に結晶が付着し、バッテリーの再生が困難になったり、不可能になったりします。このような回復不能な損傷は、製造上の欠陥ではないため、モーターサイクルの保証対象ではありません。

バッテリーを常にフル充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部が激しく損傷する可能性があります。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選び方、バッテリー電圧の点検方法、またはバッテリーの充電方法についての詳細は、最寄りの正規Triumphディーラーにお問い合わせください。

⚠ 警告

バッテリーからは爆発性のガスが発生します。火花、炎、タバコなどを絶対に近づけないでください。閉めきった場所でバッテリーを充電したり使用したりするときは、十分に換気してください。

バッテリーには硫酸(バッテリー液)が含まれています。皮膚や目に付着すると重度の火傷を負うことがあります。防護服と顔用保護具を着用してください。

バッテリー液が皮膚についた場合は、ただちに水で洗い流してください。

バッテリー液が目に入った場合は、最低15 分間水で洗い、すぐに医師の手当てを受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合は、水を大量に飲み、すぐに医師の手当てを受けてください。

子供がバッテリー液に触れることがないようにしてください。

⚠ 注意

自動車用クイックチャージャーは使用しないでください。充電しすぎたり、バッテリーやオルタネーターを損傷したりすることがあります。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合は、Triumph が承認したバッテリー充電器でバッテリーを充電してください。必ずバッテリー充電器のメーカーの説明書にしたがってください。

モーターサイクルを長期にわたって（2 週間以上）保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認した整備用充電器を使用して充電した状態に保ってください。

モーターサイクルを始動できないレベルまでバッテリー電圧が低下した場合も、同じようにバッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

バッテリー端子が、モーターサイクルのフレームに触れないように気をつけてください。ショートを起こしたり火花が生じたりすると、バッテリーのガスに引火し、負傷する危険があります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

腐食を防ぐために、各端子にグリースを薄く塗布します。

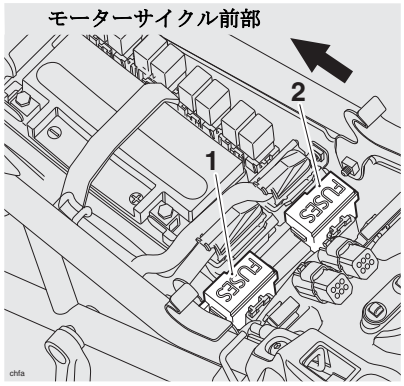
プラス端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

ライダーシートを再び取り付けます。

ヒューズボックス

メインヒューズボックス

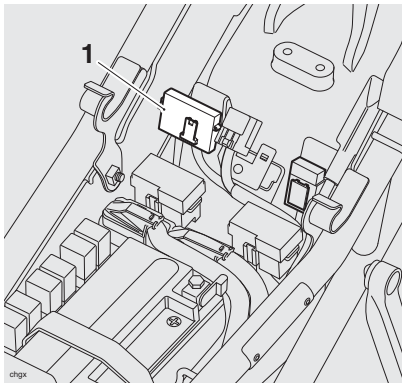


1. 左側ヒューズボックス
2. 右側ヒューズボックス

ヒューズボックスはライダーシートの下にあります。

ヒューズボックスの作業をするには、ライダーシートを取り外す必要があります。

ABS ヒューズボックス



1. ABS ヒューズボックス

ABS ヒューズボックスは、ライダーシートの下、右側のメインヒューズボックスの後方にあります。

ABS ヒューズボックスの作業をするには、ライダーシートを取り外す必要があります。

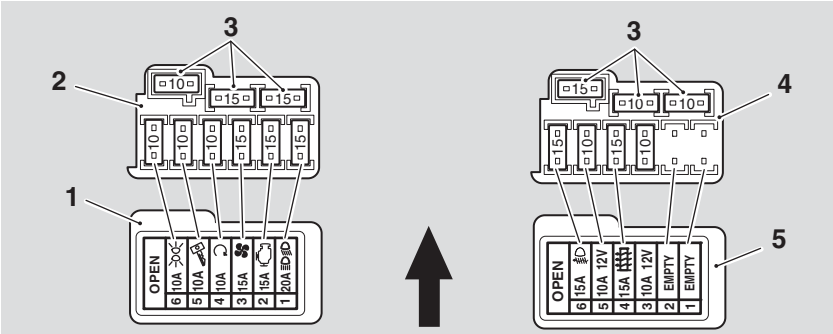
⚠ 警告

ヒューズが切れたときは、必ず、(ヒューズボックスのカバーに明記されている) 正しい定格の新品のヒューズと交換してください。絶対に既定の定格を超えたヒューズを使用してはいけません。不適切なヒューズを使用すると電気系統に問題が生じて、モーターサイクルが損傷し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ヒューズの識別

ヒューズが切れると、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、どのヒューズが切れたか特定できます。ヒューズが切れていないか点検するときは、下表を参考にしてどのヒューズが切れたかを突き止めてください。

下表に記載されているヒューズ識別番号は、下の図中のヒューズボックスカバーの番号とそれぞれ対応しています。スペアヒューズはメインヒューズに対して直角に置かれており、スペアヒューズを使った場合は補充する必要があります。



モーターサイクル前部

1. 左側ヒューズボックスカバー
2. 左側ヒューズボックス
3. スペアヒューズ
4. 右側ヒューズボックス
5. 右側ヒューズボックスカバー

左側ヒューズボックス

保護回路	位置	定格（アンペア）
ヘッドライト	1	20
エンジン管理	2	15
冷却ファン	3	15
燃料ポンプ	4	10
イグニッション、計器盤	5	10
テールライト、ブレーキライト、ホーン	6	10

右側ヒューズボックス

保護回路	位置	定格（アンペア）
未使用	1	–
未使用	2	–
ライダー補助ソケット	3	10
ヒートグリップ、シートヒーター、リアシート補助ソケット	4	15
トップボックス補助ソケット	5	10
フォグランプ	6	15

ABS ヒューズボックス

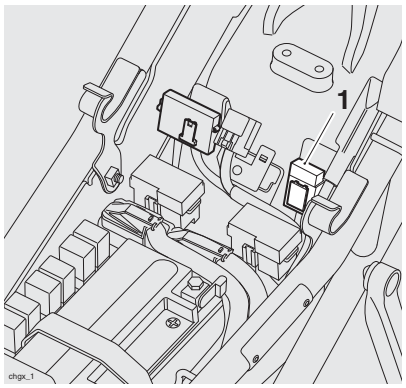
保護回路	位置	定格（アンペア）
ABS	1	20
ABS	2	20

ABS ヒューズボックスの作業をするには、ライダーシートを取り外す必要があります。

メインヒューズ

40 A のメインヒューズは、ライダーシートの下、左側のメインヒューズボックスの後方にあります。

メインヒューズの作業をするには、ライダーシートを取り外す必要があります。



1. メインヒューズ

ヘッドライト

ヘッドライト

⚠ 警告

走行速度は、モーターサイクル走行時の視界の状況や気象条件に合わせて調整してください。

対向車を幻惑させることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようにビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が十分に確保できず事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

走行中は、絶対にヘッドライトビームを調整してはいけません。

走行中にヘッドライトビームを調整しようとすると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

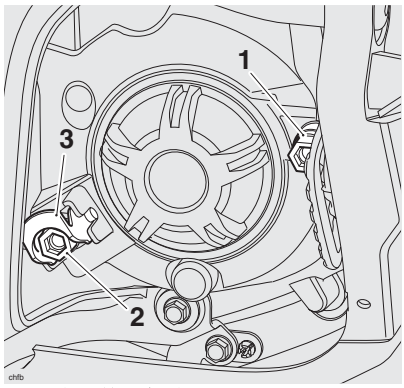
⚠ 注意

定められたコースでモーターサイクルを運転する場合は、ヘッドライトの表面にテープを貼るよう求められることがあります。

テープを貼るとヘッドライトが熱を帯び、外面が変形します。定められたコースで走行するためにヘッドライトにテープを貼るときは、必ずヘッドライトを切って変形を防止してください。

ヘッドライトの調整

各ヘッドライトは、それぞれのヘッドライトの裏側にある、上下調整用ネジと左右調整用ネジを使って調整できます。加えて、ヘッドライドには便利なアジャスターも装着されているため、モーターサイクルの最大積載時に上下方向の調整を修正することができます。



1. **左右調整用ネジ**
2. **上下調整用ネジ**
3. **積載時用ヘッドライトアジャスターレバー**

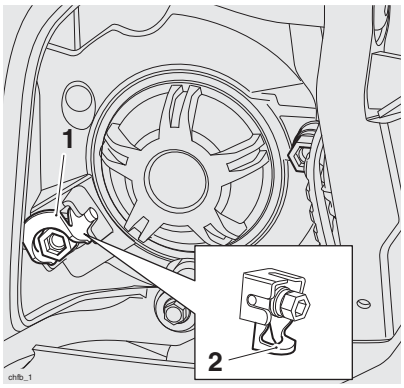
ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ビームを上げるときはヘッドライトの上下調整用ネジを時計方向に回し、ビームを下げるときは反時計方向に回します。

ビームを右に向けるときは左右調整用ネジを時計方向に回し、ビームを左に向けるときは反時計方向に回します。

ビームの設定が完了したら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

積載時用ヘッドライトアジャスターレバー



1. **ヘッドライトアジャスターレバー（空車時の位置）**
2. **ヘッドライトアジャスターレバー（積載時の位置）**

通常の状態（空車時）では、ヘッドライトアジャスターレバーは水平位置（1）にあります。

積載状態では、ヘッドライトアジャスターレバーが（2）の位置で停止するまで、レバーを下側に向かって回します。そうするとヘッドライトビームが約2°下向きになります。

ヘッドライトバルブの交換

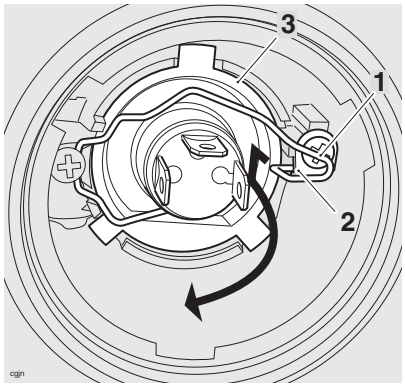
⚠ 注意

認可されていないヘッドライトバルブを使用すると、ヘッドライトレンズを損傷する場合があります。

Triumphパーツカタログに掲載されている、Triumph 提供の純正ヘッドライトバルブを使用してください。

ヘッドライトバルブの交換は、必ず正規Triumph ディーラーにご依頼ください。

ヘッドライトバルブを交換するときに、ヘッドライトを取り外す必要はありません。



1. バルブリテーナー（図は右側）
2. バルブリテーナーフック
3. バルブ

⚠ 警告

使用中はバルブが高温になります。必ず、バルブが十分冷えてから取り扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたりガラスが汚れたりした場合は、再び使用する前にアルコールで拭いてください。

バルブの交換：

ライダーシートを取り外します。

バッテリーのリード線を、マイナス（黒）から先に取り外します。

交換するバルブのバルブカバーを反時計方向に回して、バルブから取り外します。

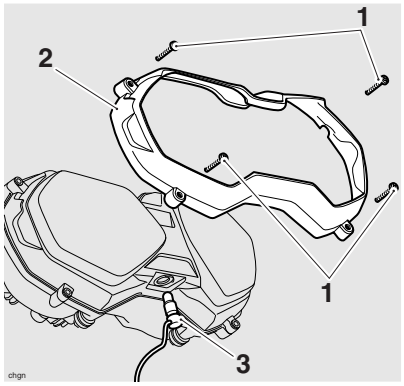
バルブからマルチプラグを抜きます。

バルブリテーナーをヘッドライトアッセンブリーのフックから外し、図示されている方向に回してバルブから遠ざけます。

バルブをバルブリテーナーから取り外します。

取り付けは、取り外したときと逆の手順で行ないます。

ポジションランプバルブの交換



1. 固定具
2. ヘッドライト枠
3. ポジションランプバルブ

ポジションランプはヘッドライトの中央に取り付けられています。バルブを交換するには、まず固定具 4 個を外してヘッドライト枠を取り外し、次にゴム製リテーナーをヘッドライトから外してバルブを抜きます。

取り付けは、取り外したときと逆の手順で行ないます。

フロントフォグランプ – 装着されている場合

フロントフォグランプバルブの交換

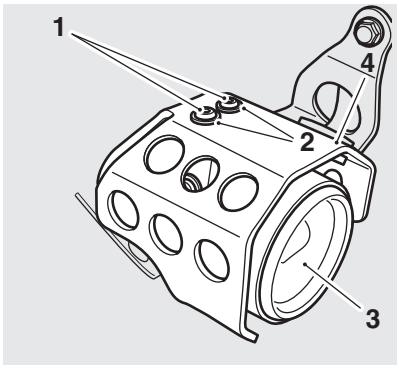
⚠ 警告

使用中はバルブが高温になります。必ず、バルブが十分冷えてから取り扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたりガラスが汚れたりした場合は、再び使用する前にアルコールで拭いてください。

⚠ 注意

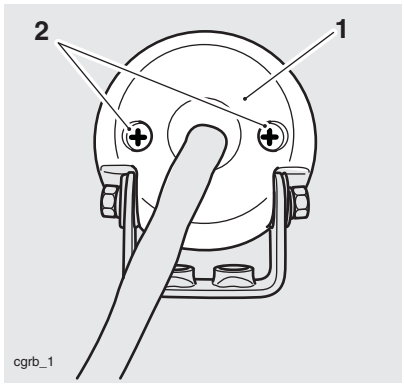
バルブ交換中は、ハーネスに接続されたフォグランプを宙に浮いた状態にしないでください。宙に浮いた状態にすると、フォグランプが損傷します。

1. 固定具とワッシャーを取り外したら、フォグランプをシュラウドから取り外します。



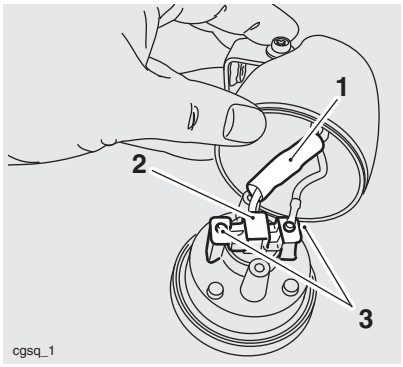
1. 固定具
2. ワッシャー
3. フォグランプ
4. シュラウド

2. フォグランプユニットの後側から固定具2個を取り外します。



1. フォグランプ
2. 固定具

3. レンズをケースから抜きます。
4. フォグランプユニット内部のギボシ端子を外します。
5. バルブリテーナーを固定している固定具2個を取り外して、バルブを取り外します。



1. ギボシ端子
2. バルブリテーナー
3. 固定具

6. 取り付けは、取り外したときと逆の手順で行ないます。

⚠ 注意

Triumphパーツカタログに掲載されている、Triumph提供の純正バルブを使用してください。
バルブの交換は、必ず正規 Triumphディーラーにご依頼ください。

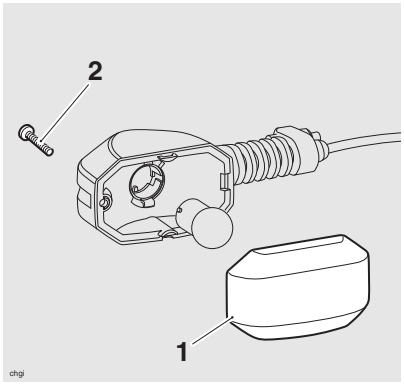
リアライト / ライセンスプレートライト

リアライト / ライセンスプレートライトの交換

リアライトユニットは、密封式で保守不要の LED ユニットです。ライセンスプレートライトは、リアライトユニットと一体型です。

方向指示器

バルブの交換



1. インジケーターレンズ
2. 固定ネジ

各方向指示器のレンズは、レンズに付いているネジで所定の位置に固定されています。

バルブを交換するには、ネジを外してレンズを取り外します。

洗車

定期的に洗車を行なうことは、モーターサイクルの整備の基本です。定期的に洗車をすれば、美しい外観を何年も保つことができます。洗車には必ず自動車用洗剤と冷水を使用します。特に、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道を走行した後、また冬季に融雪剤をまいた路面を走行した後には、自動車用洗剤と冷水で洗車することが重要です。家庭用洗剤は腐食を進行させることがあるため、使用しないでください。

ご所有のモーターサイクルの保証条件に基づき、特定の部品の腐食は保証対象となっていますが、腐食を防いでモーターサイクルの外観を保つために、ご自身で上述の事項を順守していただく必要があります。

洗車の準備

以下の箇所には洗車の前にカバー等をかけて、水がかからないようにします。

排気管の後部開口部：ビニール袋をかぶせてゴムバンドで固定します。

クラッチレバー、ブレーキレバー、ハンドルのスイッチハウジング：ビニール袋をかぶせます。

イグニッションスイッチとステアリングロック：キーホールにテープを貼ります。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルといった装飾品は取り外します。装飾品を外さないと、塗装面や研磨面にひっかき傷をつけたり、損傷を与えたりすることがあります。

スポンジや布は、塗装面・研磨面用と、シャーシ用と、それぞれ別のものを使用します。シャーシ付近（マッドガードの下やホイール）は、ざらざらした道路の汚れやほこりにさらされることが多いため、シャーシ付近に使用したスポンジや布で塗装面や研磨面を拭くと、表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

要注意箇所

以下の箇所の近くに勢いよく水を吹き付けてはいけません。

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ヘッドストックベアリング。

⚠ 注意

吸気ダクトの周囲に吹き付けた水がエアボックスやエンジンに浸入して、それぞれに損傷を与える可能性があります。

⚠ 注意

高圧スプレー洗浄機の使用はお勧めしません。高圧スプレー洗浄機を使用すると、ベアリングなどの部品に水が浸入し、腐食や潤滑不足を招き、摩耗が進行することがあります。

注記：

- **アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装面に洗剤が残り、水滴の跡が残ることがあります。洗車をスムーズに行うために、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。**

洗車後

ビニール袋とテープを取り外し、吸気口をきれいにします。

ピボット、ボルト、ナットに注油します。

モーターサイクルを運転する前に、ブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないように適切に換気します。

乾いた布で残った水分を拭き取ります。腐食の原因となるため、モーターサイクルに水分をつけたままにしてはいけません。

⚠ 警告

ブレーキディスクにワックスをかけたり潤滑油を塗布したりすることは絶対にやめてください。制動力が低下し、事故を招く恐れがあります。ブレーキディスクを拭くときは、オイルフリーのブレーキディス専用クリーナーを使用してください。

シートケア

⚠ 注意

化学薬品や高圧スプレー洗浄機でシートをクリーニングすることはお勧めしません。化学薬品や高圧スプレー洗浄機を使用すると、シートカバーを傷める可能性があります。

シートを美しく保つためには、スポンジかクリーニング用の布に石鹸水を含ませて、シートの汚れを落とします。

塗装されていないアルミニウム部品

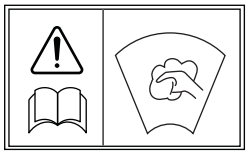
一部モデルのブレーキレバー、クラッチレバー、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨーク等は、その外観を保つために正しい方法で清掃を行わなければなりません。ご所有のモーターサイクルで、どれが未塗装のアルミニウム部品か分からない場合は、正規販売店にお問い合わせください。

アルミニウム専用クリーナーを使用してください。

アルミニウム部品は定期的に清掃してください。特に、悪天候の中を走行した後は、必ずモーターサイクルを手洗いし、乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりません。

ウィンドスクリーンの洗浄



ウィンドスクリーンは、中性石鹸または中性洗剤と、ぬるま湯を使用して洗浄します。洗浄後はよくすすいでから柔らかい布で水分を拭き取ります。

⚠ 注意

窓用洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、または強溶剤であるアルコール、アセトン、四塩化炭素などを使用すると、ウィンドスクリーンが損傷します。これらの製品をウィンドスクリーンに接触させることは絶対にやめてください。

傷や酸化が除去できず、ウィンドスクリーンの透明度が低下した場合は、ウィンドスクリーンを交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターサイクルの走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとすることは絶対にやめてください。ハンドルから手を離すと制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

損傷やひっかき傷のあるウィンドスクリーンでモーターサイクルを運転すると、ライダーの前方の視界が十分に確保できません。前方がよく見えない状態で走行することは危険であり、負傷事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 注意

バッテリー液等の腐食性化学物質は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。ウィンドスクリーンに腐食性化学物質を接触させることは絶対にやめてください。

排気装置の清掃

モーターサイクルの排気装置の部品は、外観が損なわれないないようにするために、すべて定期的に清掃する必要があります。

注記：

- **水滴の跡が残らないように、排気装置が冷えてから洗浄してください。**

洗浄

冷水と中性の自動車用洗剤を混合します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤を使用すると、表面に洗剤が残ってしまうため、使用しないでください。

柔らかい布を使って排気装置を洗浄します。研磨パッドやスチールウールを使用してはいけません。研磨パッドやスチールウールを使用すると表面が傷つきます。

排気装置を丁寧にすすぎます。

マフラーに石鹸や水が入らないようにすすぎます。

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を拭き取ります。エンジンをかけて排気装置を乾燥させてはいけません。水滴の跡が残ってしまいます。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect 」を表面にすり込みます。

⚠ 注意

研磨洗浄剤やポリッシャーを使うと排気装置を損傷することがあるため、使用しないでください。

排気装置の外観を保護し、美しさを保つために、排気装置に定期的に保護剤を塗布することをお勧めします。

保管

保管前の準備

モーターサイクル全体を丁寧に洗浄し、乾燥させます。

燃料タンクに適正な等級の無鉛ガソリンを給油し、燃料安定剤があれば、燃料安定剤メーカーの指示したがって加えます。

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性が高く、特定の条件下では爆発する可能性があります。そのため、イグニッションスイッチはオフにしてください。喫煙もいけません。換気が良く、火気がない場所であることを確認してください。パイロットランプのついた器具も使用できません。

各シリンダーからスパークプラグを取り外し、それぞれのシリンダーにエンジンオイルを数滴（5 ml）垂らします。スパークプラグ孔を布きれでふさぎます。エンジンストップスイッチをRUNポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付け、**12 Nm** で締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（*94*ページを参照）。

タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します（*139*ページを参照）。

両輪が地面から浮き上がった状態になるように、モーターサイクルをスタンドで支えます。（両輪を浮き上がらせることができない場合は、前輪と後輪の下に板を置いて、タイヤを湿気から保護してください。）

さびを防ぐため、塗装されていないすべての金属面に防錆油をスプレーします（いろいろな防錆油が市販されているため、最寄りの正規販売店でご相談ください）。ゴム製部品やブレーキディスク、ブレーキキャリパーに防錆油が付着しないようにしてください。

冷却装置には、クーラントと蒸留水を 50% ずつ混合した溶液を充填します。（Triumphが提供するHD4X ハイブリッド OATクーラントは、事前に混合してあるため希釈する必要はありません。）（*96*ページを参照。）

バッテリーを取り外し、直射日光や湿気や氷点下の気温にさらされない場所に保管します。保管中のバッテリーは、2 週間に 1 度、維持充電（1 アンペア以下）してください（*117*ページを参照）。

モーターサイクルは、涼しく、乾燥した、日光の当たらない、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

ほこりやごみが付着しないように、モーターサイクルに通気性のある適切なカバーをかけます。プラスチック製カバーのように、通気性がなく、熱や湿気のこもりやすい材質のカバーは使用しないでください。

保管後の走行準備

バッテリーを取り外した場合は、再度取り付けます（*120*ページを参照）。

モーターサイクルを4ヶ月以上保管していた場合は、エンジンオイルを交換します（*94*ページを参照）。

「日常の安全点検」に記載されている項目をすべて点検します。

エンジンを始動する前に、各シリンダーからスパークプラグを取り外します。

サイドスタンドをおろします。

油圧警告灯が消灯するまで、スターターモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し、**12 Nm**で締め付け、エンジンを始動させます。

タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整します（*139*ページを参照）。

車体全体を丁寧に清掃します。

ブレーキが正常に作動するか点検します。

モーターサイクルを低速で試運転します。

仕様

寸法

全長.	2248 mm
全幅.	885 mm
全高.	1410 mm
軸間距離.	1530 mm
シート高.	837 mm

重量

湿重量.	259 kg
最大車載重量.	222 kg

エンジン

タイプ.	直列３気筒
排気量.	1215 cc
ボア x ストローク	85 x 71.4 mm
圧縮比.	11:1
シリンダナンバー.	左から右へ
シリンダーの順番.	左側が 1
点火順.	1-2-3
始動方式.	電動スターター

仕様

性能

最大出力 (95/1/EC).	100.74 kW (137 PS/135 bhp) / 9,000 rpm
最大トルク.	121 Nm / 6,400 rpm

潤滑

潤滑.	圧力潤滑 (ウェットサンプ方式)

エンジンオイル容量

ドライフィル.	4.5 リッター
オイル / フィルター交換.	4.0 リッター
オイル交換のみ.	3.85 リッター

クーリング

クーラントタイプ.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
水 / 不凍剤比.	50 対 50 (Triumph が事前に調合して提供)
クーラント容量.	2.8 リッター
サーモスタットオープン (公称) .	88° C (公称)

燃料システム

タイプ.	電子燃料噴射
インジェクター.	ソレノイド操作式
燃料ポンプ.	サブマージ電動型
燃料圧（公称）.	3.5 バール

燃料

タイプ.	無鉛 91 RON
タンク容量. . . . . (モーターサイクル直立)	20.0 リッター

イグニッション

点火装置.	デジタル誘導式
電子レブリミター（r/min）. . . .	9,500（r/min）
スパークプラグ.	NGK CR8EK
スパークプラグギャップ.	0.7 mm
許容ギャップ.	+0.05/-0.1 mm

仕様

トランスミッション

トランスミッションタイプ. . . .	6 速、常時噛合式
クラッチタイプ.	湿式多版
ファイナルドライブ比.	2.557:1
ギア比：	
フロントベベルボックス.	1.042:1 (24/25)
リアベベルボックス.	2.455:1 (11/27)
1 速	2.846:1 (13/37)
2 速	2.056:1 (18/37)
3 速	1.583:1 (24/38)
4 速	1.333:1 (21/28)
5 速	1.138:1 (29/33)
6 速	1.037:1 (27/28)

タイヤ

タイヤサイズ：

フロントサイズ.	110/80 - R19
リアサイズ.	150/70 - R17

タイヤ空気圧（冷間時）：

フロント.	2.48 バール
リア.	2.90 バール

⚠ 警告

必ず、推奨タイヤを指定された組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤを混用したり、また同じメーカー製でも仕様の異なるタイヤを混用したりしないでください。モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

認可タイヤ：

フロント用オプション 1.	Metzeler Tourance EXP
リア用オプション 1.	Metzeler Tourance EXP - M 仕様
フロント用オプション 2.	Pirelli Scorpion Trail
リア用オプション 2.	Pirelli Scorpion Trail
フロント用オプション 3.	Bridgestone BW501
リア用オプション 3.	Bridgestone BW502

注記：

- **上記のリア用オプション 1 ではタイヤのタイプが M 仕様と文字で特定されていますが、特定されていない場合はメーカーの標準仕様のタイヤを使用してください。**

仕様

電装品

バッテリータイプ.	YTX20L-BS
バッテリー定格.	12 V、18 Ah
オルタネーター.	4,000 rpm 時、12 V、70 A
ヘッドライト.	2 x 12 V 55/60 W H4 ハロゲン
テール / ブレーキライト.	LED
パーキングライト.	12 V、5 W
フォグランプ.	H3 ハロゲン 12 V、55 W
方向指示器.	12 V、10 W、黄色

フレーム

すくい角.	23.9°
トレール.	105.5 mm

	全モデル
締付トルク	
オイルフィルター.	10 Nm
オイルドレンプラグ.	25 Nm
スパークプラグ.	12 Nm
リアホイールナット.	70 Nm
フルードと潤滑剤	
エンジンオイル.	API SH（またはそれ以上）**および** JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターサイクル用エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）
ブレーキクラッチフルード. . . .	DOT 4 ブレーキクラッチフルード
クーラント.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
ベアリングとピボット.	NLGI 2 仕様を満たしたグリース
ファイナルドライブユニット. . .	Castrol SAF-XO（完全合成ハイポイドギアオイル）

仕様

このページは意図的に空白にしてあります

索引（あいうえお順）

安全 5
　整備 / 装備 8
　駐車 7
　日常の点検 69
　燃料と排気ガス 6
　ハンドルとフットレスト 9
　ヘルメットと防護服 6
　モーターサイクル 5
　ライディング 8
イグニッション 137
　スイッチ / ステアリングロック .. 45
ウィンドスクリーンの洗浄 131
エンジン
　エンジンの始動 73
　エンジンの停止 72
　仕様 135
　シリアル番号 15
エンジンオイル 93
　オイルとオイルフィルターの交換 94
　オイルレベルの点検 93
　使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分 95
　仕様と等級 96
ギア
　ギアチェンジ 74
クラッチ 100
　クラッチフルードレベルの点検と調整 100
クルーズコントロール 53
　クルーズコントロール中の加速 56
　クルーズコントロール中の減速 56
　クルーズコントロールの解除 56
計器盤
　Auto - 方向指示器の自動停止 .. 28
　スピードメーターとオドメーター 21
　タコメーター 21
　単位の変更 29
　時計の調整 30
　トリップメーター 22
警告
　警告・注意・注記 1
　警告ラベル 2
　警告ラベルの位置 10
警告灯 38
高速走行時の注意 81
シート 61
締付トルク 141
車体識別番号 (VIN) 15
重量 135
潤滑 136
新ブレーキパッドと新ブレーキディスクのすり合わせ運転 102
スタンド 59
　サイドスタンド 59
　センタースタンド 60
ステアリング（ヘッドストック）
　ベアリングの遊び点検 106
ステアリング／ホイールベアリング 105
寸法 135

索引（あいうえお順）

性能 136
洗車 129
　乾燥..... 132
　準備..... 129
　洗車後..... 130
　洗浄..... 132
　塗装されていないアルミニウム部品 131
　排気装置..... 132
　保護..... 132
　要注意箇所..... 130
タイヤ 110
　タイヤ空気圧..... 111
　タイヤの交換..... 114
　タイヤの磨耗..... 112
　トレッドの推奨最小深度..... 113
タイヤ空気圧モニタリングシステム..... 24
駐車 79
ツールキット、取扱説明書と Triumph アクセサリー D ロック 59
電装品 140
Triumph トラクションコントロール - 装着されている場合..... 31
トランスミッション 138
慣らし運転 68
燃料 137
燃料システム 137
燃料の条件 57
　燃料タンクへの給油..... 58
　燃料の等級..... 57
　フューエルタンクキャップ..... 58
バッテリー
　バッテリーの充電..... 119
　バッテリーの整備..... 118
　バッテリーの取り付け..... 120
　バッテリーの取り外し 117
　バッテリーの廃棄処分 118
左ハンドルスイッチ..... 49
　パスボタン 51
　フロントフォグランプスイッチ（装着されている場合)..... 51
　ヘッドライトディップスイッチ . 49
　ホーンボタン 50
　方向指示器スイッチ 50
ヒューズボックス..... 121
ファイナルドライブユニット..... 101
部品の名称..... 12
フルードと潤滑剤..... 141
ブレーキ..... 102
　ブレーキ操作 76
　ブレーキとクラッチレバーアジャスター..... 47
　ブレーキの磨耗点検 102
　ブレーキパッドの磨耗補正 103
　ブレーキライトスイッチ 105
フレーム..... 140
フロントサスペンション..... 107
　フロントサスペンションの設定..... 107
　フロントフォークの点検 107
フロントフォグランプ - 装着されている場合 126
　フロントフォグランプバルブの交換..... 126
ヘッドライト..... 123
　調整 124
　バルブの交換 125
方向指示器..... 128
保管
　保管後の走行準備 134
　保管前の準備 133

右ハンドルスイッチ 48
エンジンストップスイッチ..... 48
スターターボタン..... 48
リアサスペンション
スプリングプリロードの調整... 109
伸側減衰..... 110
リアサスペンションの調整 108
リアシート 61
リアライト / ライセンスプレー
トライト 128
冷却装置..... 96
クーラントの交換 98
クーラントレベルの調整 98
クーラントレベルの点検 97
腐食防止剤 96

索引（あいうえお順）

このページは意図的に空白にしてあります